

## 「生涯現役で豊かな人生を過ごす」ために



いつまでもいきいきと健やかに生活を送ることは、市民すべての願いです。

本市では、平成 19 年 3 月に「日置市元気な市民づくり運動推進計画」を策定し、基本目標（めざす姿）である「生涯現役で豊かな人生を過ごす」ために、地区公民館・自治会活動を主体とした地域づくりを中心に、行政と市民が協同して健康づくりを進めてまいりました。

また、平成 24 年度に「日置市健康づくり推進条例」を制定し、市民・地域・各種団体・行政が一体となって健康づくりを推進し、すべての市民が生涯を通して、健やかで豊かに過ごすことができる社会を目指して、市全体で現状や課題を共有し、協働して健康づくりに取り組んでいるところです。

近年の急速な高齢化による疾病構造の変化とともに、食生活の乱れや運動不足などの生活習慣に起因するがんや糖尿病、心疾患、脳卒中などの生活習慣病の増加、さらには生活習慣病の重症化による医療費の増大や認知症などによる要介護者の増加が深刻な課題であり、これまで以上に予防の視点に立った健康づくりが重要となってきています。

このようなことから、本市ではこれまでの取り組み状況の評価を行うとともに、国・県の方針等を踏まえ、平成 29 年度から平成 38 年度までを計画期間とした「第 2 次日置市元気な市民づくり運動推進計画」を策定しました。

本計画では、市民一人ひとりが健康意識を高め自主的に健康づくりに取り組んでいただくとともに、地域の支えあいを基盤とした健康づくり活動の環境を整え、子どもから高齢者まであらゆる世代の人が、「生涯現役で豊かな人生を過ごす」ことができるまちづくりを基本理念として掲げています。この計画に基づいて、市全体として健康づくりを推進してまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたりまして、貴重なご意見やご提言を賜りました日置市健康づくり推進協議会の委員の皆様をはじめ、アンケート調査にご協力いただいた多くの市民の皆様、関係機関、関係団体の方々に心から御礼を申し上げます。

平成 29 年 3 月

日置市長 **宮路高光**



# 目次

## 第1章 計画策定の趣旨等

1 策定の趣旨 .....	1
2 策定の背景 .....	1
3 計画の位置づけ.....	2
4 計画期間 .....	3

## 第2章 日置市の健康実態

1 総人口と高齢化率の推移.....	4
2 人口動態（自然動態）・平均寿命・死因.....	6
3 母子保健状況.....	10
4 各種健康診査受診状況.....	12
5 医療費（国民健康保険）の状況.....	18
6 介護事業 .....	20

## 第3章 第1次計画の評価と課題

1 数値目標の評価と課題 .....	23
2 分野別の評価と課題 .....	28
(1) 食・栄養 .....	28
(2) 身体活動・運動 .....	31
(3) 心・休養 .....	33
(4) 飲酒・喫煙 .....	36
(5) 歯科・口腔 .....	40
(6) 生活習慣病 .....	42
(7) 介護予防.....	49
(8) 地域づくり.....	54

## 第4章 計画の基本的な考え方

1 基本理念 .....	55
2 基本方針 .....	55
3 施策の体系 .....	56

## 第5章 分野別の取組み及び目標の設定

1 目標の設定と評価 .....	57
2 分野別の取組み .....	58
(1) 栄養・食生活 .....	58
(2) 身体活動・運動 .....	61
(3) 心・休養 .....	65
(4) 飲酒・喫煙 .....	68
(5) 歯科・口腔 .....	71
(6) 生活習慣病 .....	74
(7) 次世代 .....	78
(8) 介護予防 .....	81
(9) 地域づくり .....	84

## 第6章 計画の数値目標

1 QOL（生活の質） .....	87
2 健康水準 .....	87
3 健康行動 .....	87

## 第7章 計画の推進体制

1 「元気な市民づくり運動」推進体系図 .....	89
2 地域の推進体制と役割 .....	90
3 行政の推進体制と役割 .....	94

参考資料 .....	100
------------	-----

## 第 1 章 計画策定の趣旨等

### 1 策定の趣旨

本市では、平成 19 年に市民の健康づくり計画である『元気な市民づくり運動推進計画』を策定し、地域に密着した健康づくりの推進体制の構築を図るとともに、地域の自治会活動を中心とした活動が展開できるよう地域組織の構築・環境整備など、市民、関係機関・関係団体及び行政が一体的に取り組んできました。

この『元気な市民づくり運動推進計画』は、平成 27 年度に最終評価を行い終了となったことから、明らかになった課題や社会情勢の変化等を踏まえ、今後の市民の健康づくりを総合的に推進するため、新たに『第 2 次日置市元気な市民づくり運動推進計画』を策定するものです。

### 2 策定の背景

わが国は、急速な人口の高齢化とともに、疾病全体に占めるがんや脳卒中、心臓病、糖尿病等の生活習慣病の割合が増加しています。

こうした変化に対応し、すべての国民がすこやかで心豊かに生活できる活力ある社会とするために、国においては、平成 12 年に、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質の向上を目的として、「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）」を策定しました。県においても、平成 13 年に、県民の健康づくりを推進するための総合計画として、「健康かごしま 21」を策定しました。

以降、法的には、平成 15 年に「健康増進法」、平成 17 年には「食育基本法」、平成 19 年には「がん対策基本法」が施行されています。さらに、平成 20 年から内臓脂肪型肥満に着目したメタボリックシンドロームの概念を取り入れた医療制度の改革が行われるなど、健康に関する社会情勢は変化しております。

平均寿命が過去最高を記録し、世界一の長寿国となる一方で、少子高齢化の進展や生活習慣病の増加を背景に、「健康日本 21」は平成 23 年に最終評価を行い、平成 25 年に「21 世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本 21（第 2 次）」を策定し、新たな方針として「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」という視点が示されています。県においても平成 25 年に「心豊かに生涯を送れる健康長寿県の創造健康かごしま 21」（平成 25 年度～34 年度）を策定しています。

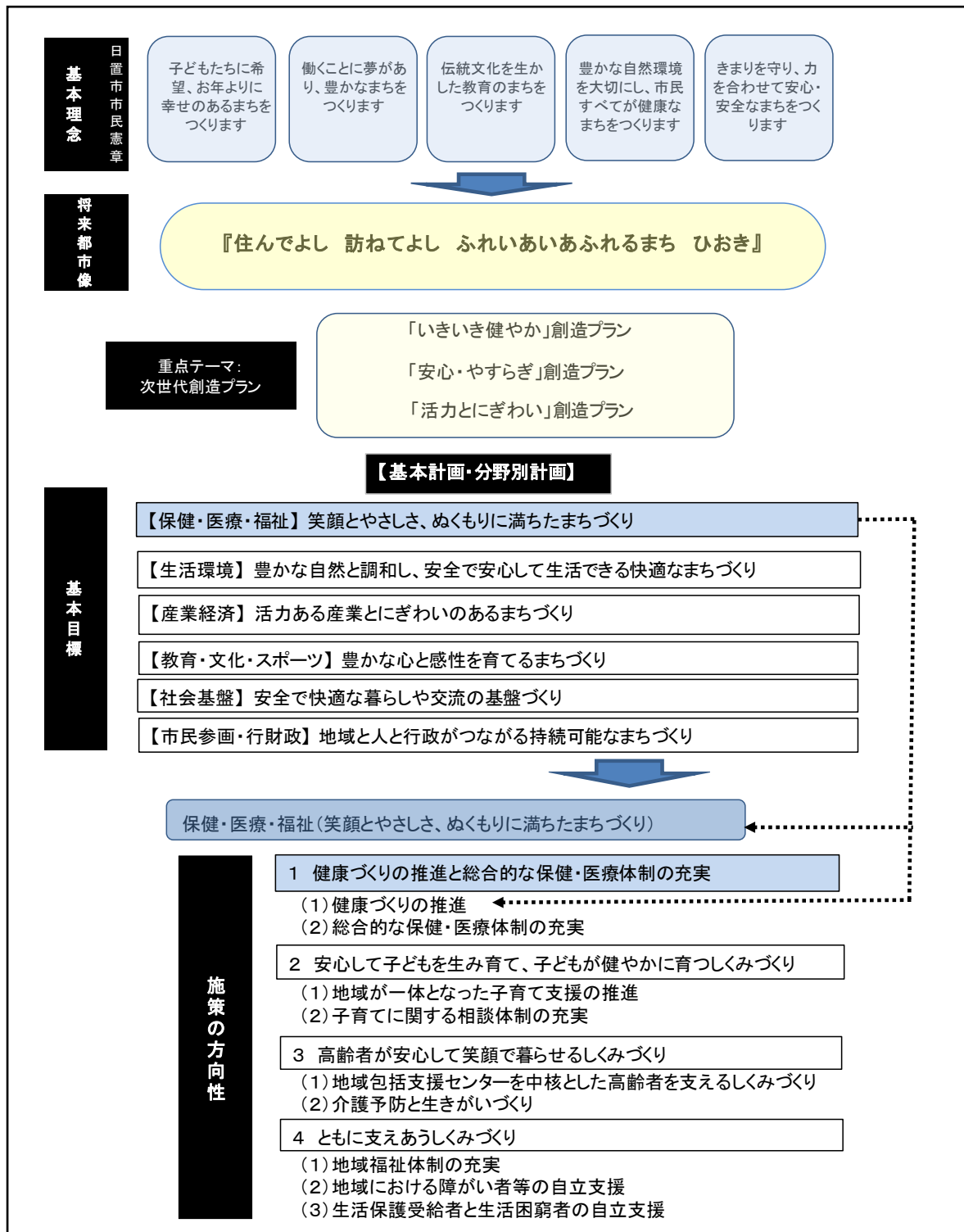
こうしたことを踏まえ、本市では、平成 19 年に「生涯現役で豊かな人生をすごすために『元気な市民づくり運動推進計画』（健康日本 21 市町村計画）」を策定し、その後中間評価、最終評価を実施し、今回、更なる健康増進と、これまでの進捗状況や課題を踏まえた『第 2 次日置市元気な市民づくり運動推進計画』（健康日本 21 市町村計画）」を策定します。

### 3 計画の位置づけ

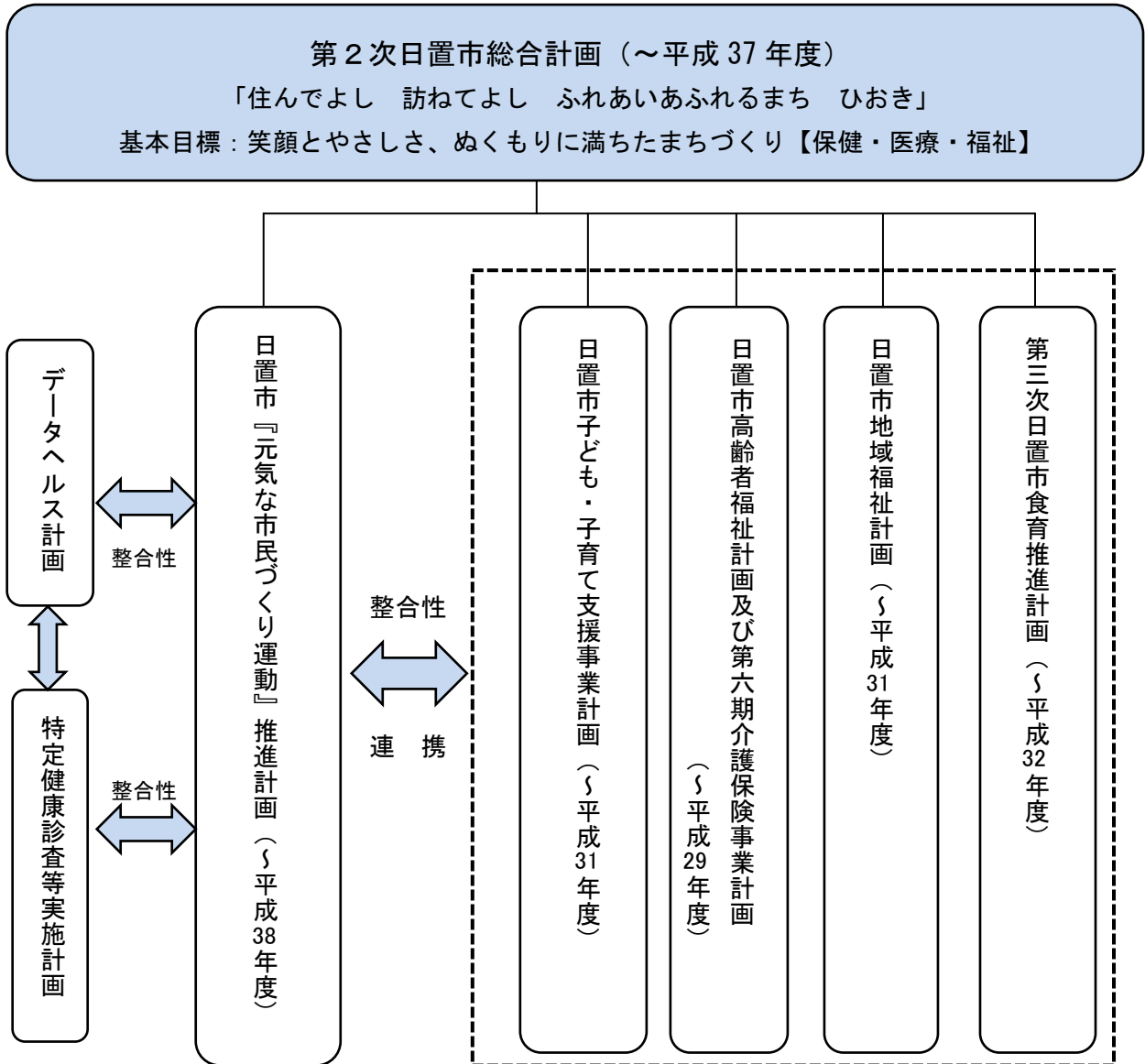
計画は、国の「健康日本21（第2次）」の地方計画及び健康増進法第8条第2項に基づく市町村健康増進計画に位置づけされます。

また、本市の行財政運営を総合的かつ計画的に進めるための最上位計画である「第2次日置市総合計画」の健康分野における個別計画として位置づけるとともに、県の「健康かごしま21（平成25～34年度）」や本市のその他の関連計画との整合性を図ります。

【第2次日置市総合計画の体系図】



【日置市『元気な市民づくり運動推進計画』の位置づけ】



4 計画期間

計画の期間は、平成29年度から平成38年度までの10年間とします。

なお、目標の評価については、改善効果を中間段階で確認できるように、目標設定後5年を目途に中間評価を行うとともに、目標設定後10年を目途に最終評価を行います。

【計画の期間】

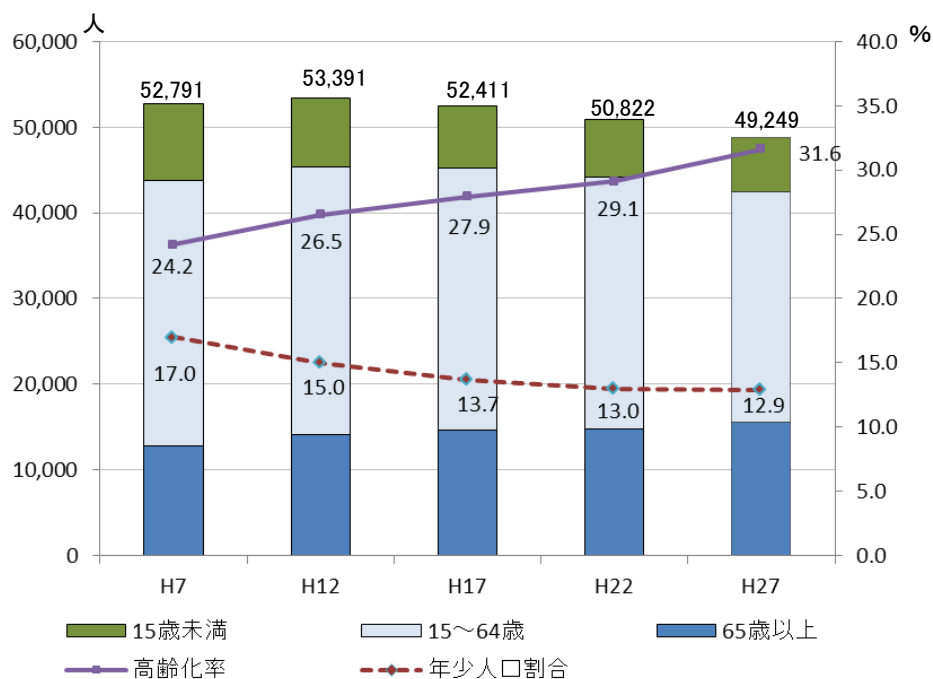
平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
第2次日置市『元気な市民づくり運動』推進計画									
				中間評価					最終評価

## 第2章 日置市の健康実態

### 1 総人口と高齢化率の推移

本市の総人口は、49,249人（平成27年国勢調査）で、平成22年の国勢調査からは、やや減少し5万人を割り込んでいます。年齢3区分人口をみると、高齢者人口は15,569人と増加している反面、年少人口は6,341人に減少しており、一段と少子高齢化が進んでいる状況です。また、高齢化率は、日置市の31.6%に対し、国26.6%、県29.4%となっています。

【年齢3区分人口及び高齢化率、年少人口割合の推移】



資料：国勢調査（各年、10月1日現在）、H27年は年齢不詳430人含む

（単位：人、%）

		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総人口		52,791	53,391	52,411	50,822	49,249
年少人口(0～14歳)		8,962	8,025	7,205	6,611	6,341
生産年齢人口(15～64歳)		31,083	31,239	30,595	29,407	26,909
高齢者人口(65歳以上)		12,791	14,127	14,605	14,801	15,569
(前期高齢者(65～74歳))		7,240	7,424	6,741	6,118	6,880
(後期高齢者(75歳以上))		5,551	6,703	7,864	8,683	8,689
高齢化率	日置市	24.2	26.5	27.9	29.1	31.6
	(前期高齢者)	13.7	13.9	12.9	12.0	14.0
	(後期高齢者)	10.5	12.6	15.0	17.1	17.6
	県	19.7	22.6	24.8	26.5	29.4
	国	14.5	17.5	20.1	23.0	26.6
地域ごとの人口		東市来	伊集院	日吉	吹上	日置市計
地域ごとの高齢化率		11,704	24,593	4,918	8,034	49,249
		37.3	25.1	38.1	39.1	31.6

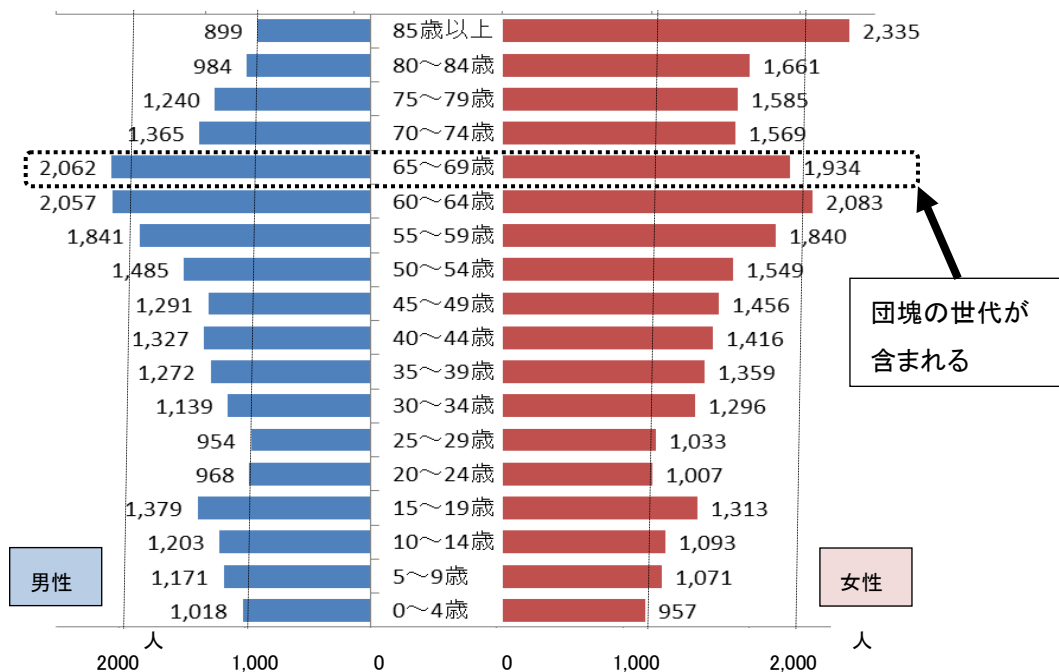
資料：国勢調査（各年、10月1日現在）、H27年は年齢不詳430人含む



人口ピラミッドをみると、男女とも60代が多いですが、女性では85歳以上が2,335人と男性の2.6倍と高くなっています。計画期間内には、いわゆる団塊の世代（昭和22～24年生まれ）が後期高齢者（75歳以上）となってくることが推測されます。

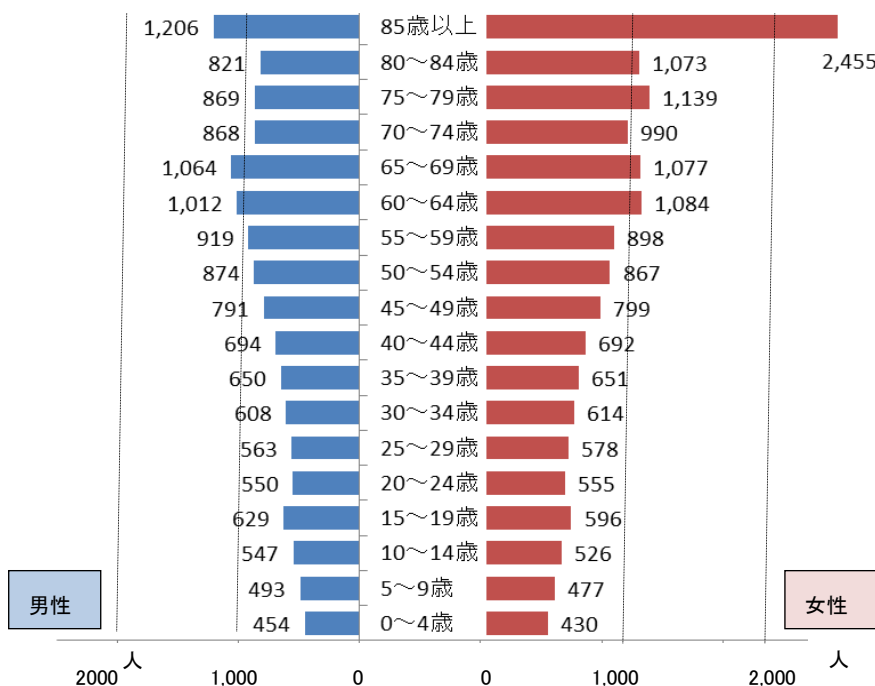
なお、国立社会保障・人口問題研究所によると、2060年（平成72年）には、総人口が29,111人、高齢化率39.7%と推計されています。

【人口ピラミッド：平成27年(2015年)】



資料：「2015 日置市統計」より作成(平成27年10月1日現在)

【人口ピラミッド：平成72年(2060年)】



資料：平成27年10月「日置市人口ビジョン」(原典は国立社会保障・人口問題研究所推計値)

## 2 人口動態（自然動態）・平均寿命・死因

### (1)人口動態(自然動態)

平成19年からの人口動態（自然動態）をみると、出生者数は400人前後で、近年やや増加傾向にあり、死亡者数は700人前後で推移しています。差引では300人前後の減少となり、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」の状況が続いています。

【人口動態(自然動態)】

(単位：人)

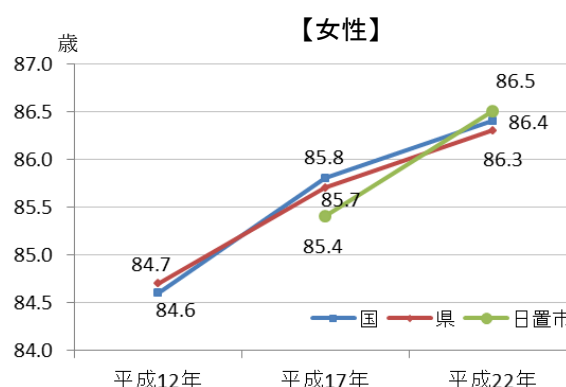
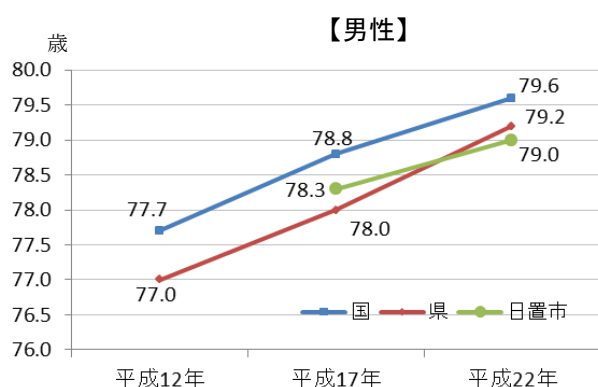
	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
出生者数(A)	393	421	350	367	401	339	340	363	396
死亡者数(B)	685	652	614	678	770	682	691	675	702
増減 (A)-(B)	-292	-231	-264	-311	-369	-343	-351	-312	-306

資料:「2015 日置市の統計」(住民基本台帳)

### (2)平均寿命

平均寿命(0歳ちょうどの者のその後の生存年数の期待値)は、男性が79.0歳、女性が86.5歳であり、女性が男性を7.5歳上回っています。国・県と比較すると男性は下回り、女性はわずかながら国・県を上回っています。

【平均寿命の推移】

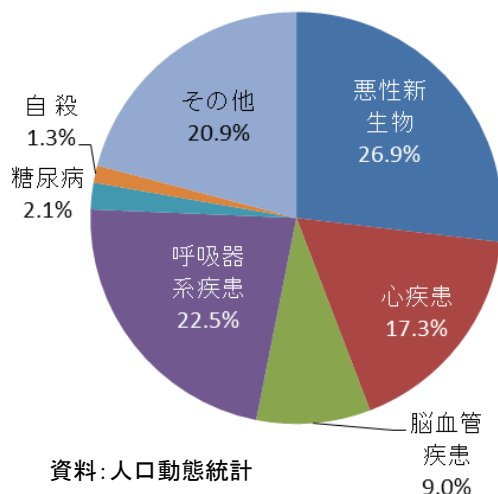


資料:厚生労働省「生命表(加工統計)」より作成

### (3)死因

本市の主要死因別の割合は、悪性新生物（がん）、呼吸器系疾患等が高く、三大生活習慣病（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）で半数以上を占めています。性別では、悪性新生物が男性 31.8%（女性 22.6%）、心疾患で男性 13.8%（女性 20.3%）と違いがみられます。

【主要死因別割合(平成 26 年)】



【死亡数、性別・死因(死因分類)】

(単位:人、%)

		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年		平成26年	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
三大生活習慣病	悪性新生物	189	27.7	209	27.0	158	23.3	179	25.5	180	26.9
	男性	106	30.4	100	26.9	94	28.7	97	31.4	99	31.8
	女性	83	24.9	109	27.2	64	18.2	82	20.9	81	22.6
	心疾患	115	16.9	117	15.1	125	18.4	114	16.3	116	17.3
	男性	49	14.0	51	13.7	53	16.2	37	12.0	43	13.8
	女性	66	19.8	66	16.5	72	20.5	77	19.6	73	20.3
	脳血管疾患	74	10.9	87	11.3	74	10.9	69	9.8	60	9.0
	男性	36	10.3	42	11.3	31	9.5	28	9.1	28	9.0
女性	38	11.4	45	11.2	43	12.2	41	10.5	32	8.9	
	呼吸器系疾患	133	19.5	160	20.7	153	22.5	155	22.1	151	22.5
	男性	73	20.9	84	22.6	73	22.3	72	23.3	66	21.2
	女性	60	18.0	76	19.0	80	22.7	83	21.2	85	23.7
	腎不全	18	2.6	11	1.4	17	2.5	16	2.3	20	3.0
	男性	9	2.6	5	1.3	11	3.4	6	1.9	7	2.3
	女性	9	2.7	6	1.5	6	1.7	10	2.6	13	3.6
	自殺	13	1.9	15	1.9	6	0.9	10	1.4	9	1.3
	男性	11	3.2	12	3.2	2	0.6	9	2.9	8	2.6
	女性	2	0.6	3	0.7	4	1.1	1	0.3	1	0.3
	その他	140	20.5	174	22.5	146	21.5	158	22.5	134	20.0
	男性	65	18.6	78	21.0	63	19.3	60	19.4	60	19.3
	女性	75	22.5	96	23.9	83	23.6	98	25.0	74	20.6
	総数	682	100.0	773	100.0	679	100.0	701	100.0	670	100.0
	男性	349	100.0	372	100.0	327	100.0	309	100.0	311	100.0
	女性	333	100.0	401	100.0	352	100.0	392	100.0	359	100.0

資料:人口動態統計

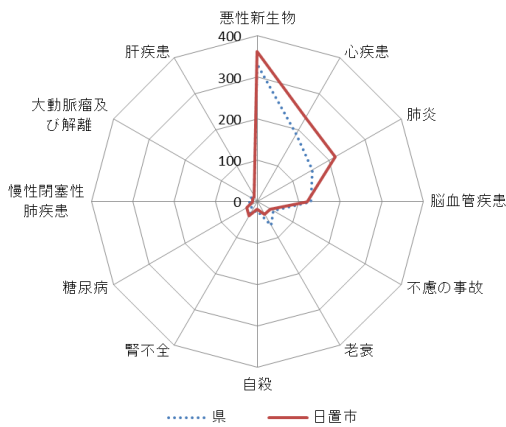
人口 10 万人当たりで見ると、死因別に悪性新生物、心疾患、肺炎、腎不全、糖尿病等で、県全体のデータを大きく上回っています。

【主要死因別データ(平成 26 年:人口 10 万人対)】

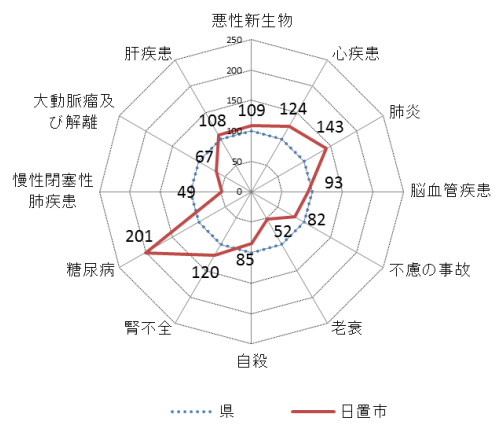
	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	不慮の事故	老衰
県	332.5	188.6	152.5	129.9	44.5	66.3
日置市	362.8	233.8	217.7	120.9	36.6	34.3
	自殺	腎不全	糖尿病	慢性閉塞性肺疾患	大動脈瘤及び解離	肝疾患
県	21.3	33.6	14.0	20.6	18.0	13.1
日置市	18.1	40.3	28.2	10.1	12.1	14.1

資料:人口動態統計

■ 県及び本市の死因別データ  
(平成 26 年:人口 10 万人対)



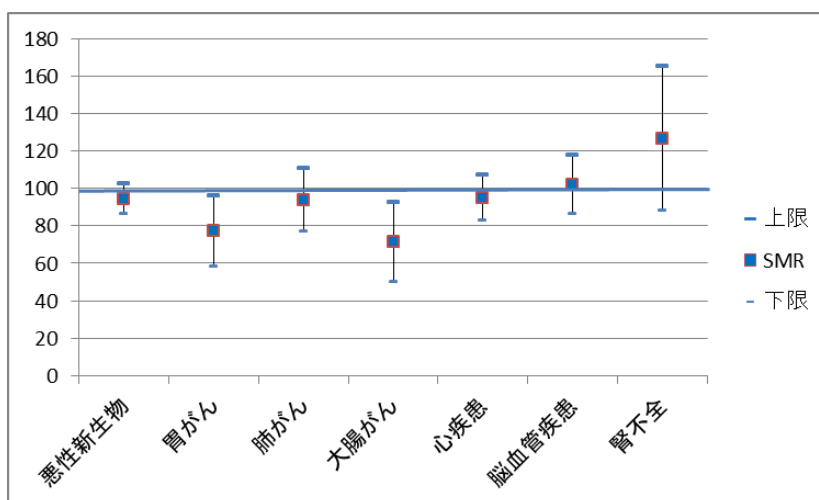
■ 県=100 とした本市の指数



資料:人口動態統計をもとに作成

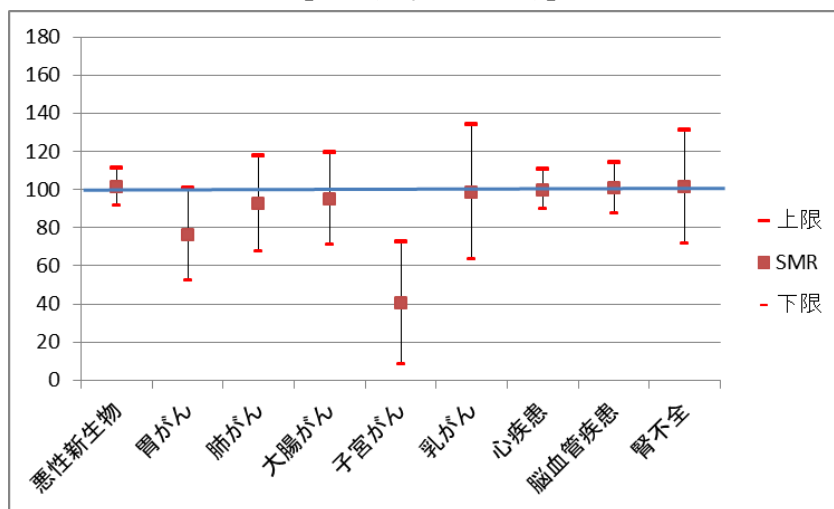
SMR（標準化死亡比）※1 をみると、男性では脳血管疾患、腎不全、女性ではこの2疾患に加え、悪性新生物も 100 を上回っています。

【SMR(男性:H21-25)】



男性	悪性新生物	胃がん	肺がん	大腸がん	心疾患	脳血管疾患	腎不全
上限	102.6	96.3	110.6	92.4	106.9	117.8	165.3
SMR	94.3	77.1	93.8	71.2	94.6	102.1	126.6
下限	86.0	57.9	76.9	49.9	82.3	86.3	87.8

【SMR(女性:H21-25)】



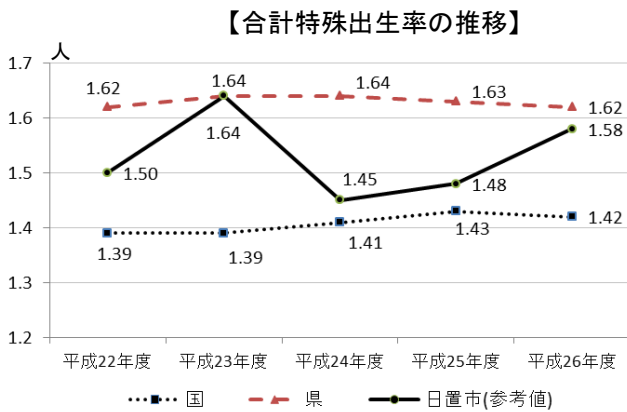
女性	悪性新生物	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん	心疾患	脳血管疾患	腎不全
上限	111.1	100.5	117.6	119.6	72.7	133.9	110.4	114.3	131.1
SMR	101.3	76.3	92.4	95.1	40.4	98.6	99.8	100.7	101.2
下限	91.5	52.0	67.3	70.6	8.1	63.3	89.3	87	71.3

資料: 健康保険課

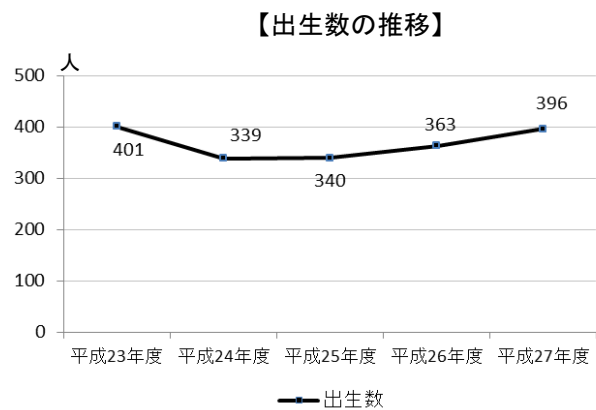
※1: 性、地域ごとに「全国の年齢階層別死亡率で死亡した時のその地域の期待死亡数」に対する「実際の死亡数」の比を 100 倍して算出している。したがって、年齢構成の違いの影響を除いて死亡状況を表すものであり、地域比較に用いている。標準化死亡比が 100 より大きい場合、その地域の死亡率は全国より高いとされ、100 より小さい場合、全国より低いと判断される。

### 3 母子保健状況

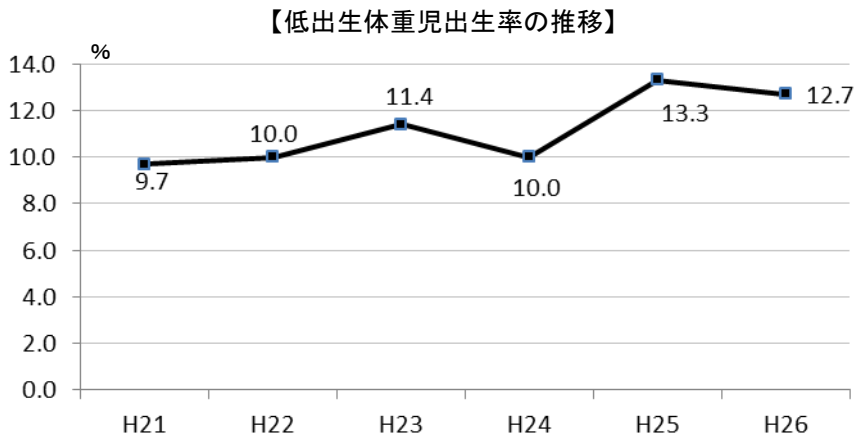
合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む平均の子どもの数）をみると、直近5年間で1.45から1.64の間で推移しています。平成26年度は1.58となり、国に比べ0.16人多いものの、県よりはやや低いという状況です。出生数については、平成27年度は396人で直近3年間は、増加傾向となっています。なお、低出生体重児出生率は、平成26年で12.7%となり、前年よりは0.6ポイント減少していますが、傾向としてやや増加してきています。



資料:人口動態統計



資料:「2015 日置市の統計」



資料:健康保険課

乳幼児健康診査の受診率は、地域別にややバラツキがありますが、市全体では90%台後半となっています。

また、虫歯の保有率状況を見ると、1歳6か月児健診において国・県の割合をやや上回っていますが、3歳児健診においては、県より低く、下降傾向にあります。

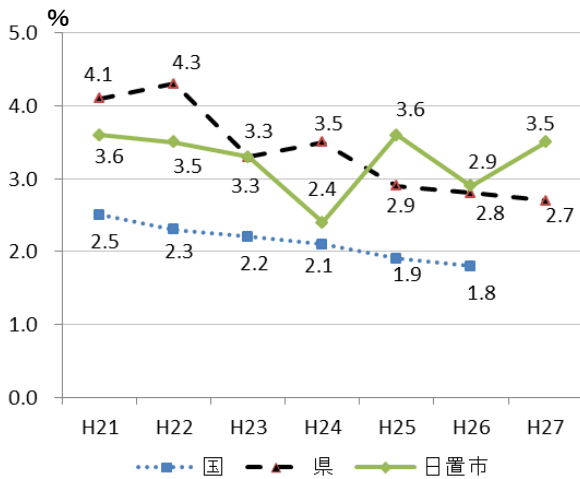
【乳幼児健康診査受診率(地域別)】

(単位:%)

各健診受診率	伊集院	東市来	日吉	吹上	日置市
3～5か月児健診	99.6	100.0	91.7	89.1	98.0
6～8か月健診	98.3	98.9	88.2	87.8	96.7
1歳6か月児健診	97.5	100.0	100.0	95.6	98.0
3歳児健診	96.3	93.0	100.0	96.2	96.0

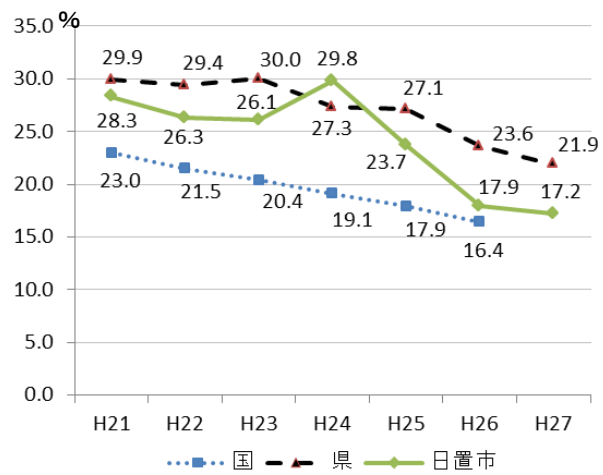
資料:健康保険課

【1歳6か月児健診におけるむし歯保有率の推移】



資料:健康保険課

【3歳児健診における虫歯保有率の推移】



資料:健康保険課

## 4 各種健康診査受診状況

### (1) 日置市国民健康保険特定健診・特定保健指導の受診及び実施状況

特定健診の受診状況をみると、近年では上昇傾向にあり、県との比較でも 20 ポイント以上上回る状況となっています。性別・年代別の受診率は、すべての年代で女性が高く、年齢が上がるにつれ高くなる傾向にあります。

また、特定保健指導の終了率は、平成 23 年度に比べ対象者数が増加したこともあり、県データを下回っていますが、ここ数年、水準としては上昇傾向にあります。

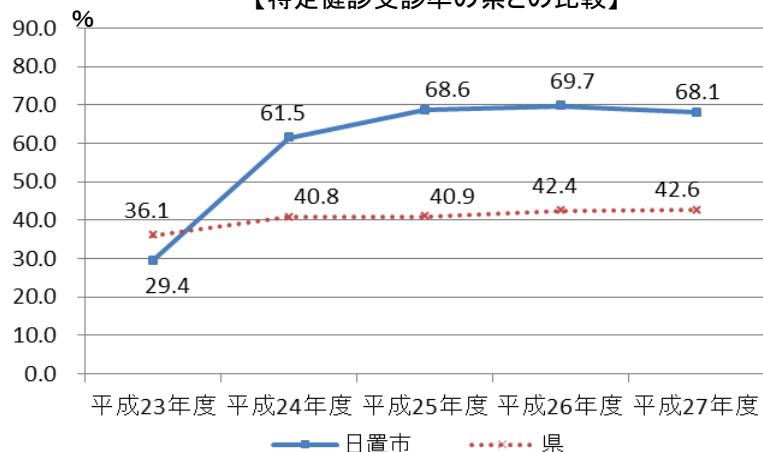
【特定健診の受診率】

(単位:人)

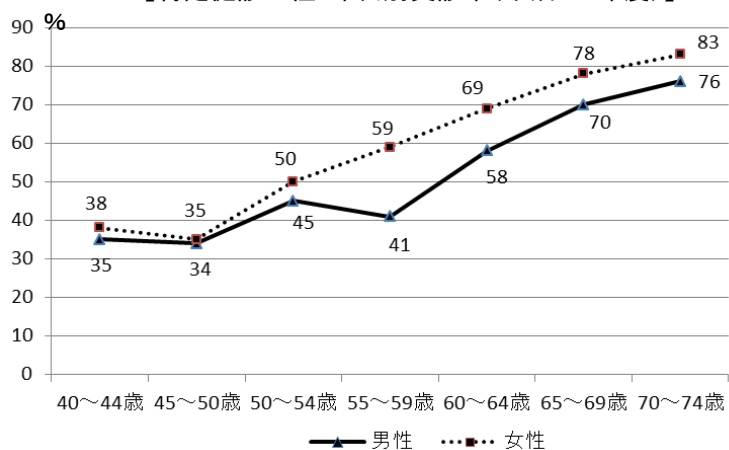
年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
特定健診	対象者数	9,064	8,965	8,794	8,793	8,673
	受診者数	2,669	5,458	6,036	6,132	5,902
	受診率	29.4%	61.5%	68.6%	69.7%	68.1%
	※参考受診率(県)	36.1%	40.8%	40.9%	42.4%	42.6%

資料:健康保険課

【特定健診受診率の県との比較】



【特定健診の性・年代別受診率(平成 26 年度)】





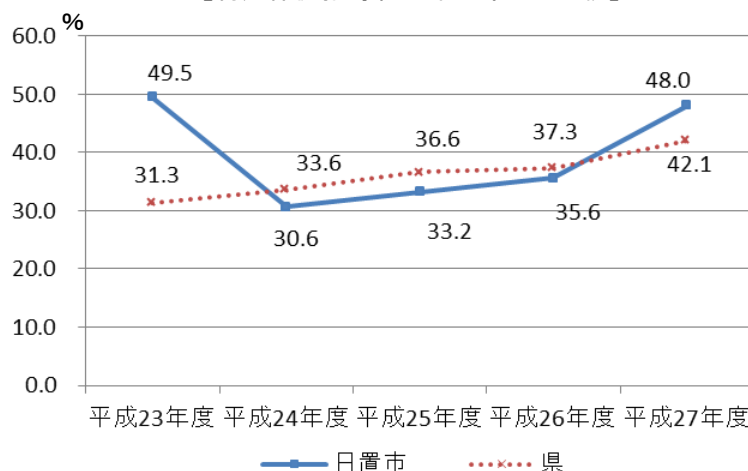
【特定保健指導の終了率】

(単位:人)

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
特定保健指導	対象者数	374	676	668	699	621
	実施者数	185	217	222	249	298
	終了率	49.5%	30.6%	33.2%	35.6%	48.0%
	※参考 終了率(県)	31.3%	33.6%	36.6%	37.3%	42.1%

資料:健康保険課

【特定保健指導終了率の県との比較】

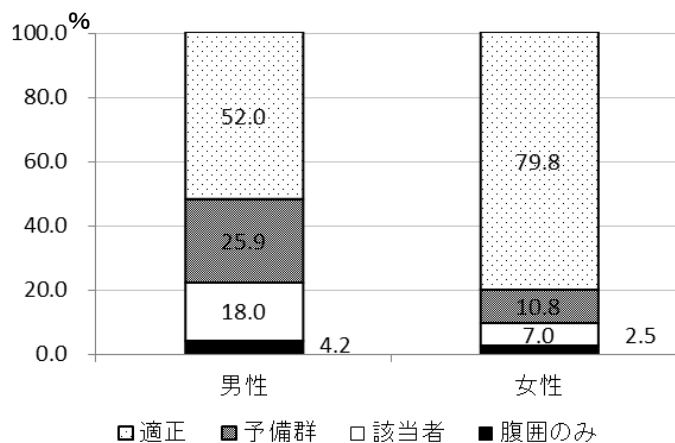


資料:健康保険課

## (2) 特定健診の結果について(平成 26 年度)

特定健診の結果(メタボリックシンドローム)について、女性は適正が約8割を占めている反面、男性では予備群が25.9%、該当者は18.0%と高い割合となっています。国や県と比較した各項目別には図のとおりで、例えば、BMI25.0以上で男性40歳~64歳が高い割合を示しているなど、留意すべきデータが散見されます。

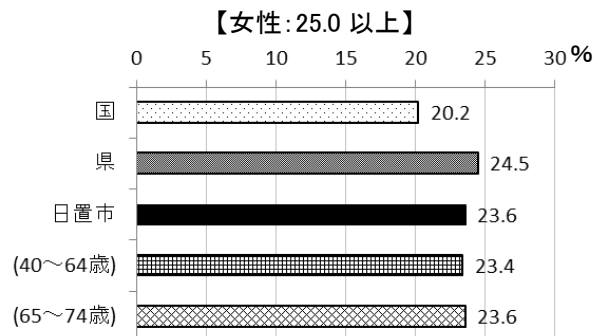
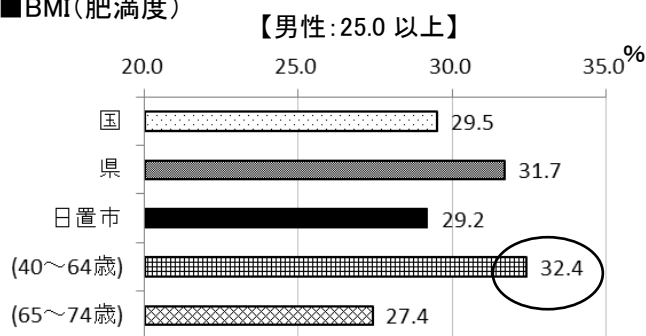
【メタボリックシンドローム判定結果:平成26年度】



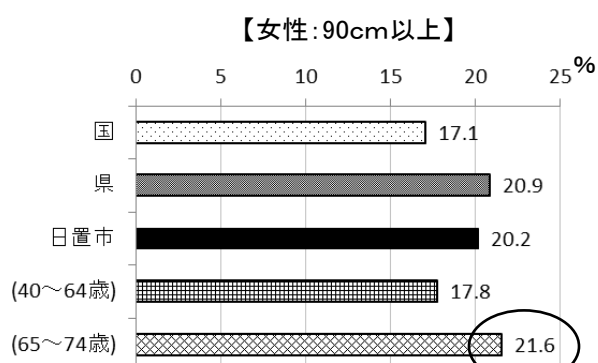
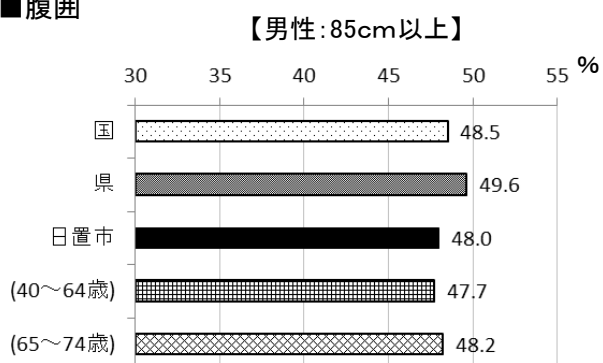
資料:健康保険課

【国・県と本市年代別割合の比較 以下、資料は健康保険課】

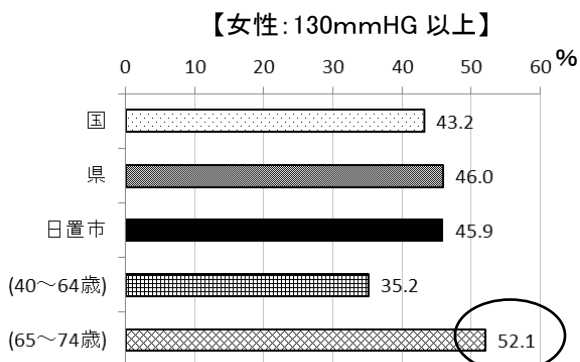
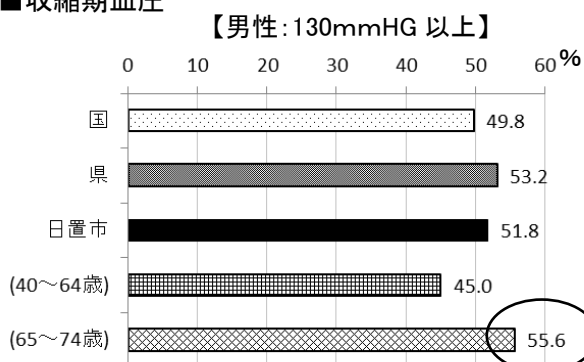
■BMI(肥満度)



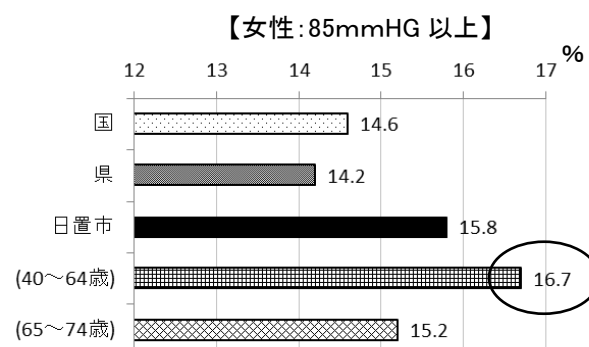
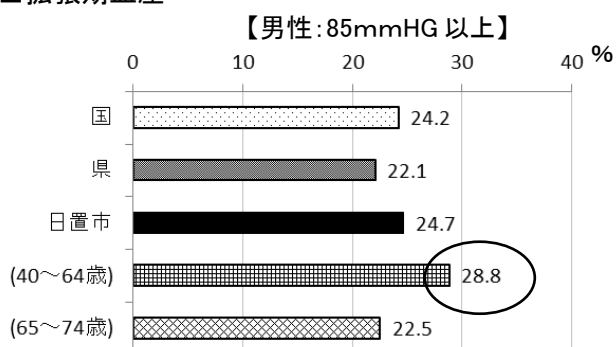
■腹囲



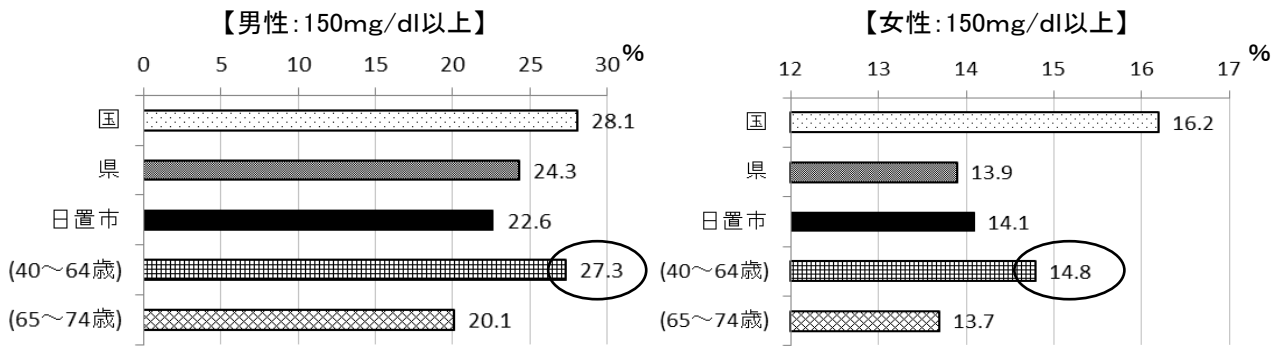
■収縮期血圧



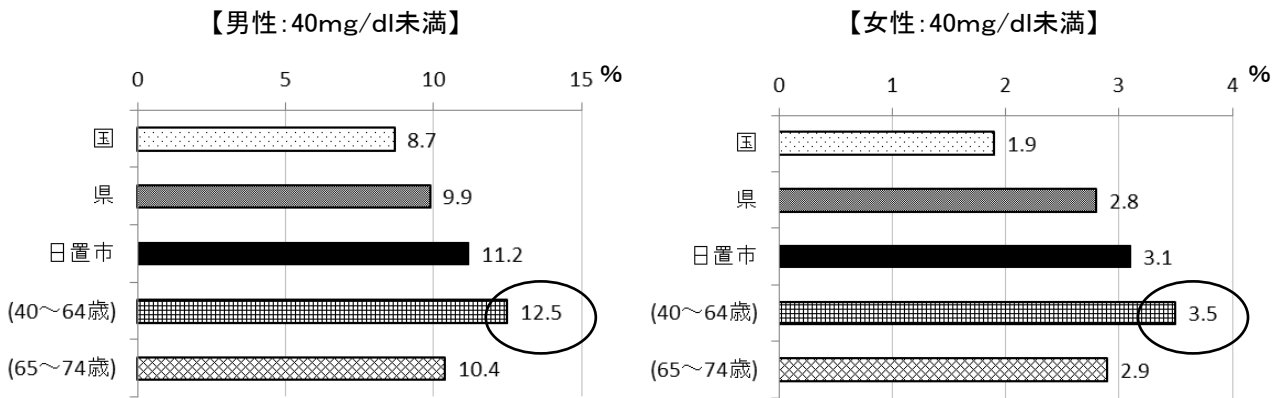
■拡張期血圧



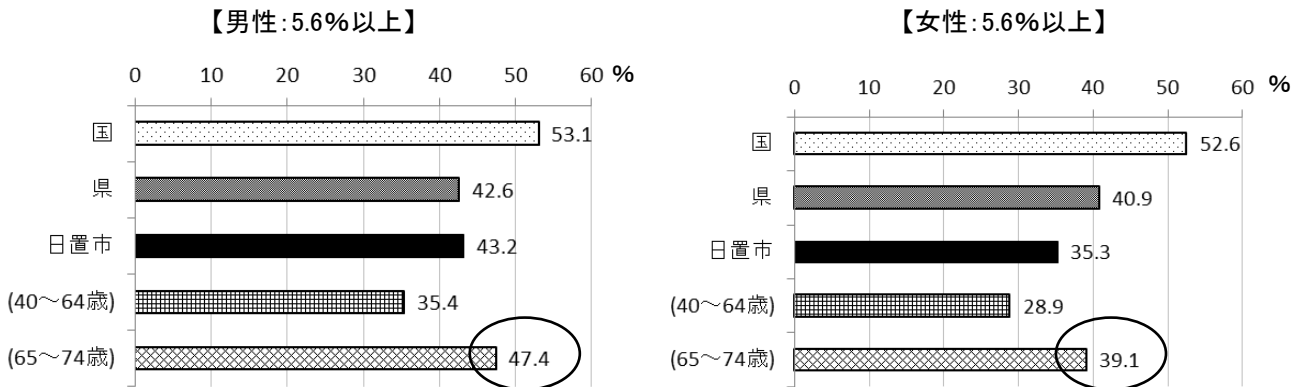
■ 中性脂肪(脂質検査)



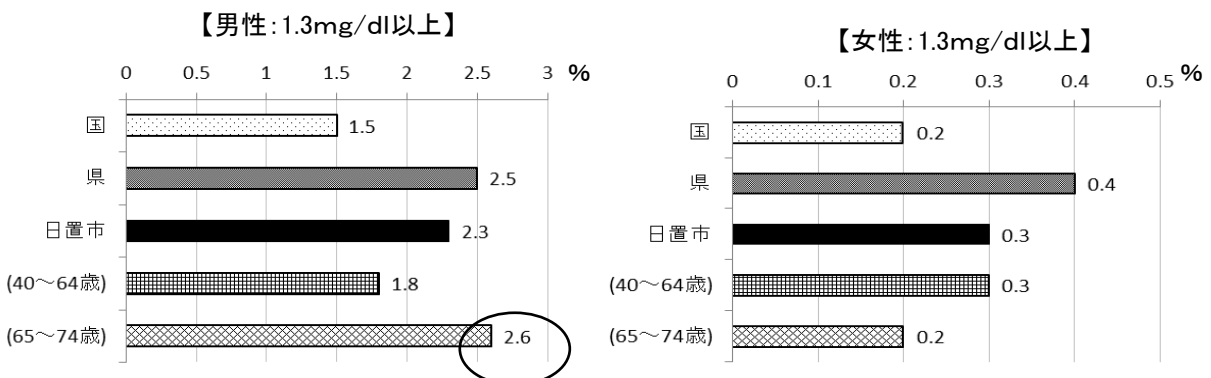
■ HDL-コレステロール(脂質検査)



■ HbA1c(糖尿病に関する検査)



■ クレアチニン(腎機能検査)



### (3) がん検診の受診状況

がん検診の受診率の推移をみると、近年減少傾向でしたが平成 27 年度の受診率は、乳がん検診を除き、前年度に比べ上昇しています。

なお、要精密検査の受診状況では、大腸がんで約8割にとどまっている以外、胃がん、肺がん、子宮頸がん、乳がんでは90%を超える受診率となっています。

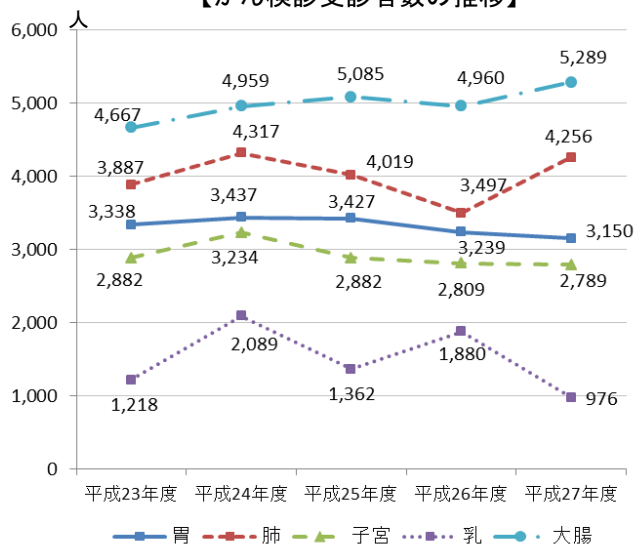
【各種がん検診の受診状況】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
胃がん検診	対象者数(人)	16,204	15,766	20,896	22,650	17,925
	受診者数(人)	3,338	3,437	3,427	3,239	3,150
	受診率(%)	20.6	21.8	16.4	14.3	17.6
肺がん検診	対象者数(人)	17,199	16,863	21,378	18,405	18,592
	受診者数(人)	3,887	4,317	4,019	3,497	4,256
	受診率(%)	22.6	25.6	18.8	19.0	22.9
子宮頸がん検診	対象者数(人)	12,264	13,040	16,282	17,024	13,860
	受診者数(人)	2,882	3,234	2,882	2,809	2,789
	受診率(%)	23.5	24.8	17.7	16.5	20.1
乳がん検診	対象者数(人)	12,059	12,216	6,455	8,664	5,287
	受診者数(人)	1,218	2,089	1,362	1,880	976
	受診率(%)	10.1	17.1	21.1	21.7	18.5
大腸がん検診	対象者数(人)	17,414	16,983	22,109	23,961	19,365
	受診者数(人)	4,667	4,959	5,085	4,960	5,289
	受診率(%)	26.8	29.2	23.0	20.7	27.3

注：乳がん検診は、各年実施のため地域で人口差あり(H27:日吉・吹上地域、H26:伊集院・東市来地域)

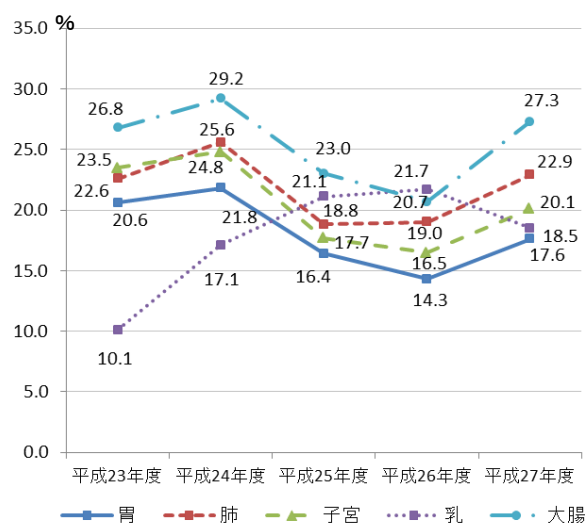
資料:健康保険課

【がん検診受診者数の推移】



資料:健康保険課

【がん検診受診率の推移】



【H26 年度の要精密者の状況】

(単位:人、%)

	胃がん	大腸がん	肺がん	子宮がん	乳
受診者数	3,239	4,960	3,497	2,809	1,880
要精密者数	363	274	96	30	85
要精密検査 受診者数	338	219	90	29	82
要精密検査 受診率	93.1	79.9	93.8	96.7	96.5
がん発見・ がんの疑いの者	4	6	6	3+異形成10	7

注:異形成:がんでは無いものの、正常細胞では無い変化した状態(経過観察を要する)

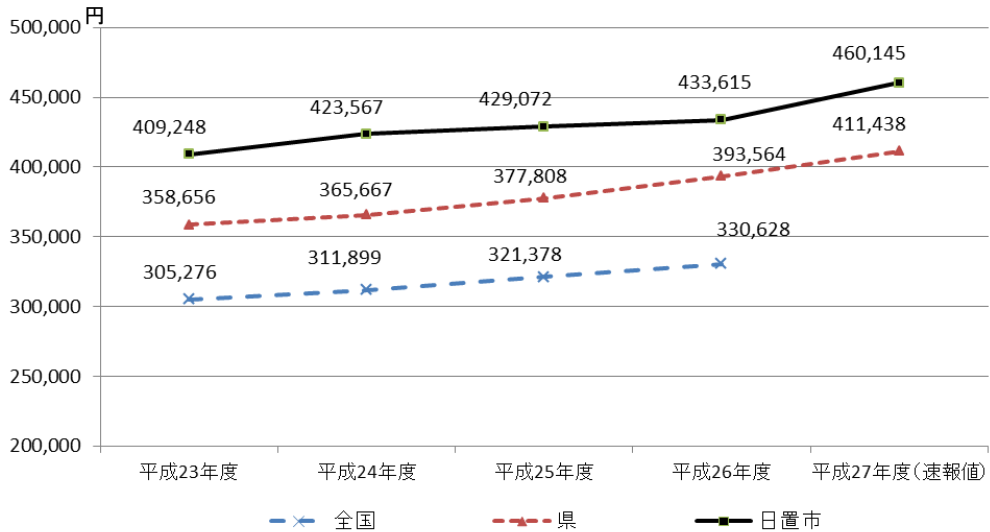
資料:健康保険課



## 5 医療費(国民健康保険)の状況

国民健康保険被保険者1人当たり医療費は、国、県の水準を上回り、年々増加傾向にあります。本市の場合、国、県と比べ、高齢化が進展してきていることや入院医療費の占める割合が高いなどの影響が考えられます。

【国保被保険者1人当たり医療費の推移】

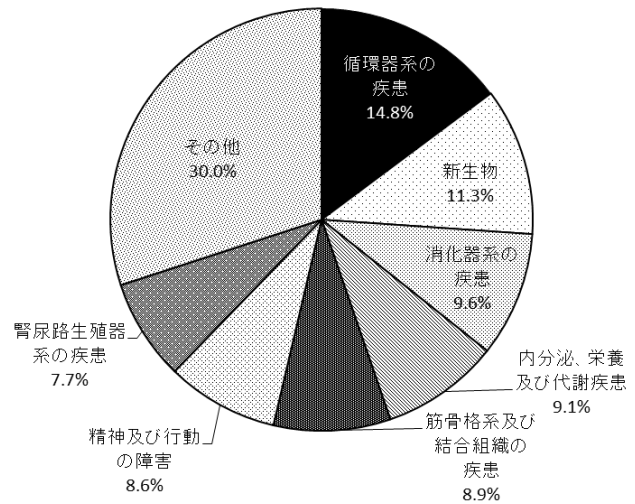


資料: 健康保険課

【医療費(総計)の内訳(平成26年3月～平成27年2月診療分)】

医療費(国民健康保険)総計の上位5疾病は、  
 ①循環器系の疾患  
 ②新生物  
 ③消化器系の疾患  
 ④内分泌、栄養及び代謝疾患  
 ⑤筋骨格系及び結合組織の疾患  
 の順となっています。

医療費では最も多い循環器系の疾患が、7億1,200万円、5位の筋骨格系及び結合組織の疾患で4億3,034万円、総額では48億1,251万円という状況です。



資料: 健康保険課

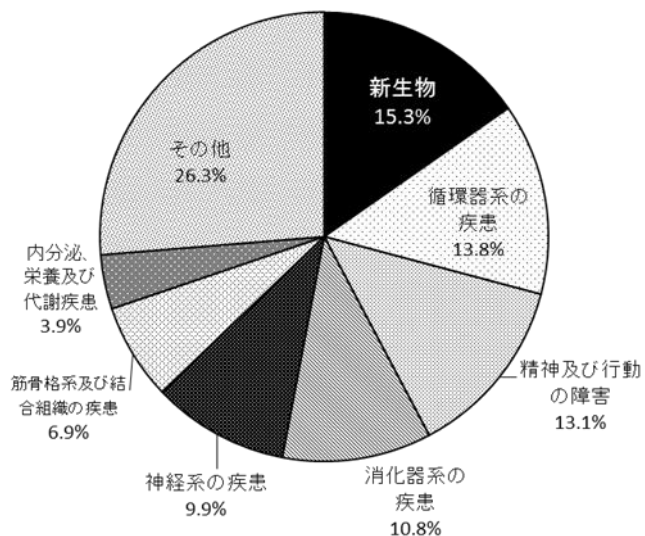
【入院費用額内訳(平成 26 年3月～平成 27 年2月診療分)】

入院費用額の上位5疾病は、

- ①新生物
- ②循環器系の疾患
- ③精神及び行動の障害
- ④消化器系の疾患
- ⑤神経系の疾患

の順となっています。

医療費では最も多い新生物が、3億4,986万円、5位の神経系の疾患で2億2,579万円、総額では22億8,449万円という状況です。



資料:健康保険課

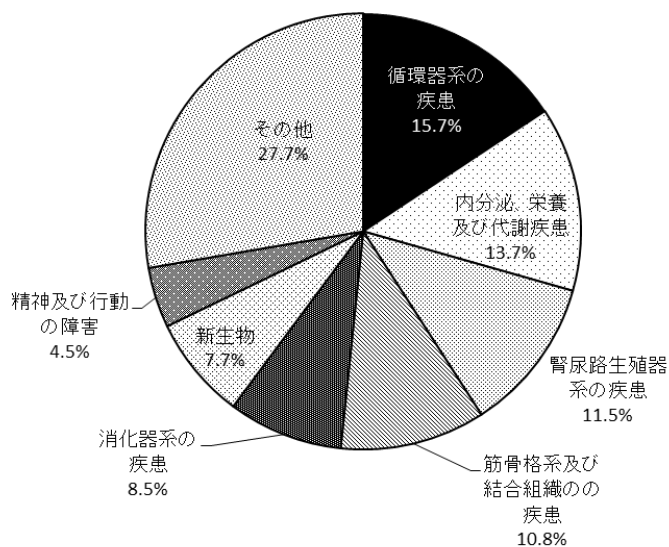
【入院外費用額内訳(平成 26 年3月～平成 27 年2月診療分)】

入院外費用額の上位5疾病は、

- ①循環器系の疾患
- ②内分泌、栄養及び代謝疾患
- ③腎尿路生殖器系の疾患
- ④筋骨格系及び結合組織の疾患
- ⑤消化器系の疾患

の順となっています。

医療費では最も多い循環器系の疾患が、3億9,643万円、5位の消化器系の疾患で2億1,518万円、総額では25億2,801万円という状況です。



資料:健康保険課

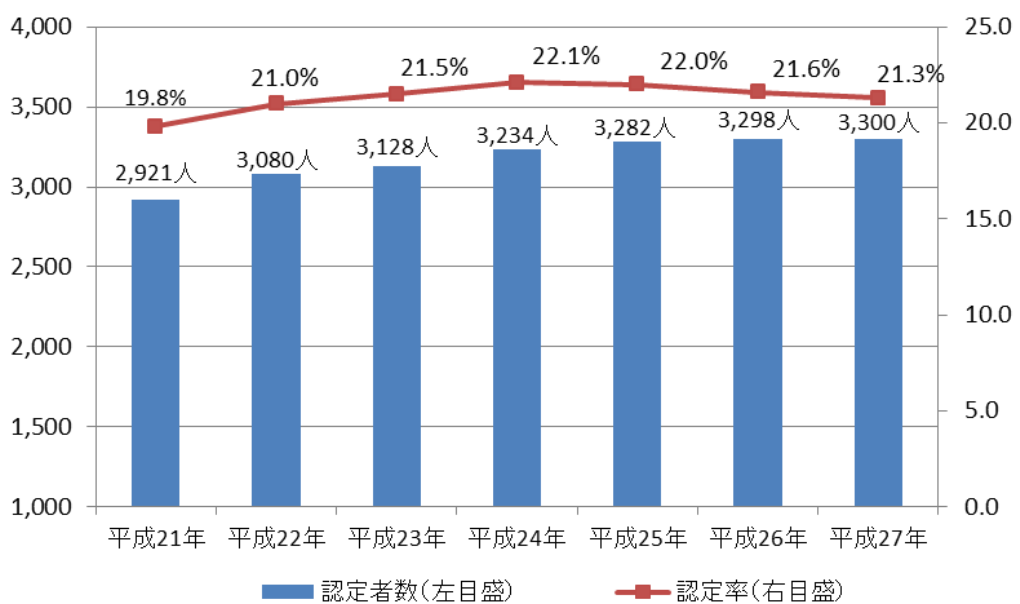
## 6 介護事業

### (1) 要介護(要支援)認定者数及び認定率

65歳以上の要介護(要支援)認定者数は、平成22年に3,000人を超え、平成27年には3,300人と年々増加傾向にあります。また、認定率は、この数年間20%台で推移しており、平成27年では前年より若干低下し21.3%という状況です。

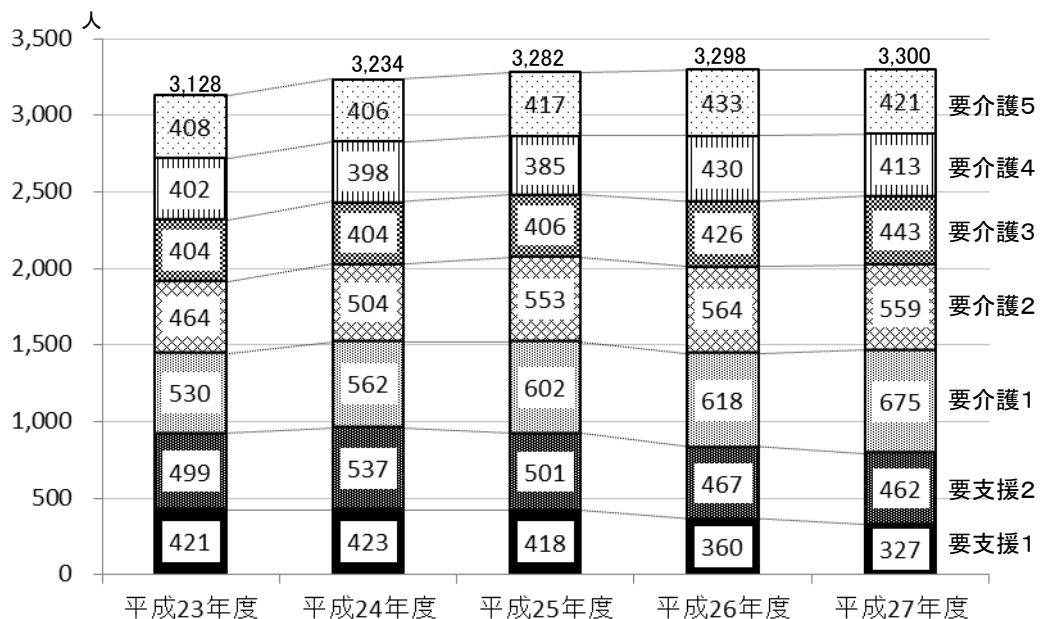
介護度別にみると、要支援1・2は減少している反面、要介護1(平成23年度530人→平成27年度675人)、要介護2(同464人→559人)は、大幅に増加しています。

【65歳以上の要介護(要支援)認定者数及び認定率の推移】



資料:介護保険課

【65歳以上の要介護(要支援)度別認定者数の推移(各年度9月末現在)】



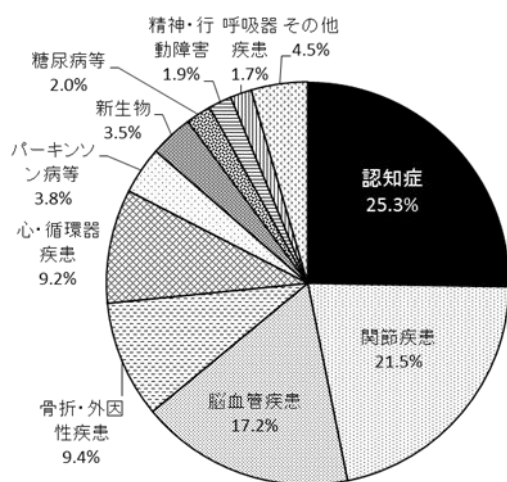
資料:介護保険課



## (2) 要介護認定者の傷病(診断)の状況

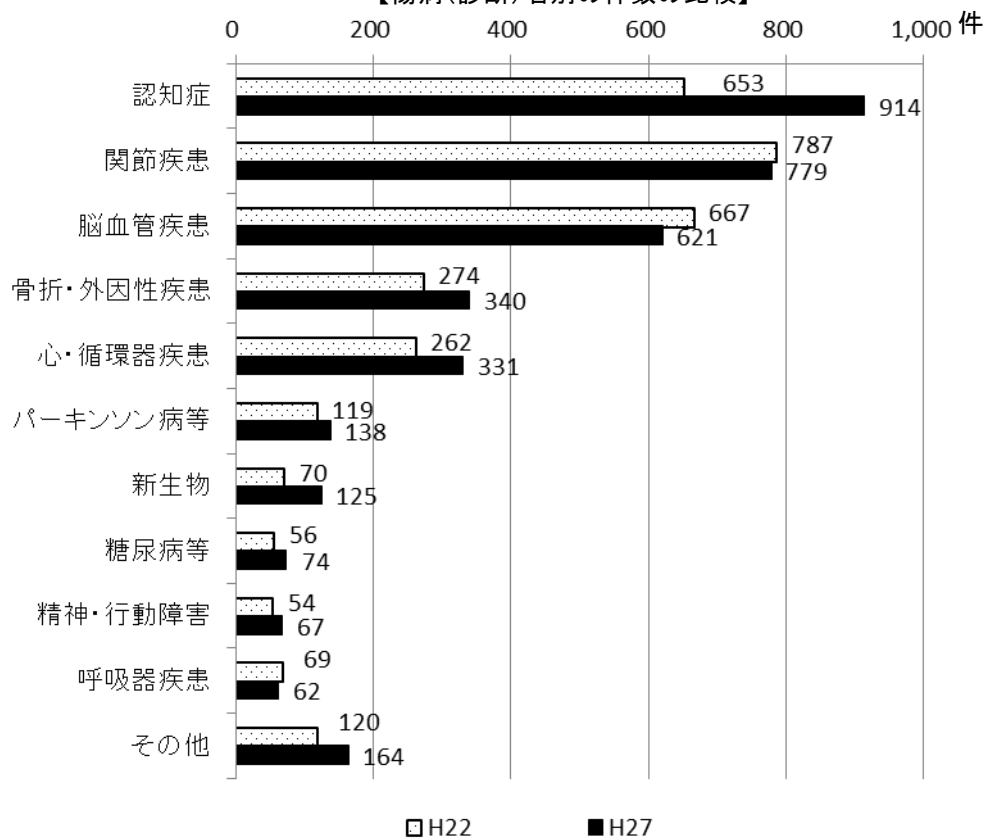
要介護者認定者の傷病(診断)名の内訳をみると、認知症が25.3%で最も多く、次いで、関節疾患、脳血管疾患、骨折・外因性疾患の順となっています。平成22年との比較では、関節疾患、脳血管疾患が減少した反面、認知症、骨折・外因性疾患、心・循環器疾患が大きく増加しています。

【要介護認定者の傷病(診断)名の割合(H27年度)】



資料:介護保険課

【傷病(診断)名別の件数の比較】

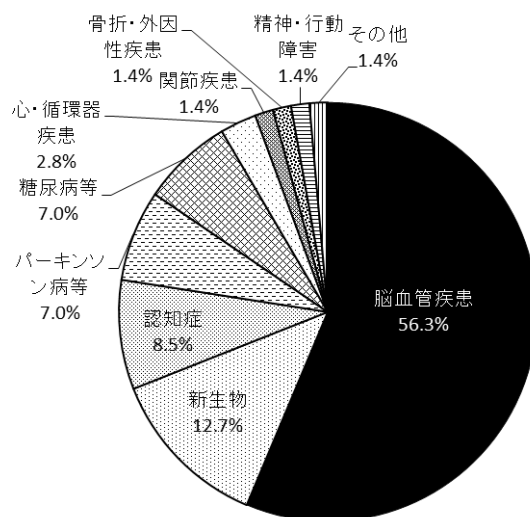


資料:介護保険課

### (3) 第2号被保険者の状況

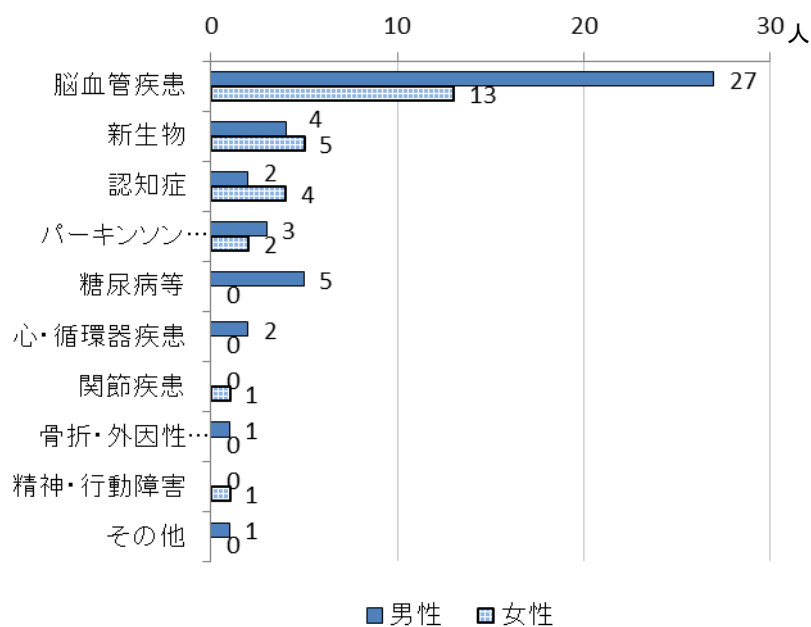
第2号被保険者の傷病内訳をみると、脳血管疾患が56.3%と半数以上を占め、次いで新生物（がん）、認知症と続いています。性別では、男性が70人中45人となり、6割強を占めています。

【第2号被保険者の傷病(診断)名内訳(平成27年度)】



資料:介護保険課

【第2号被保険者の性別・傷病(診断)名別人数(平成27年度)】



資料:介護保険課

### 第3章 第1次計画の評価と課題

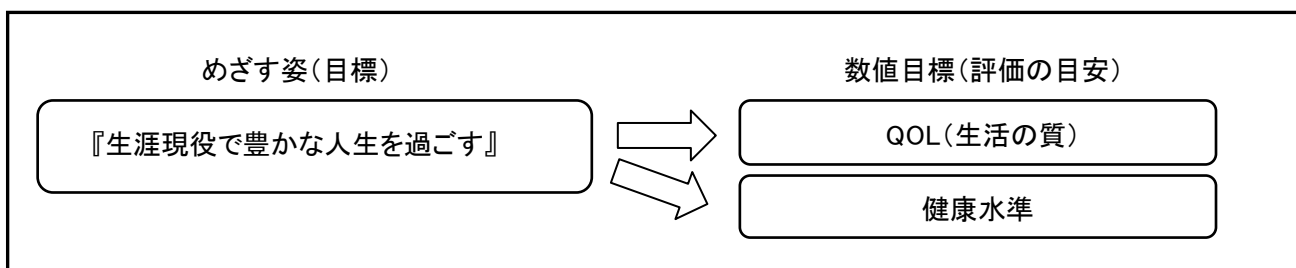
#### 1 数値目標の評価と課題

##### (1) QOL(生活の質)

『元気な市民づくり運動推進計画（第1次）』策定時に設定した目標値に対する評価をみると、QOL（生活の質）では、「とても幸せ・まあまあ幸せ」「とても元気・まあまあ元気」の項目で過去の数値よりは向上していますが、目標値との乖離が大きく、今後の改善余地が大きいと思われます。「生きがいがある」「健康である・まあまあ健康である」とともに今後目標達成に向け、取り組んでいくことが求められます。ただ、全体的に目標値には達しなかったものの、策定時の数値（H18 現状値）に対しては改善されています。

##### (2) 健康水準

健康水準では、「全死亡に占める65歳未満の死亡割合」「心臓病（SMR）」が目標を達成しました。一方、「要介護認定者割合」「脳卒中」「1人当たり医療費（国保）」の項目で、目標値に届かず、介護予防、適切な食生活等、健康に留意していく取組みが求められます。

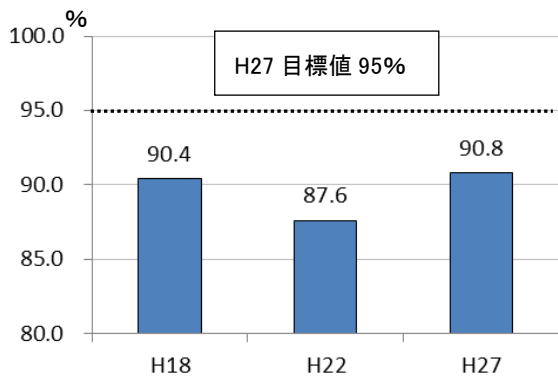


【QOL(生活の質)及び健康水準の数値目標と評価】

		項目	H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価	
QOL (生活の質)	健康観	とても幸せ・まあまあ幸せと思う	90.4%	87.6%	95%	90.8%	○	
		とても元気・まあまあ元気と思う	84.0%	81.6%	90%	86.4%	○	
		生きがいがある	77.0%	77.3%	85%	82.3%	○	
		健康である。まあまあ健康である。	80.7%	80.5%	85%	84.7%	○	
健康水準	全死亡に占める65歳未満の死亡割合		11.8%	10.9%	減少↓	(H26:8.5%)	◎	
	要介護認定者割合(1号被保険者)		19.9%	20.1%	減少↓	(H27:21.3%)	▼	
	標準化 死亡比 SMR (H21-25)	自殺(全体)	104.0	110.8	100未満	119.1(男) 55.4(女)	▼ ◎	
		心臓病(男)	99.3	88.3	100未満	94.6	◎	
		(女)	105.6	98.9	100未満	99.8	◎	
		脳卒中(男)	119.7	101.8	100未満	102.1	▼	
		(女)	109.7	119.5	100未満	100.7	▼	
	項目		県現状値(H27)	H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価
	1人当たり医療費(国保:単位は円)		411,438	355,477	407,772	県↓	460,145	▼

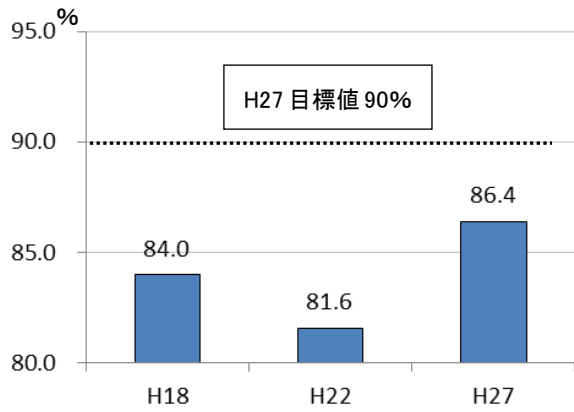
注:評価は、◎:目標を達成 ○:目標には達していないが改善した ▼:目標に届かず、悪化した

【「とても幸せ・まあまあ幸せ」と回答した人の割合】



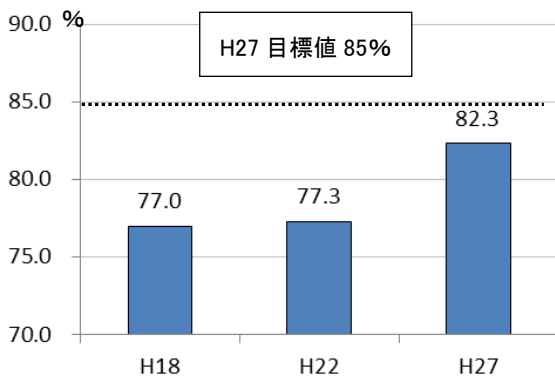
資料：各年度日置市実態調査

【「とても元気・まあまあ元気」と回答した人の割合】



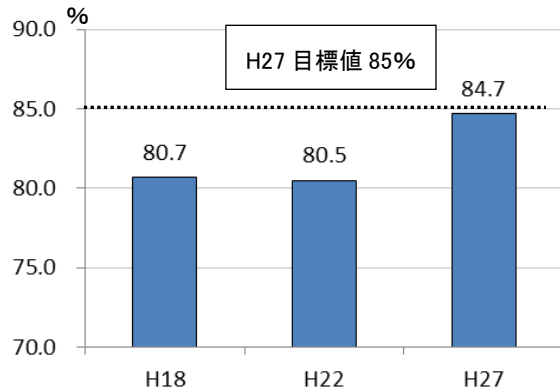
資料：各年度日置市実態調査

【「生きがいがある」と回答した人の割合】



資料：各年度日置市実態調査

【「健康である、まあまあ健康である」と回答した人の割合】

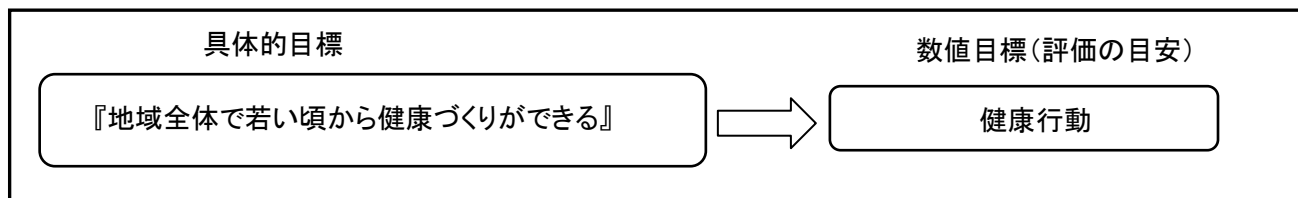


資料：各年度日置市実態調査



### (3) 健康行動

健康行動の各目標値に対しては、「歯科の定期検診を受けている」をはじめ8項目で目標を達成しています。目標値に届かず策定時の数値（H18 現状値）より悪化したのが、「朝食を毎日摂る」や「肥満の割合」等の9項目となりました。



【健康行動の数値目標】

項 目		H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価	
健康行動	地域づくり	地域活動に参加している人を増やす。 (20歳代～50歳代の男性の参加)	64.7%	67.6%	70%	61.3%	▼
	自己管理	40歳以上で過去1年以内に健康診断を受けた市民	80.0%	86.1%	90%	89.4%	○
		40歳以上で過去1年以内にがん検診を受けた市民	51.7%	61.3%	55%	64.5%	◎
	栄養	朝食を毎日摂る	79.6%	77.7%	90%	79.3%	▼
		食事をバランス良く食べている	58.0%	52.9%	70%	54.7%	▼
		夕食後の飲食(30～50歳代男性)	31.8%	31.7%	25%	30.3%	○
		甘い飲み物(ジュース等)毎日飲む(20～40歳代)	33.0%	34.3%	25%	30.5%	○
		食育に関心がある市民の割合	72.9%	77.1%	80%	79.4%	○
		食事バランスガイドを参考にしている市民の割合	11.1%	10.6%	30%	10.9%	▼
	アルコール	毎日お酒を飲む(男性)	40.5%	38.5%	30%	33.1%	○
	たばこ	たばこを吸う人(男性)	39.2%	35.3%	30%	32.3%	○
		たばこを吸う人(20・30歳代女性)	13.0%	10.6%	5%	8.3%	○
		職場の分煙できている	54.4%	63.5%	100%	78.1%	○
	歯	歯科の定期検診を受けている	18.3%	21.4%	30%	30.8%	◎
		就寝前に歯磨きをする人の割合	44.2%	48.4%	50%	51.1%	◎
		むし歯のない3歳児の割合	60.5%	71.7%	72%	82.7%	◎
		1人平均むし歯本数(中学1年生)	2.05本	1.80本	1.4本以下	1.04本	◎
	休養・心の健康づくり	ストレスを大いに感じる	14.8%	15.6%	10%	17.5%	▼
		気分転換・ストレス解消している	54.5%	63.3%	60%	64.6%	◎
		相談相手がない	18.9%	18.0%	10%	16.7%	○
		睡眠を十分・まあまあとっている	75.2%	75.4%	80%	73.7%	▼
	運動	温泉を月1回以上利用する人の割合	33.9%	29.9%	50%	27.5%	▼
		肥満(BMI 25以上)の割合	15.6%	16.7%	減少	16.2%	▼
		男性の肥満(BMI 25以上)の割合(20～60歳代)	21.0%	23.3%	15%	21.9%	▼
		運動習慣がある人の割合	30.9%	29.6%	40%	31.9%	○
		メタボリックシンドロームを知っている市民の割合	37.4%	77.8%	50%	75.2%	◎
	介護予防	生きがいがある人の割合	77.0%	77.3%	85%	82.3%	○
		60・70歳代の外出頻度(週1回・ほとんどしない)	13.0%	13.9%	-	6.0%	-
日置市で実施する健(検)診受診率	脳血管疾患が原因の要介護者(65歳以下)	65.0%	64.9%	50%	56.3%	○	
	特定健診(H21～)注:H18現状値は基本健診	(11.4%)	21.1%	65%	68.1%	◎	
	胃がん検診	11.7%	18.2%	35%	17.6%	○	
	大腸がん検診	14.1%	21.4%	40%	27.3%	○	
	肺がん検診	18.1%	23.4%	38%	22.9%	○	
	子宮がん検診	14.0%	20.7%	35%	20.1%	○	
	乳がん検診	11.4%	23.5%	25%	18.5%	○	

注: 評価は、◎: 目標を達成 ○: 目標には達していないが改善した ▼: 目標に届かず、悪化した

具体的にみると、健康行動の各目標値に対して、歯科の4項目、自己管理での「がん検診受診」、栄養での「夕食後の飲食」、休養・心の健康づくりでの「気分転換・ストレス解消している」、運動での「メタボリックシンドロームを知っている市民の割合」、健（検）診受診率での「特定健診」で目標を達成しました。

これらの項目以外では、目標を達成できなかった、あるいは過去の水準よりは改善がみられるものの目標値には届かなかったという状況で、指標別に整理すると以下のとおりです。

#### 【地域づくり・自己管理】

健（検）診では、がん検診を受けた市民の割合は目標を達成しましたが、地域づくりに参加している割合では目標値（70%）に対し8.7ポイント、また、健康診断を受けた市民の割合も目標値（90%）に対し、0.6ポイント下回っています。

#### 【栄養】

6項目中、「朝食を毎日摂る」「食事をバランス良く食べている」「食事バランスガイドを参考にしている市民の割合」の3項目で、目標を達成しませんでした。

#### 【アルコール・たばこ】

4項目いずれも目標には達していませんが、改善傾向にあります。「職場の分煙できている」では、目標値（100%）に対し78.1%ですが、H18現状値と比較すると23.7ポイント向上しており、引き続き啓発活動を進めていくことが求められます。

#### 【歯】

4項目すべてで目標を達成しています。「むし歯のない3歳児の割合」は、82.7%で目標値（72%）を大きく上回っています。

#### 【休養・心の健康づくり】

5項目中、「ストレスを大いに感じる」「睡眠を十分とっている」「温泉を月1回以上利用する人の割合」の3項目で目標値を下回っています。目標値には届かないものの、やや改善がみられた「相談相手がない」を含め、今後、取組みを強化していくことが求められます。「ストレスを大いに感じる」割合が上昇している一方で、「気分転換・ストレスを解消している」については、目標値（60%）を4.6ポイント上回り、目標を達成しています。

#### 【運動】

4項目中、3項目で目標を達成しませんでした。この10年間ほぼ同様の割合であり、特に男性の肥満が目標値（15%）に対し、6.9ポイント悪化しています。唯一、「メタボリックシンドロームを知っている市民の割合」は、目標値（50%）に対し、75.2%と大きく上回り、目標を達成しています。

### 【介護予防】

3項目中、2項目で目標に達していませんが、いずれもH18 現状値より改善しています。「脳血管疾患が原因の要介護者（65歳以下）」では、56.3%で、8.7ポイント改善しています。

### 【日置市で実施する健(検)診受診率】

6項目中、「特定健診（H21～）」は目標値（65%）に対し、68.1%となり目標を達成しています。他のがん検診は、いずれもH18 現状値と比較すると改善していますが、大腸がん検診以外はH22 中間評価からは悪化している状況です。



## 2 分野別の評価と課題

### (1) 食・栄養

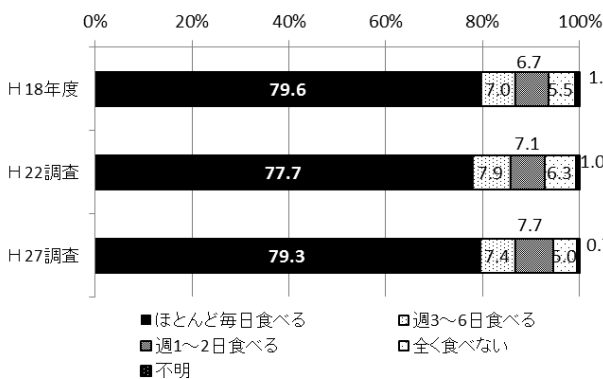
【健康行動の数値目標：栄養】

項目		H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価
栄養	朝食を毎日摂る	79.6%	77.7%	90%	79.3%	▼
	食事をバランス良く食べている	58.0%	52.9%	70%	54.7%	▼
	夕食後の飲食(30～50歳代男性)	31.8%	31.7%	25%	30.3%	○
	甘い飲み物(ジュース等)毎日飲む(20～40歳代)	33.0%	34.3%	25%	30.5%	○
	食育に関心がある市民の割合	72.9%	77.1%	80%	79.4%	○
	食事バランスガイドを参考にしている市民の割合	11.1%	10.6%	30%	10.9%	▼

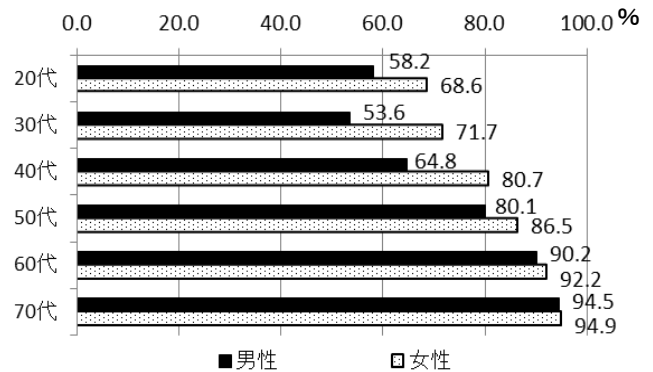
#### 【評価・課題】

- 朝食の摂取状況は、前回調査よりは改善していますが、目標値には届いていません。「全く食べない」は5.0%に減少していますが、「ほとんど毎日食べる」は、特に、20代～30代の若い世代や単身世帯で低い傾向にあります。朝食を毎日摂らない理由としては、「時間がない」という理由が最も多く、よりよい生活習慣を身につけることが重要と考えられます。

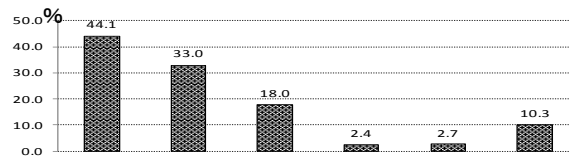
【朝食の摂取状況】



【朝食の摂取の状況(H27年調査：性・年代別)】



【朝食を摂らない理由(H27年調査)】

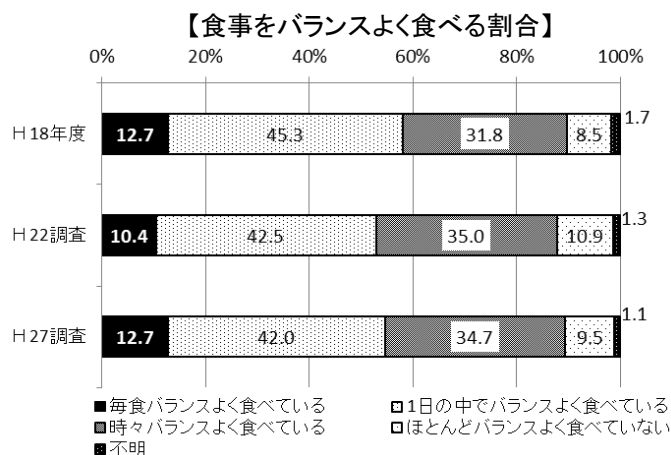


		サンプル数	時間がない	食欲がない	面倒	やせたい	準備されない	その他
全体		751	44.1	33.0	18.0	2.4	2.7	10.3
性別	男性	453	40.2	28.5	15.7	1.8	3.8	10.2
	女性	354	39.5	31.9	16.9	2.5	0.8	8.2
年代別	20代	186	39.8	29.0	20.4	0.5	2.2	8.1
	30代	217	41.9	28.6	20.3	0.9	1.4	6.9
	40代	186	40.9	30.1	16.1	2.2	2.2	8.6
	50代	138	37.0	33.3	9.4	4.3	2.9	13.0
	60代	78	43.6	25.6	10.3	3.8	5.1	11.5
	70代	18	5.6	50.0	11.1	11.1	5.6	16.7

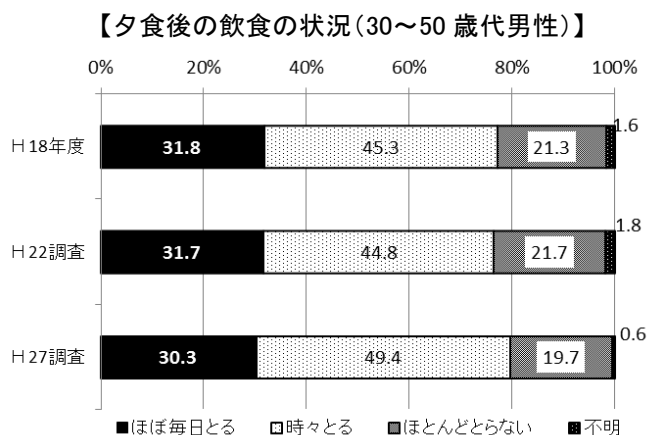
注：単位は件数、%



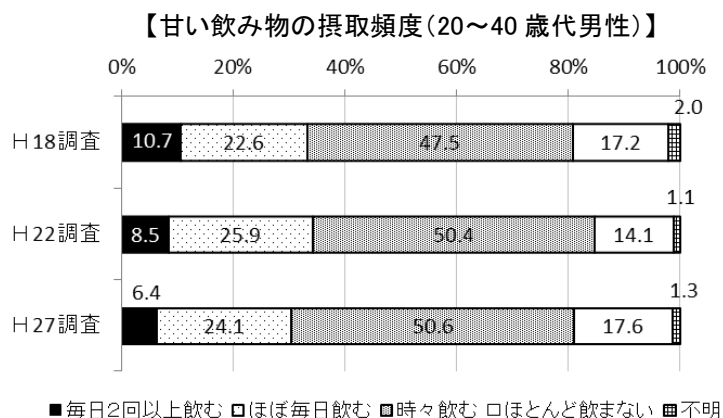
- 食事バランスについては、目標値に対し大きな乖離があります。過去2回の調査をみても、ほとんど変わっていない状況です。また、食事バランス以外でも、例えば、塩分摂取量に気を付けている人も、その割合がやや低下してきており、適切な食生活習慣に努める必要があります。



- 夕食後、菓子・果物・軽食・アルコールを「ほぼ毎日とる」人（30代～50代の男性）の割合は改善しつつあるものの約3割を占め、目標を達成できていません。特に40代の男性で高い割合となっており、適切な食生活についての啓発活動を推進していくことが求められます。



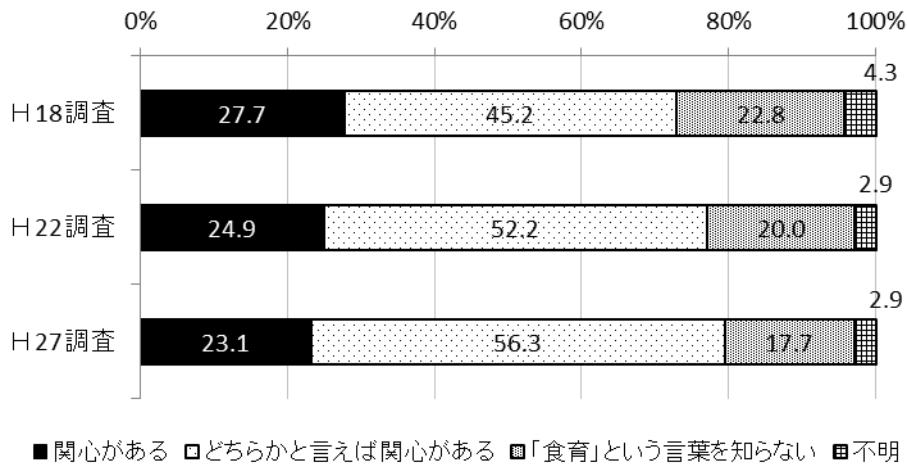
- 甘い飲み物の摂取頻度は、全体で「毎日2回以上飲む」が3.2%、「ほぼ毎日飲む」が13.4%ですが、その割合は男性の若い世代ほど高い状況にあります。20代～40代男性の「毎日2回以上飲む」人の割合は前回調査より改善しつつあるものの、6.4%を占めています。



- 「食育」に「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」人の割合は 79.4%と、前回調査よりも増加しておりますが、今後とも周知・啓発活動を進めていくことが求められます。規則正しい適切な食生活を市民一人ひとりが実践していくことが必要です。

第3次日置市食育推進計画（目標年度：平成 32 年度）とも連携しながら、地産地消の推進をはじめ、本市の地域特性を活かした食生活改善、食育の推進が望まれます。

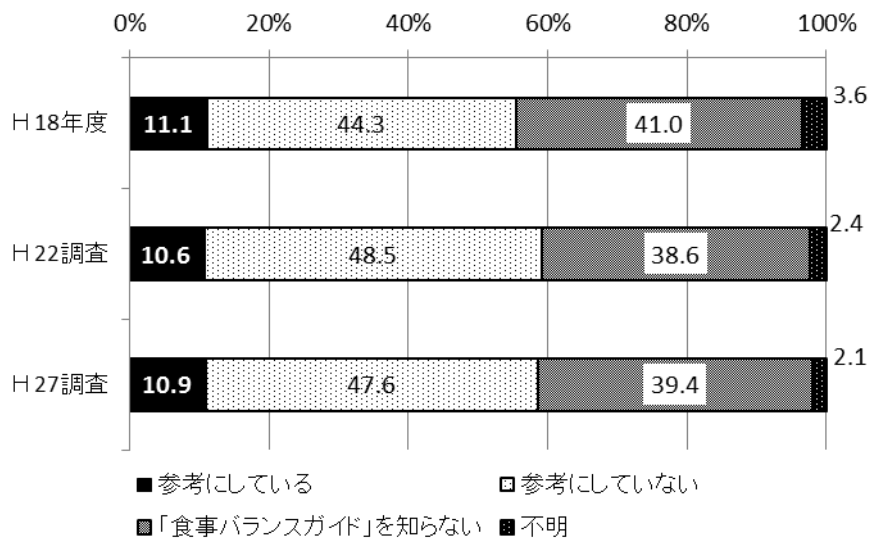
【食育への関心度】



- 国が示している食事バランスガイドを参考にしている市民の割合は、約1割程度と低い水準にとどまっています。目標値は30%であり、大きく下回った状況が続いている状況にあります。

自分の食生活に問題があると思う人の食生活改善意向は7割以上を占めており、「食事バランスガイド」の周知にも努める必要があります。

【食事バランスガイドを参考にしている割合】



## (2) 身体活動・運動

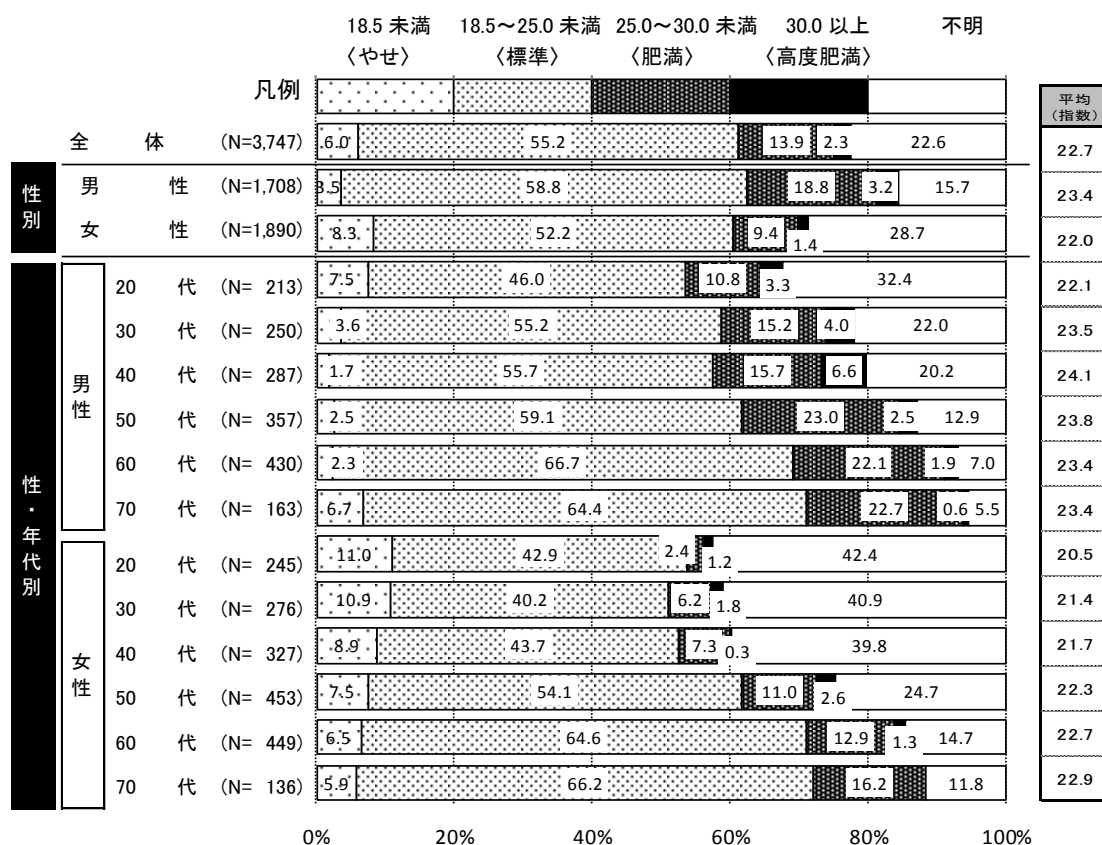
【健康行動の数値目標：運動】

項目		H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価
運動	肥満(BMI 25以上)の割合	15.6%	16.7%	減少	16.2%	▼
	男性の肥満(BMI 25以上)の割合(20~60歳代)	21.0%	23.3%	15%	21.9%	▼
	運動習慣がある人の割合	30.9%	29.6%	40%	31.9%	○
	メタボリックシンドロームを知っている市民の割合	37.4%	77.8%	50%	75.2%	◎

### 【評価・課題】

- 肥満については、BMI 25以上の方が16.2%と前回調査より改善しましたが、目標は達成できていない状況です。男性の40代以上での割合が高い傾向にあります。

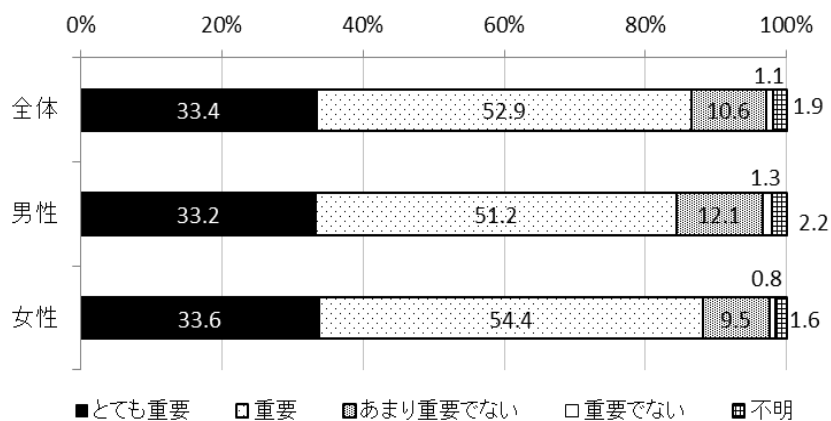
【性・年代別のBMI値(H27年調査)】



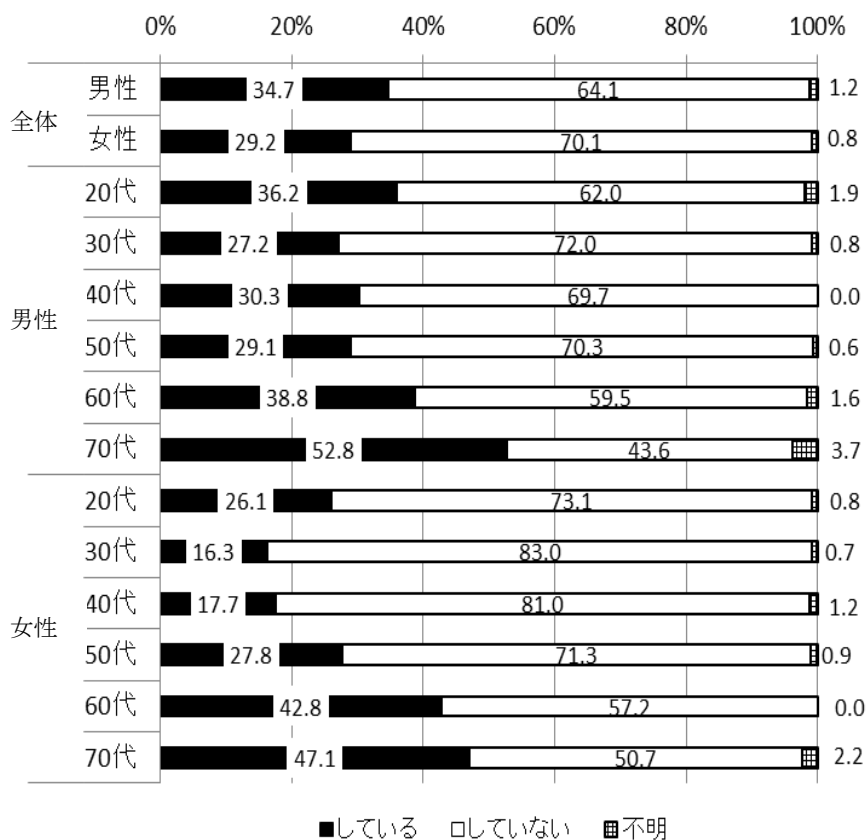
注: BMI値:「やせ(18.5未満)」、「標準(18.5~25.0未満)」、「肥満(25.0~30.0未満)」、「高度肥満(30.0以上)」、「不明」・・・22.6%

- 健康に対する運動の重要性については、「重要と思っている」人の割合が、86.3%と前回調査より高い反面、定期的な運動・スポーツの実施状況では、「していない」が約7割を占めています。前回調査に比べると改善していますが、特に30代～40代の働き盛り・子育て世代で運動習慣がない人が多いようです。運動の重要性の認識が高い人でも、実際の行動に結びついていない状況です。

【健康に対する運動の重要性(H27年調査)】



【定期的な運動・スポーツの実施状況(H27年調査)】



### (3) 心・休養

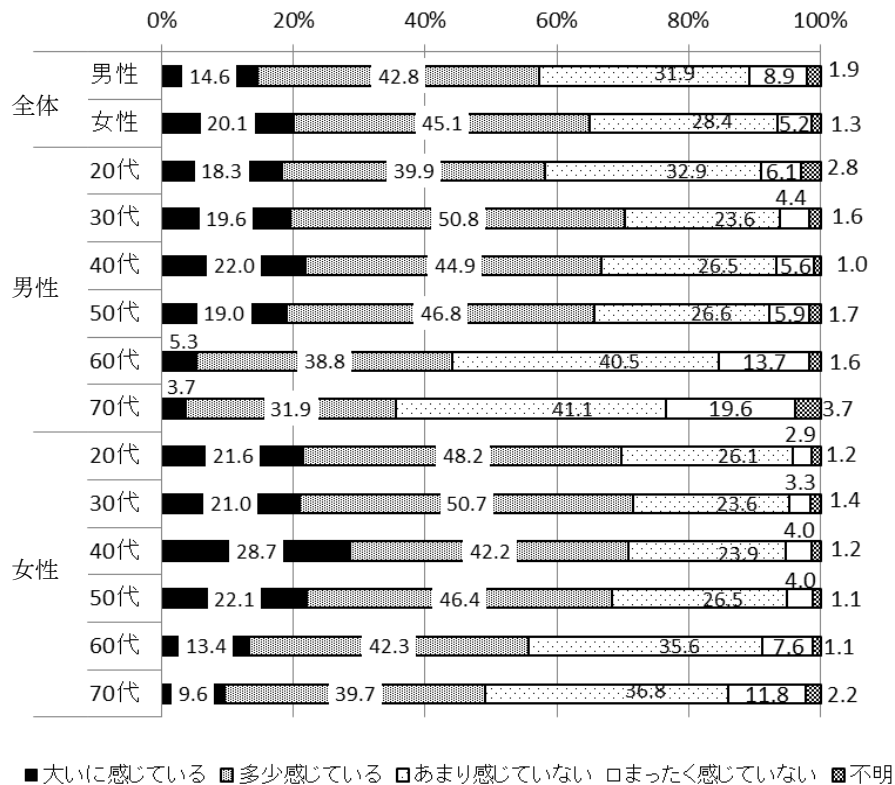
【健康行動の数値目標:休養・心の健康づくり】

項目		H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価
休養・心の健康づくり	ストレスを大いに感じる	14.8%	15.6%	10%	17.5%	▼
	気分転換・ストレス解消している	54.5%	63.3%	60%	64.6%	◎
	相談相手がない	18.9%	18.0%	10%	16.7%	○
	睡眠を十分・まあまあとっている	75.2%	75.4%	80%	73.7%	▼
	温泉を月1回以上利用する人の割合	33.9%	29.9%	50%	27.5%	▼

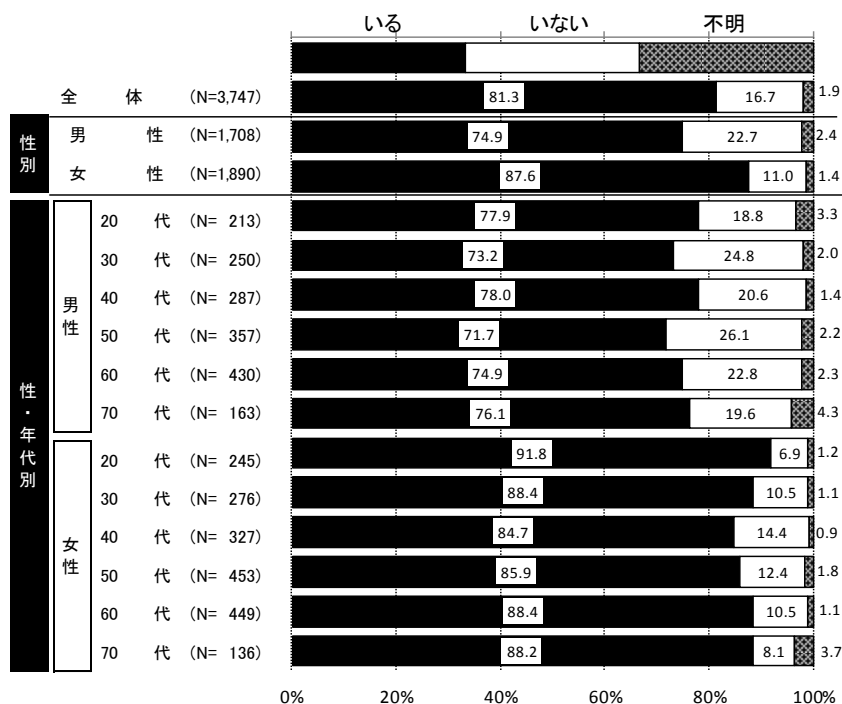
#### 【評価・課題】

- 最近、2週間以上にわたってストレスを感じた経験がある人が61%、そのうち「大いに感じている」は17.5%と前回調査よりいずれも増加傾向にあります。世代別には、20代~50代が高い割合となっています。また、ストレス解消のために何かしている割合は、男女とも60%超を占めています。一方、悩みや困ったことを相談できる相手が「いない」割合は男性の方が女性よりも高い割合となっており、男性の約2割で相談相手がない状況です。

【ストレスを感じた経験(H27年調査)】

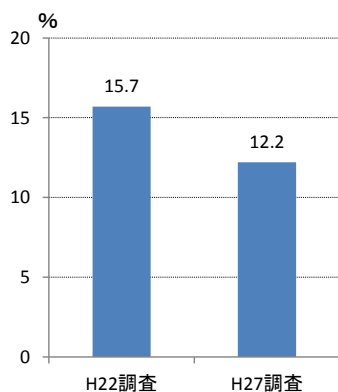


【身近な相談相手の有無(H27年調査)】



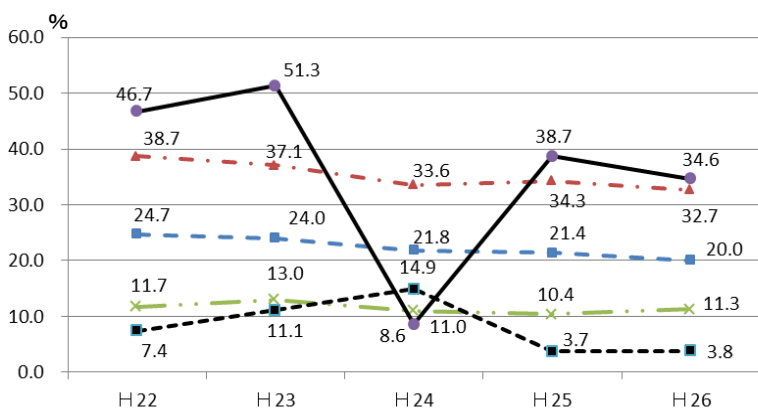
- 気分が落ち込んで自殺について考える人は、12.2%と前回調査より減少傾向にあります。8人～9人に1人は自殺について考えるようです。また、自殺率については、男性の方が女性より高い割合になっています。

【自殺について考える割合】



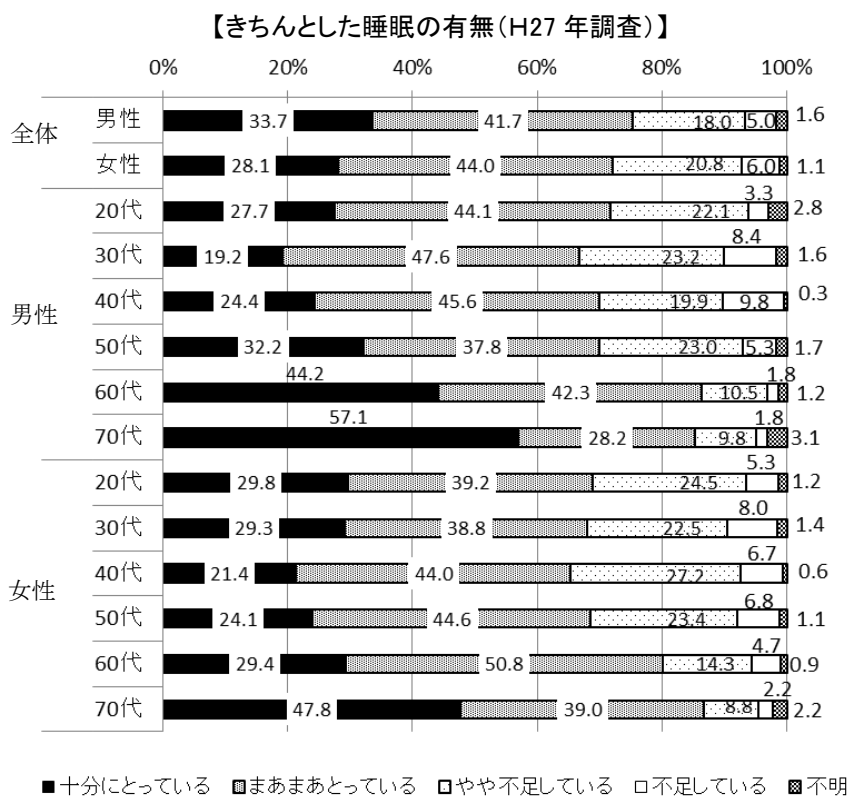
注：自殺について考えたことが「ある」「たまにある」割合の合計  
資料：日置市健康実態調査より作成

【自殺率(人口10万人当たりの自殺者数:国、県(男女)、日置市(男女))】

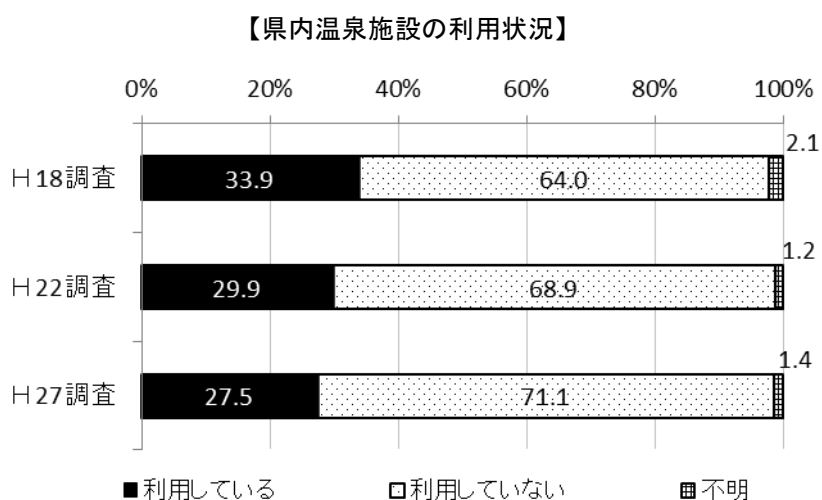


資料：健康保険課

- 睡眠については、「十分・まあまあとっている」人は、73.7%と前回調査より高い反面、世代別にみると、男女とも30代~50代で「やや不足・不足」の割合が他の世代に比べ高くなっています。



- 温泉施設の利用については、月1回以上「利用する」割合が、27.5%と前回調査より減少傾向にあります。



#### (4) 飲酒・喫煙

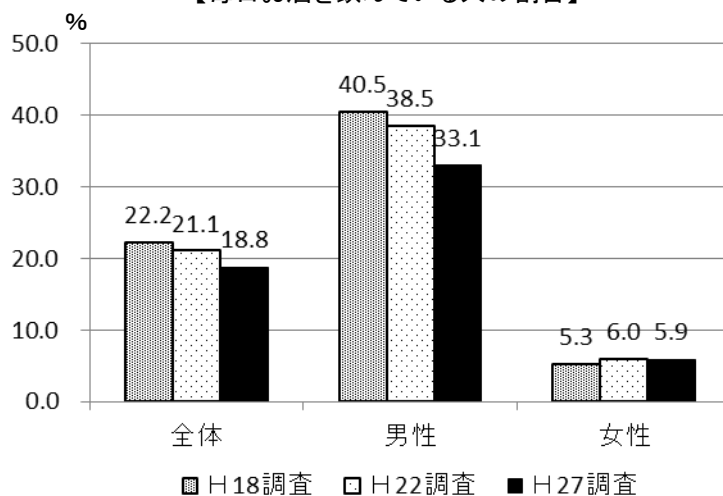
【健康行動の数値目標:飲酒・煙草】

項目		H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価
アルコール	毎日お酒を飲む(男性)	40.5%	38.5%	30%	33.1%	○
たばこ	たばこを吸う人(男性)	39.2%	35.3%	30%	32.3%	○
	たばこを吸う人(20・30歳代女性)	13.0%	10.6%	5%	8.3%	○
	職場の分煙できている	54.4%	63.5%	100%	78.1%	○

#### 【評価・課題】

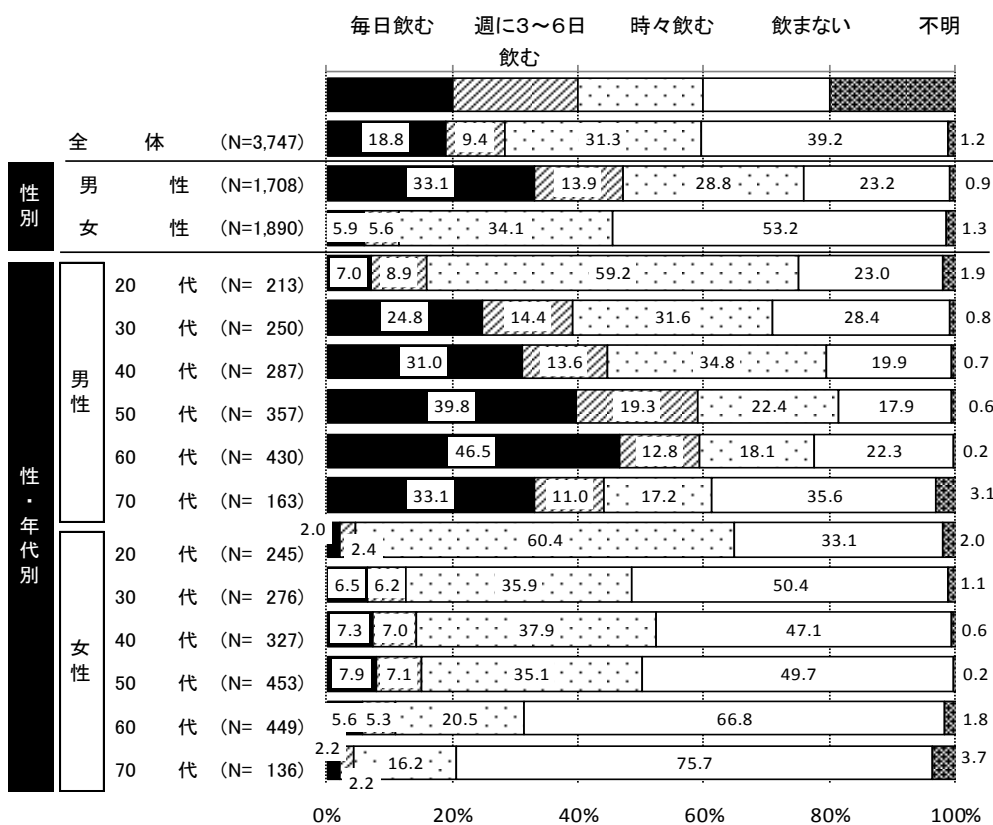
- お酒を「毎日飲む」人(男性)の割合は、33.1%となり、目標値には達していないものの、改善しました。ただし、男性の54.9%が1回あたり1合以上お酒を飲み、女性の約3倍となっています。健康教室等を通して適正飲酒の情報提供や啓発活動に努めていくことが求められます。

【毎日お酒を飲んでいる人の割合】

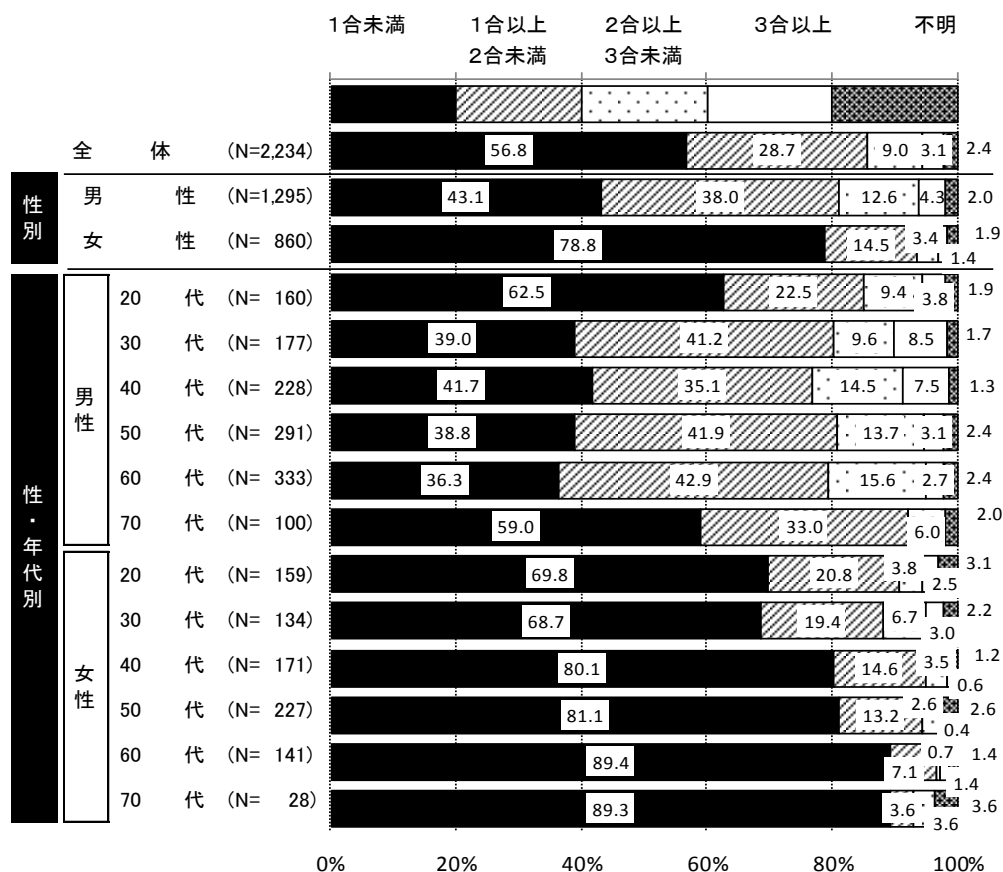




【飲酒状況(H27年調査)】



【1回あたりの飲酒量(H27年調査)】



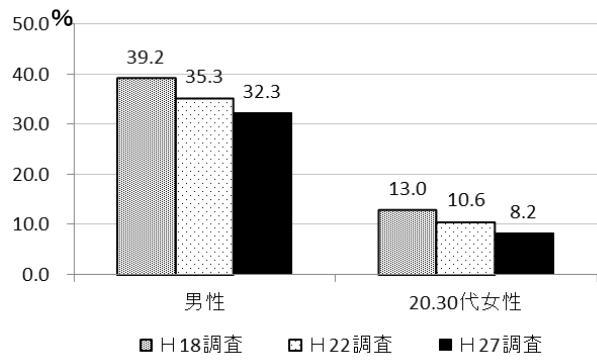
- 喫煙している男性（全体）、女性（20代～30代）の割合は、減少しましたが、目標値には達しませんでした。男女別の喫煙率では、女性 5.4%、男性 32.3%であり、男性の方が約 6 倍高くなっています。

家庭での分煙状況は、「分煙されていない」が 14.2%を占めています。職場での分煙状況については、改善していますが、目標に対しては未達成の状況です。「迷惑と思う喫煙場所」については、「医療機関」、「飲食店」が上位を占めています。喫煙率を下げ、これらの場所を含めた公共機関等での分煙率を上げることが求められます。

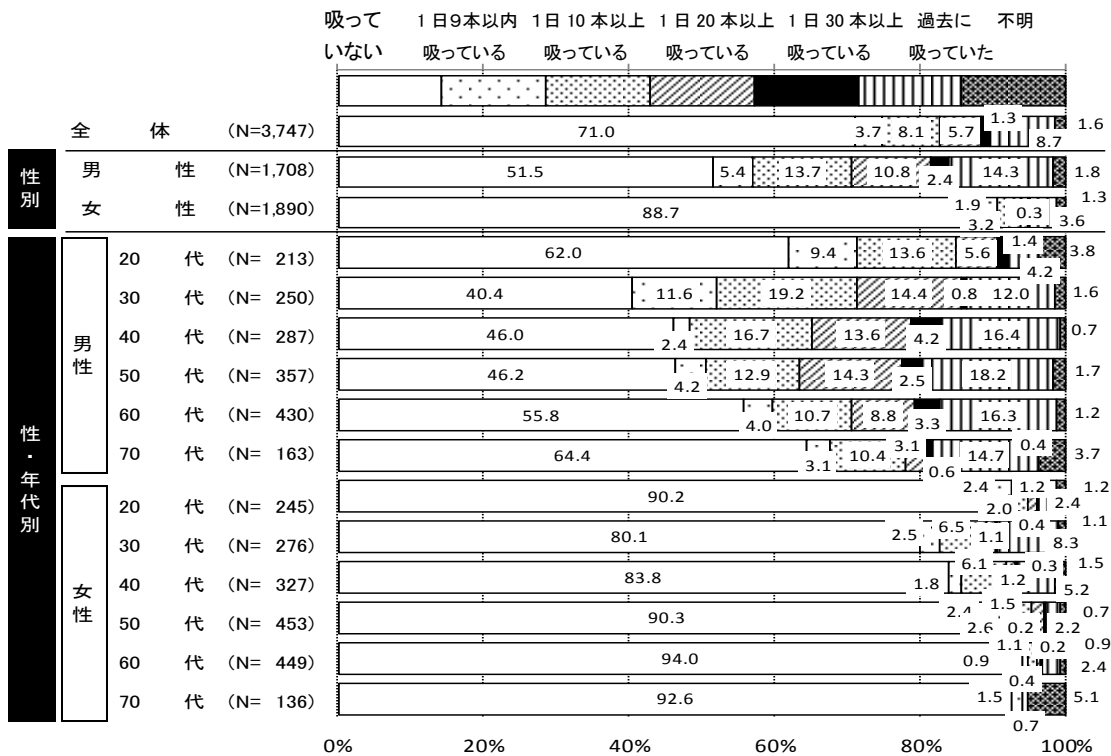
禁煙意向については、20代の「やめたいと思わない」割合が 32.9%と最も高くなっています。若い世代、また、未成年から喫煙開始とならない為の取り組みも必要です。

喫煙によってかかりやすい疾患の知識については、「肺がん」をはじめ、健康への悪影響に対する回答数が増加しています。今後、COPD や妊娠への影響等、正しい知識の普及が必要とされます。

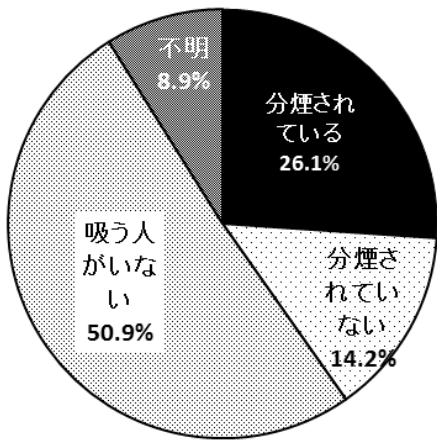
【煙草を吸っている人の割合の推移】



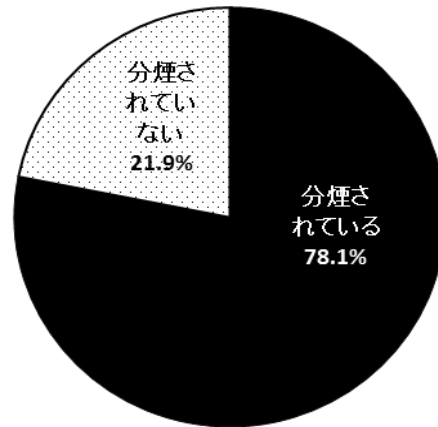
【喫煙状況(H27年調査)】



【家庭内の分煙状況(H27年調査)】

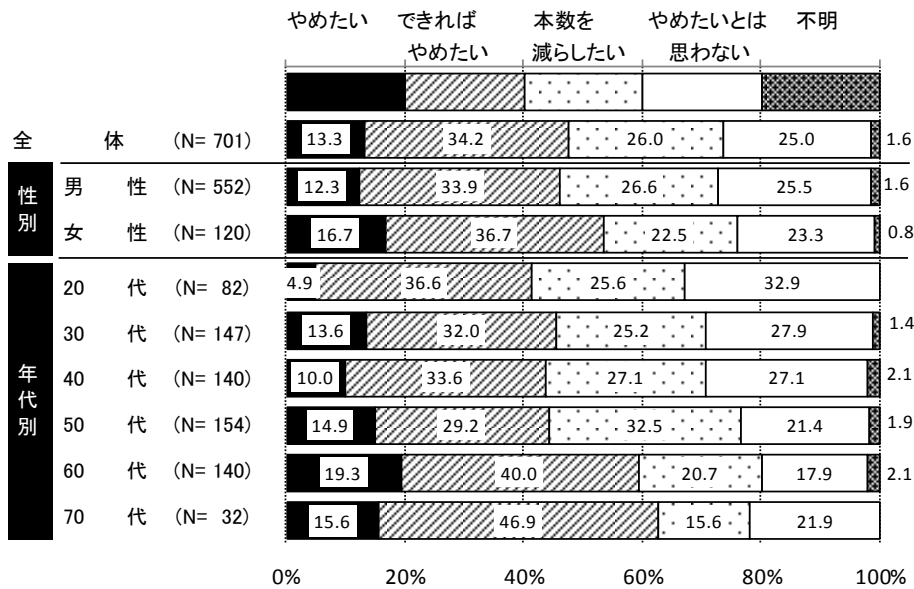


【職場の分煙状況(H27年調査)】

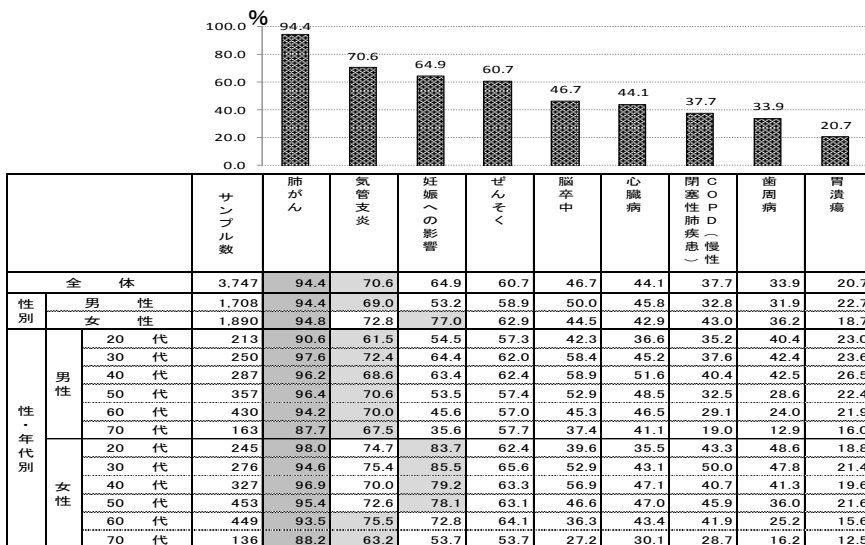


注: 該当者のみ

【禁煙意向(H27年調査)】



【喫煙によってかかりやすい疾病(H27年調査)】



注: 単位は件数、%

## (5) 歯科・口腔

【健康行動の数値目標:休養・歯】

項目		H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価
歯	歯科の定期検診を受けている	18.3%	21.4%	30%	30.8%	◎
	就寝前に歯磨きをする人の割合	44.2%	48.4%	50%	51.1%	◎
	むし歯のない3歳児の割合	60.5%	71.7%	72%	82.7%	◎
	1人平均むし歯本数(中学1年生)	2.05本	1.80本	1.4本以下	1.04本	◎

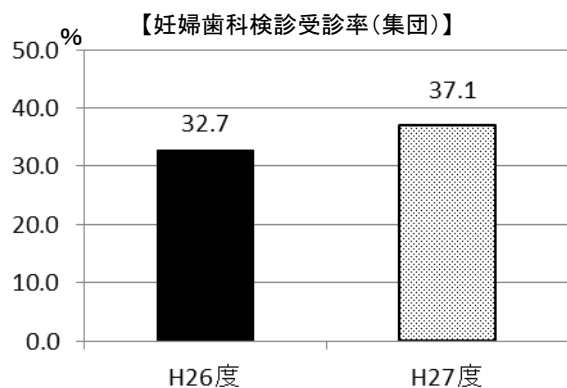
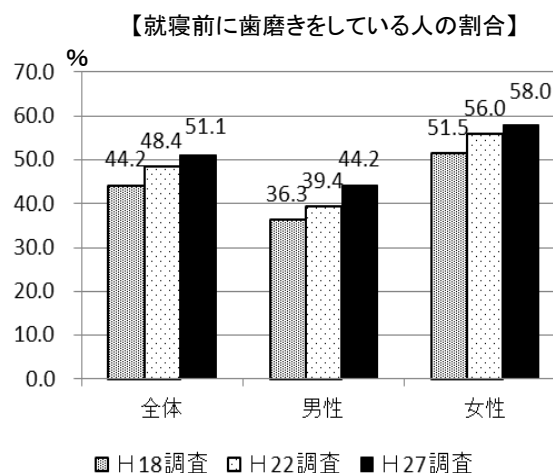
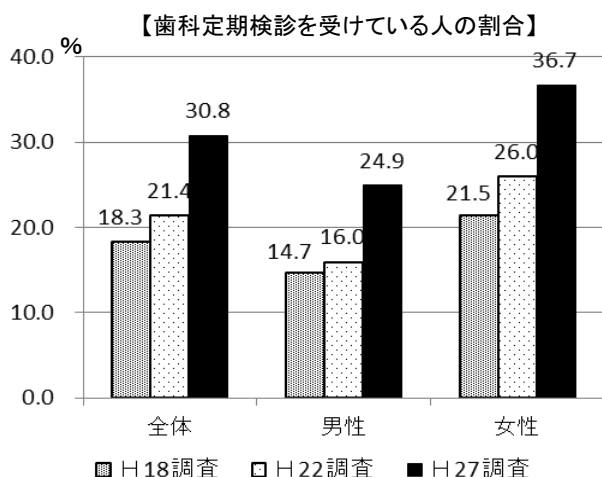
### 【評価と課題】

- 歯科の定期検診を受けている人の割合は増加し、目標値に達成しました。男女別では、女性36.7%に対し、男性が24.9%と低く、世代が若くなるほど低い傾向にあります。また、H27年度の妊婦歯科検診受診率は37.1%で、早産や子どもの虫歯等の予防のために、若い世代と併せて、受診率を上げることが必要です。

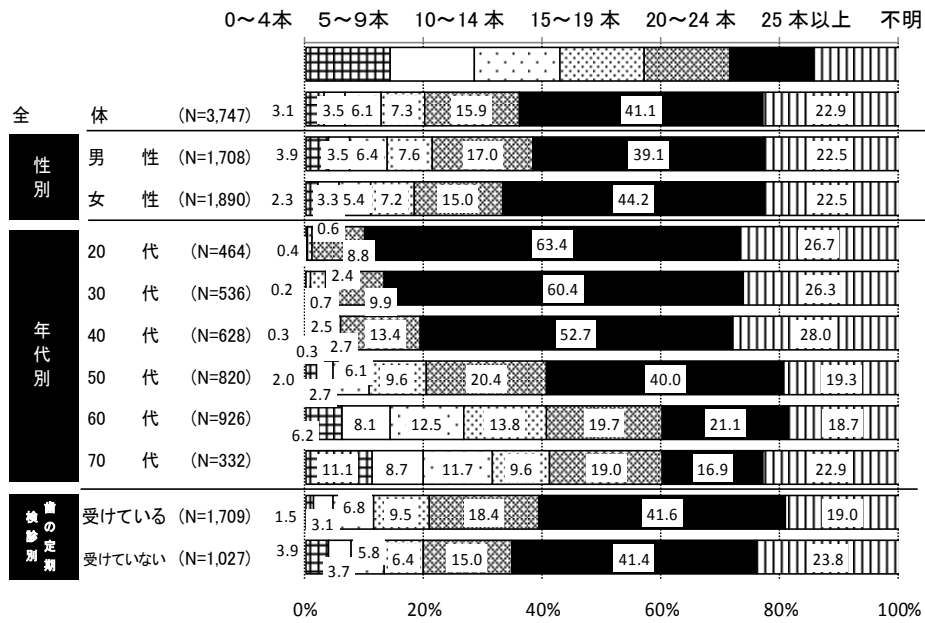
就寝前に歯磨きをする人の割合も増加し、目標値に達成しました。

70代で20本以上自分の歯が残っている割合は35.9%となっており、歯科定期健診や口腔ケア等を通じて、その割合を増やす事が求められます。

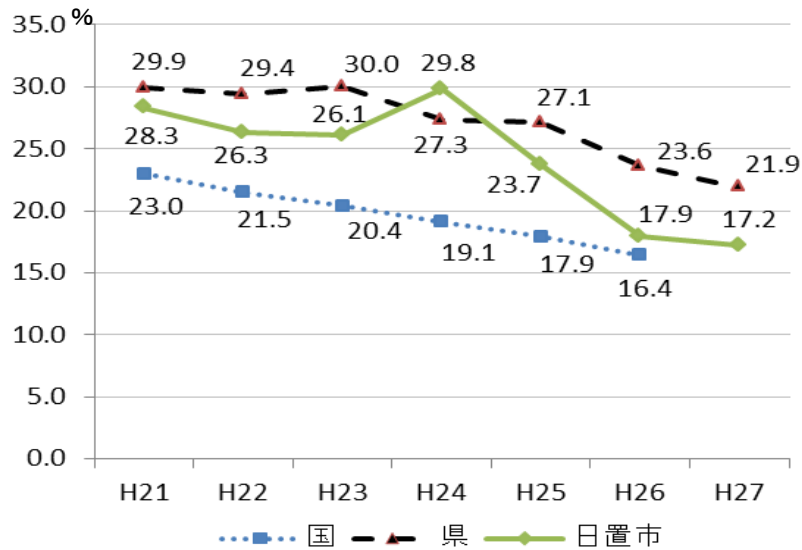
「むし歯のない3歳児」は82.7%、「一人平均虫歯本数(中学1年生)」は1.04本と、何れも目標値を達成しました。



### 【自分の歯の残数(H27年調査)】



### 【3歳児健診のむし歯保有率の推移】



## (6) 生活習慣病

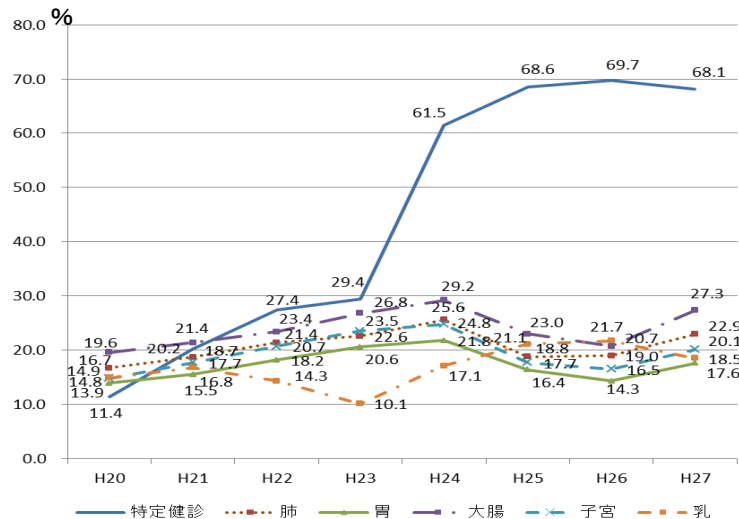
【健康行動の数値目標：日置市で実施する健(検)診受診率】

項目		H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価
日置市で実施する健(検)診受診率	特定健診(H21～)注：H18現状値は基本健診	(11.4%)	21.1%	65%	68.1%	◎
	胃がん検診	11.7%	18.2%	35%	17.6%	○
	大腸がん検診	14.1%	21.4%	40%	27.3%	○
	肺がん検診	18.1%	23.4%	38%	22.9%	○
	子宮がん検診	14.0%	20.7%	35%	20.1%	○
	乳がん検診	11.4%	23.5%	25%	18.5%	○

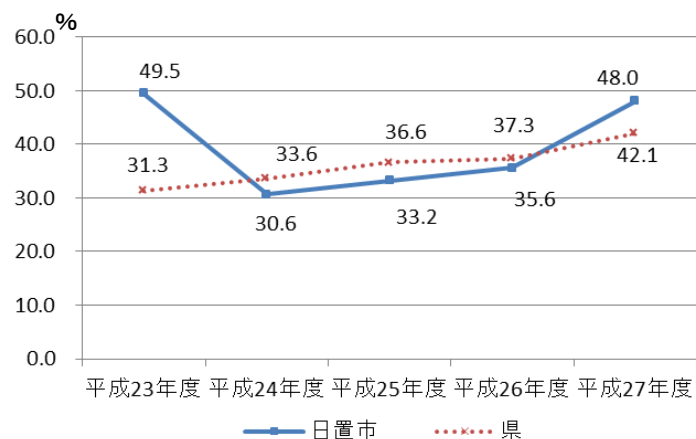
### 【評価と課題】

- 健(検)診受診率では、特定健診の受診率は68.1%と高い割合となっていますが、各種がん検診については、目標値との差が大きく受診率向上に向けた新たな取り組みが必要といえます。「元気だから」「忙しいから」という理由で受診しないケースが多いようです。特定保健指導終了率は改善しつつありますが、さらなる取組みが求められます。

【特定健診・がん検診受診率の推移】



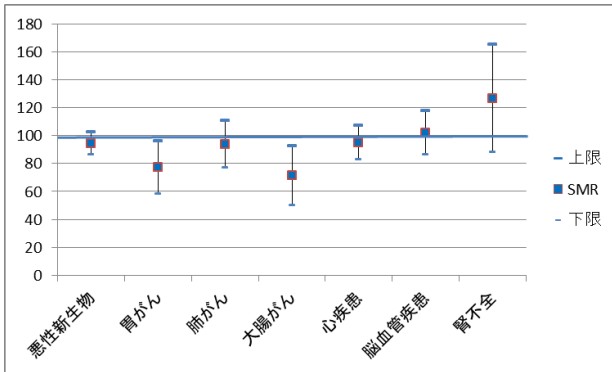
【特定保健指導終了率の県との比較】



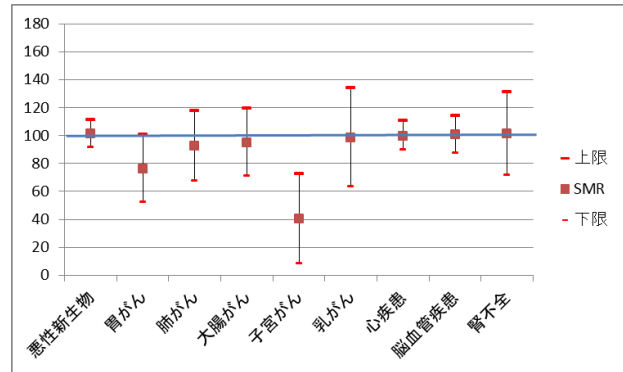
- 心疾患については、男女ともにSMR 100 未満を達成しているものの、脳血管疾患では、100 を超えています。なお、本市の疾病別の特徴としては、男女とも腎不全のSMR値が高いため、新たな透析患者を減らしていくための取組みが必要です。

【日置市: SMR(H21-25)】

【男性】



【女性】



【男性】

男性	悪性新生物	胃がん	肺がん	大腸がん	心疾患	脳血管疾患	腎不全
上限	102.6	96.3	110.6	92.4	106.9	117.8	165.3
SMR	94.3	77.1	93.8	71.2	94.6	102.1	126.6
下限	86	57.9	76.9	49.9	82.3	86.3	87.8

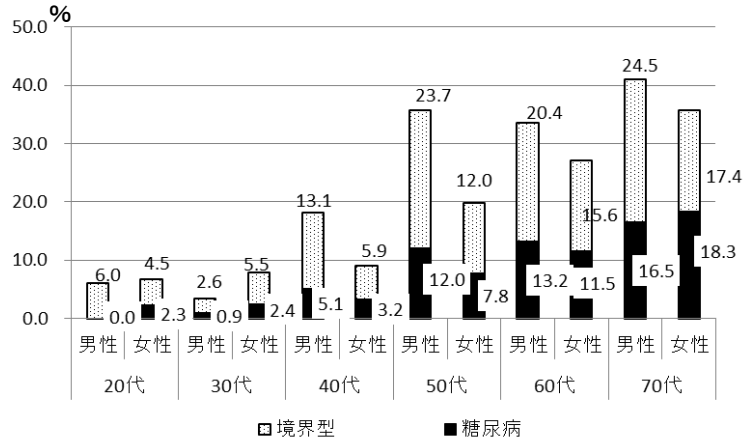
【女性】

女性	悪性新生物	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん	心疾患	脳血管疾患	腎不全
上限	111.1	100.5	117.6	119.6	72.7	133.9	110.4	114.3	131.1
SMR	101.3	76.3	92.4	95.1	40.4	98.6	99.8	100.7	101.2
下限	91.5	52	67.3	70.6	8.1	63.3	89.3	87	71.3

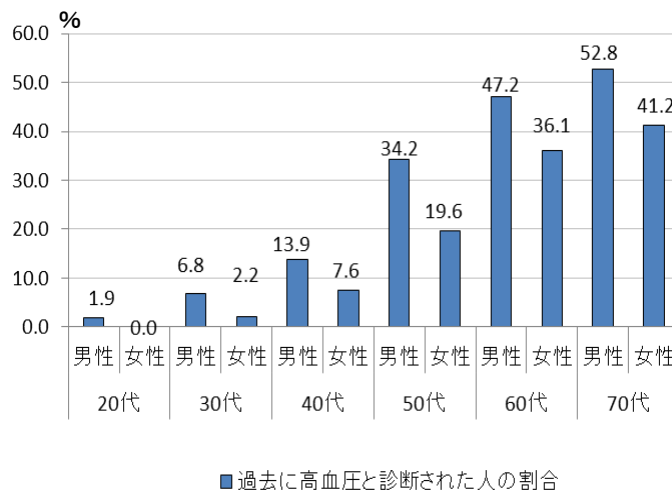
注: 性、地域ごとに「全国の年齢階層別死亡率で死亡した時のその地域の期待死亡数」に対する「実際の死亡数」の比を 100 倍して算出している。したがって、年齢構成の違いの影響を除いて死亡状況を表すものであり、地域比較に用いている。標準化死亡比が 100 より大きい場合、その地域の死亡率は全国より高いとされ、100 より小さい場合、全国より低いと判断される。

- 「糖尿病・境界型などといわれた人」また、「過去に高血圧と診断された人」が男女とも 50代から増加し、特に男性で高い割合となっています。

【糖尿病検査を受けた人で糖尿病又は境界型といわれた人の割合(H27年調査)】



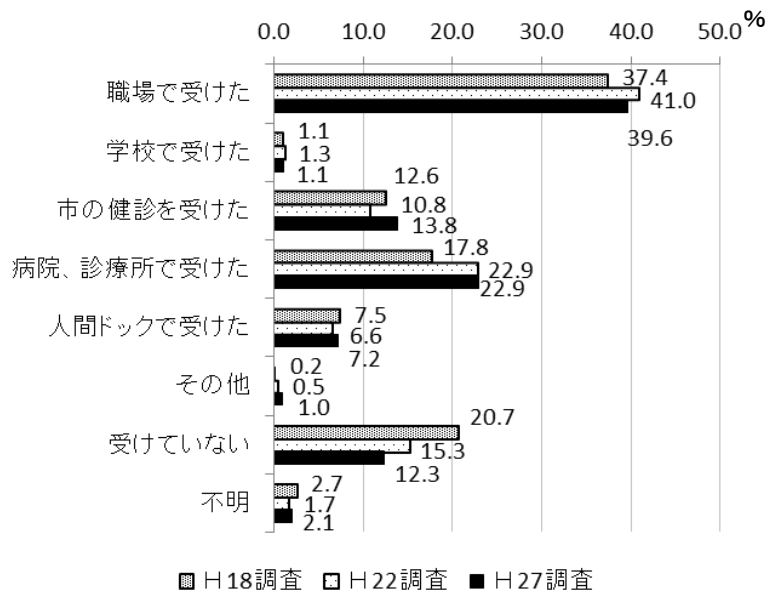
【過去に高血圧と診断された人の割合(H27年調査)】



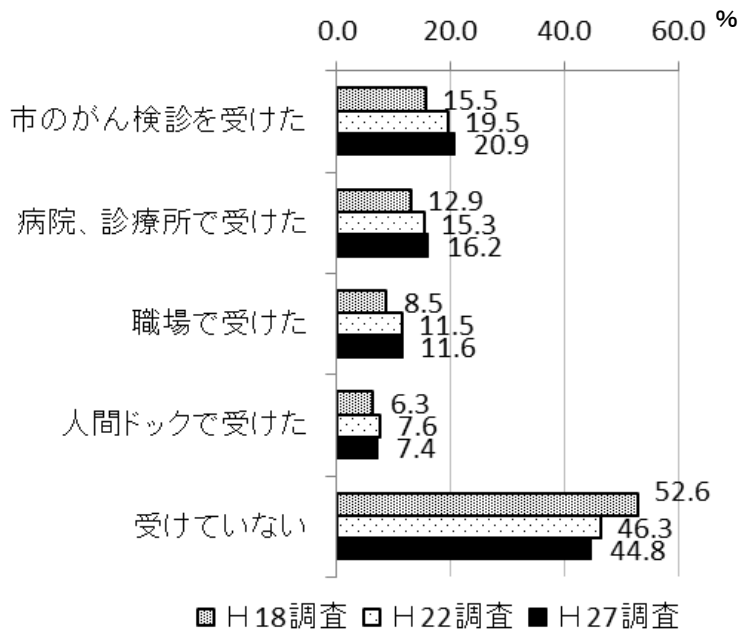


- 「1年以内に健康診断を受けた」人の割合は、84.6%で前回調査とほぼ同様の結果となりましたが、「1年以内にがん検診を受けた」人の割合では、「受けていない」人がやや減少しています。男性や若い世代での受診率が低い傾向にあります。

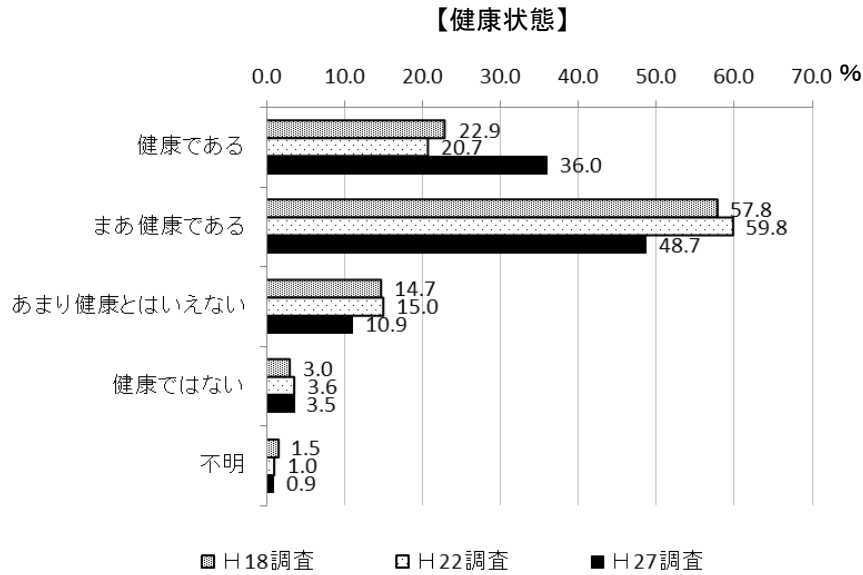
【1年以内に健康診断を受けた割合】



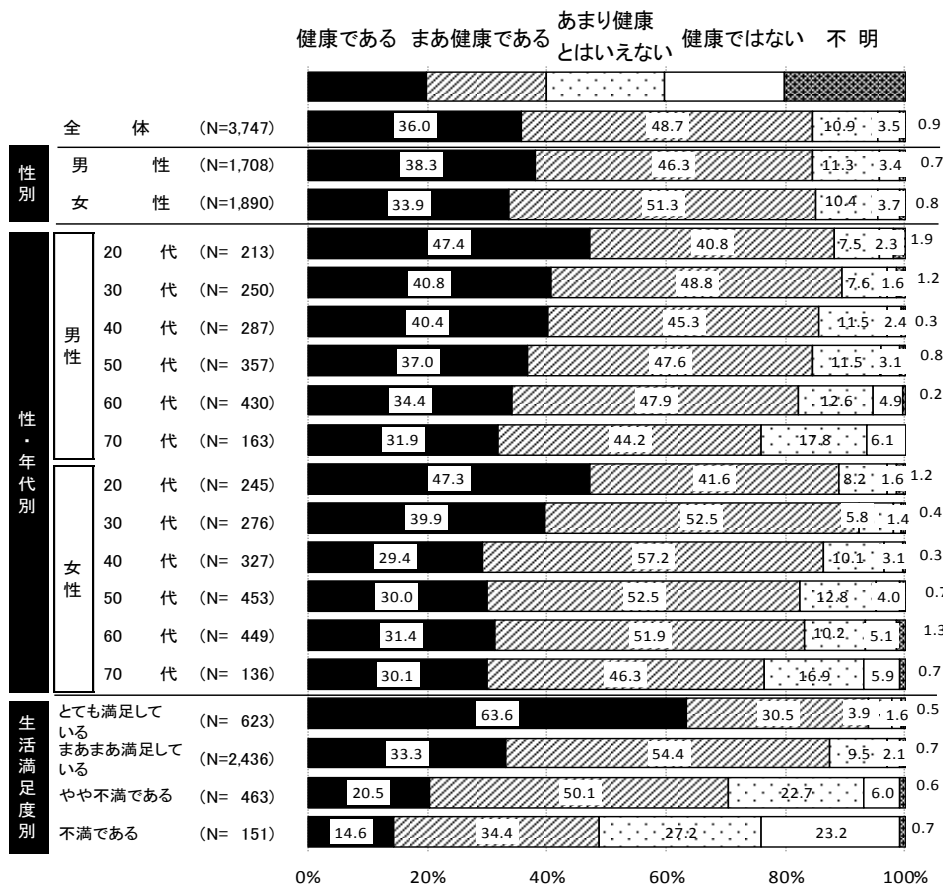
【1年以内にがん検診を受けた割合】



- 健康状態に関しては、約85%の人が健康だと回答しており、前回調査よりも増加していますが、年代が上がるにつれ、その割合は低下しています。また、生活満足度が高いほど、その割合が高くなる傾向にあります。



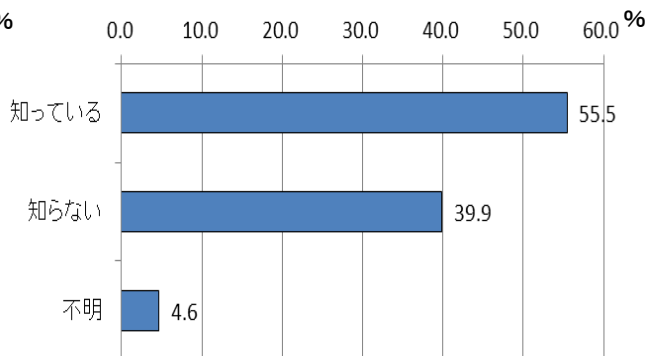
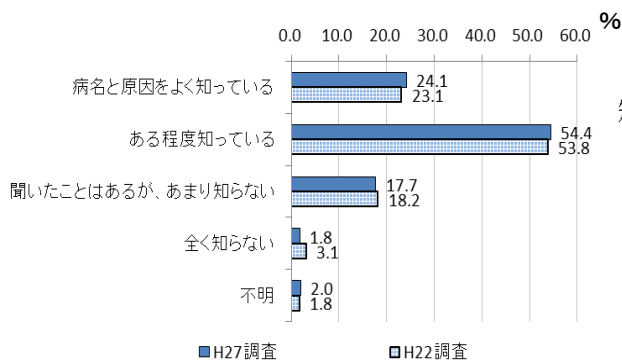
**【性・年代別の健康状態(H27年調査)】**



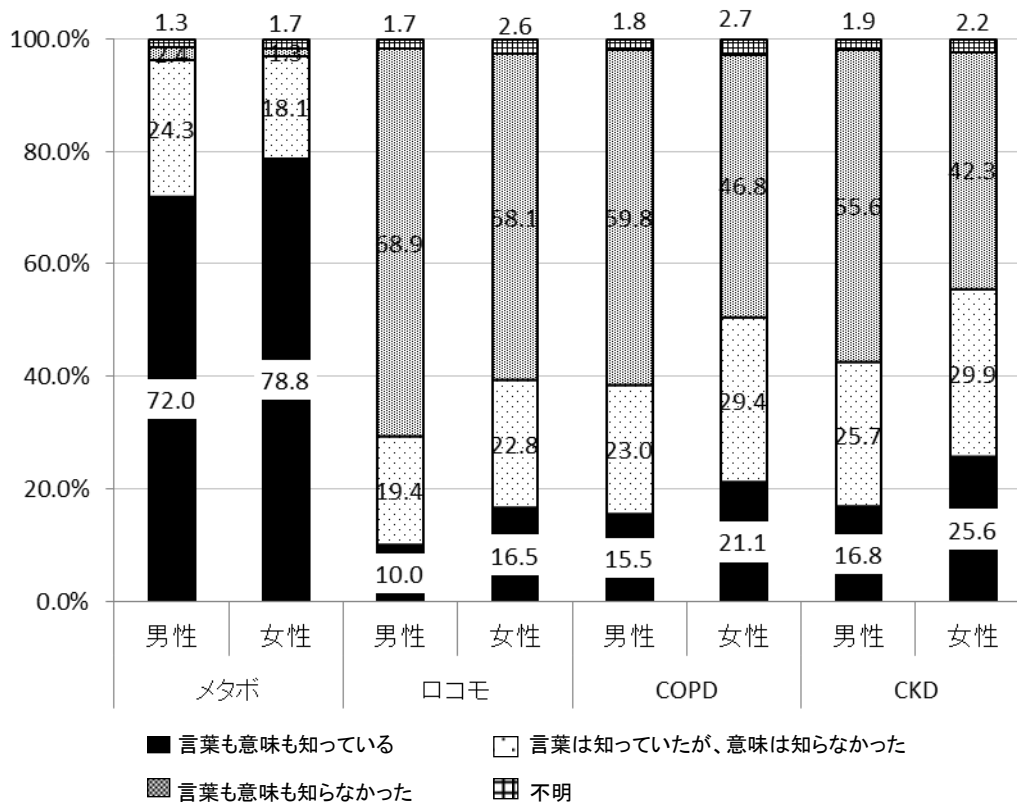
- メタボリックシンドローム等の認知度については、「言葉も意味も知っている」方が約7割と多いですが、メタボリックシンドローム以外は低い状況です。特に、男性の認知度が低く、ロコモティブシンドロームやCOPD、CKD等、認知度を高めていくことが求められます。

【生活習慣病の認知度】

【認知症と生活習慣病との関係の認知状況(H27年調査)】



【メタボリックシンドローム等の認知度(H27年調査)】



注: メタボ⇒メタボリックシンドローム(内蔵脂肪型症候群)

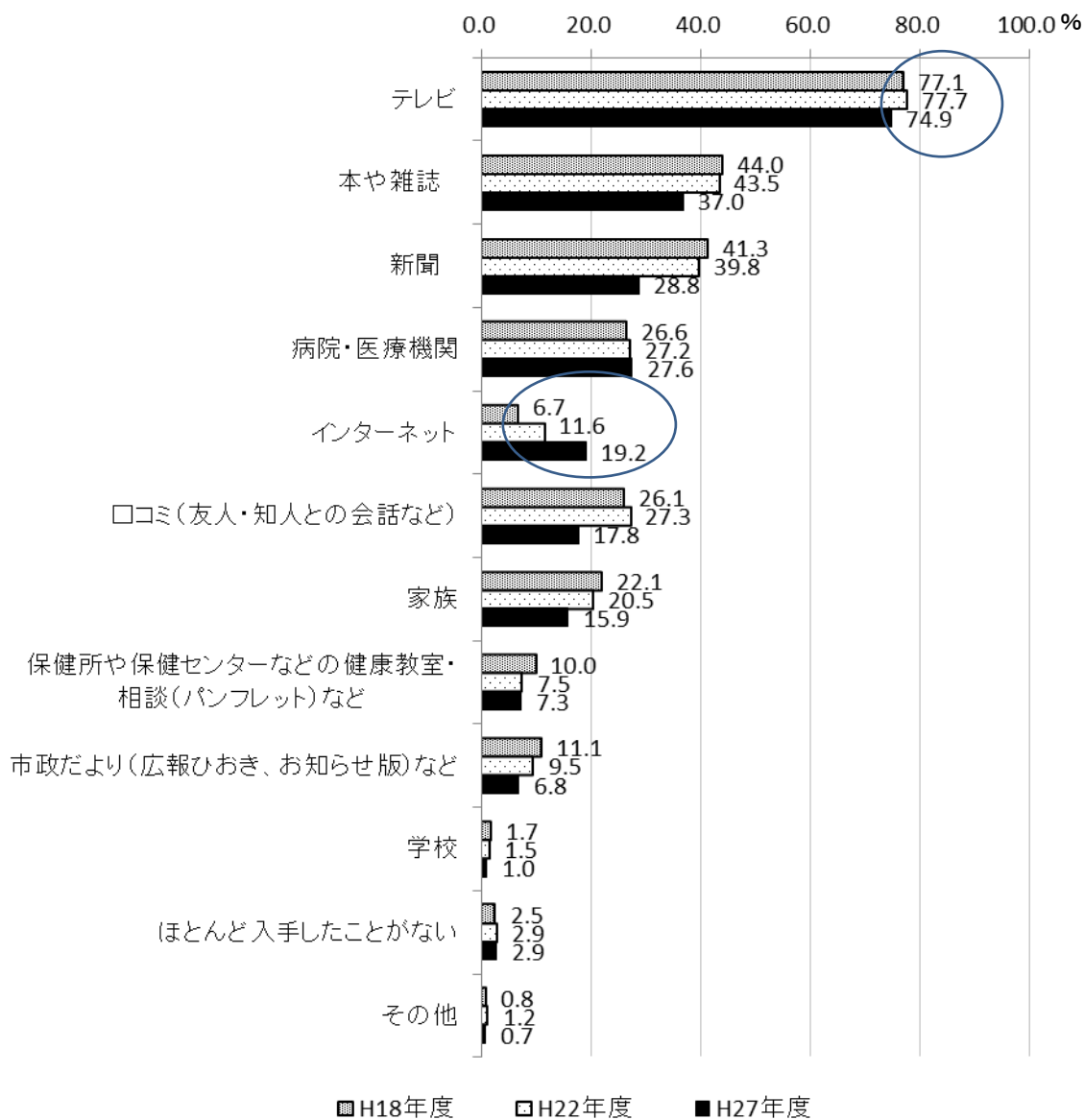
ロコモ⇒ロコモティブシンドローム(運動器症候群)

COPD⇒COPD(慢性閉塞性肺疾患)

CKD⇒CKD(慢性腎疾患)

- 健康に関する情報の入手先では、「テレビ」が74.9%と最も高い割合ですが、前回調査に比べやや減少し、「インターネット」は2割近くまで増加しています。全体でみると本や雑誌、新聞、市政だより等の活字によるもの、また、家族や友人等の会話によるものが減少しています。

【健康に関する情報の入手先】



## (7) 介護予防

【健康行動の数値目標:介護予防】

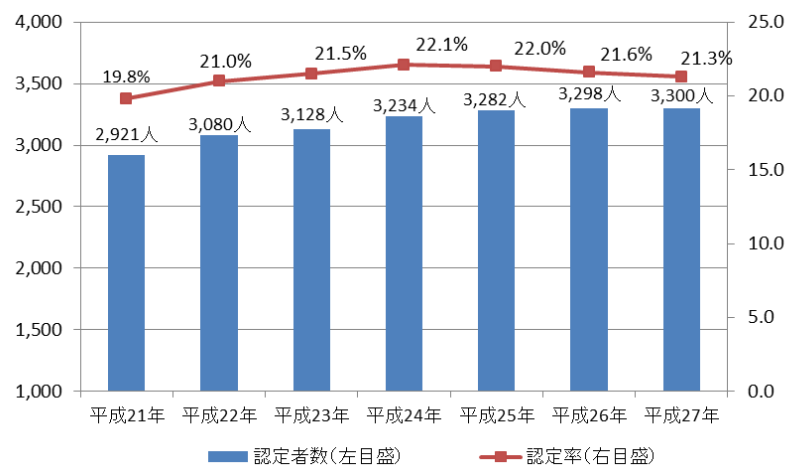
項目		H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価
介護予防	生きがいがある人の割合	77.0%	77.3%	85%	82.3%	○
	60・70歳代の外出頻度(週1回・ほとんどしない)	13.0%	13.9%	-	6.0%	-
	脳血管疾患が原因の要介護者(65歳以下)	65.0%	64.9%	50%	56.3%	○

### 【評価・課題】

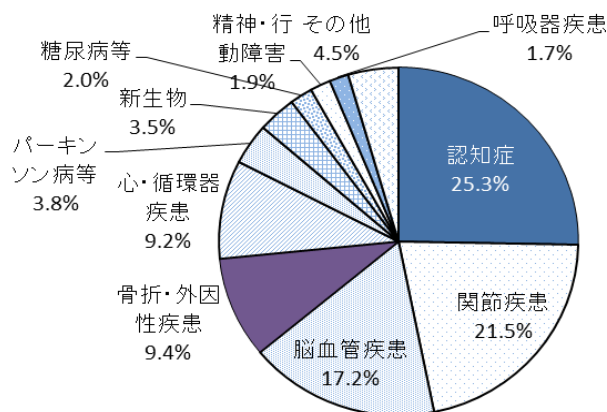
● 要介護(要支援)認定者は、年々増加傾向にあり、平成27年には3,300人に達しています。認定率についてはやや低下してきておりますが、今後、団塊の世代が後期高齢者となってくることから、さらなる増加も懸念され、健康寿命の延伸がこれまで以上に重要なこととなってきます。

要介護(要支援)認定者の傷病(診断)名の内訳をみると、認知症、関節疾患、脳血管疾患の順となっていることから、予防のための食・栄養、運動等、あらゆる面からの活動や施策が重要性を増してくると思われれます。

【65歳以上の要介護(要支援)認定者及び認定率の推移】



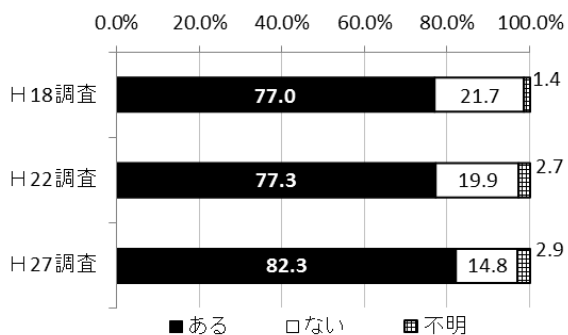
【傷病(診断)名別件数の割合(H27年度)】



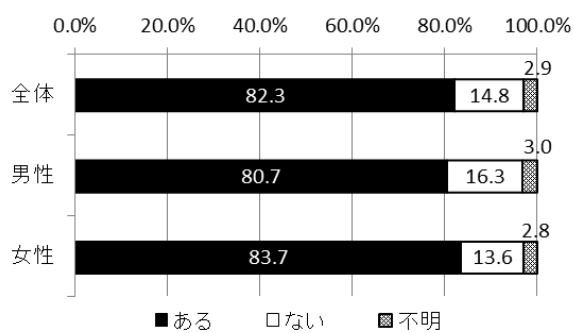
- 「生きがいがある」、「外出頻度」、「運動を週2回以上実施している」、「食事を規則正しく食べている人」、「いきいきサロン会場数の増加」、「認知症サポーター数」については、何れも改善、向上してきています。そのなかで、性別、年代別にはやや差が生じています。

具体的には、①定期的な運動について30代～50代の実施率が低い、②年代が低いほど欠食率が高い、③60代以上で外出を控える傾向がある等については、対応策が求められます。

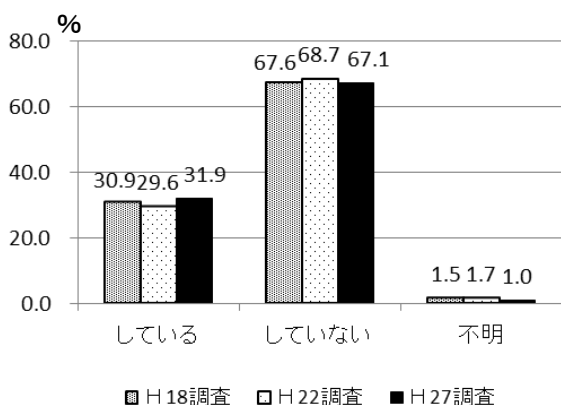
【生きがいの有無の推移】



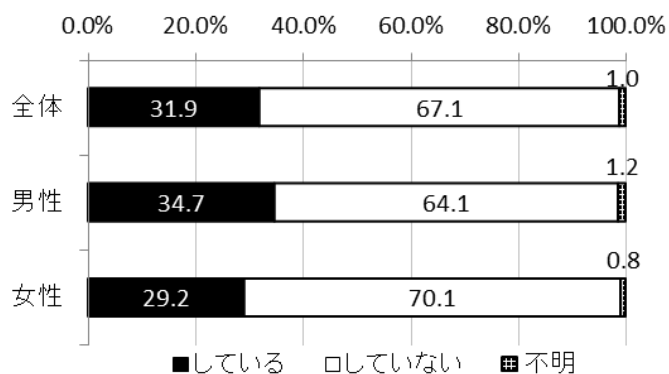
【生きがいの有無】



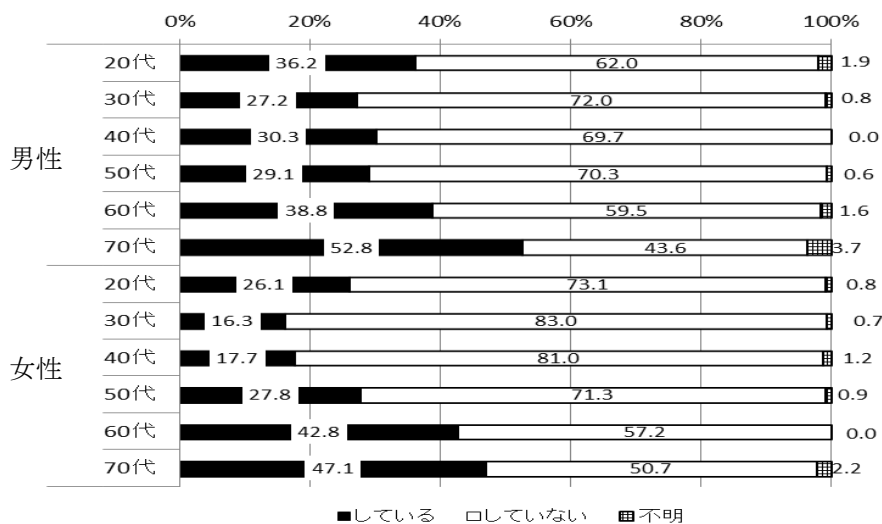
【定期的な運動・スポーツの実施状況】



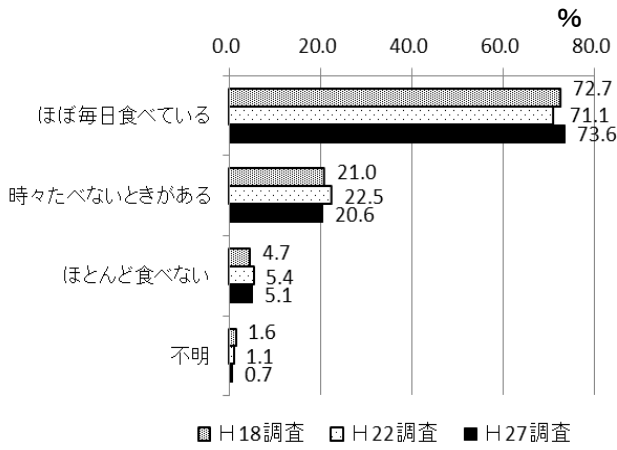
【定期的な運動・スポーツの実施状況(H27年調査:性別)】



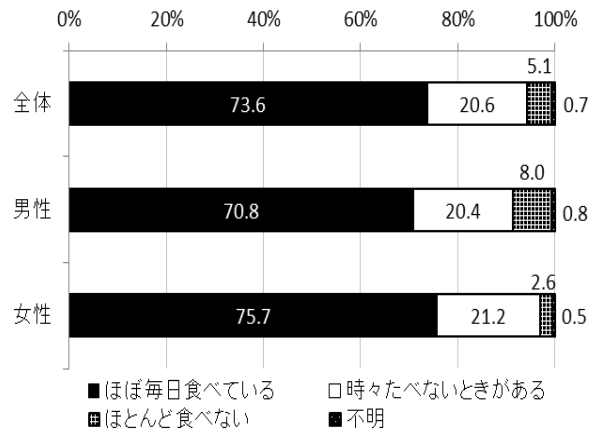
【定期的な運動・スポーツの実施状況(H27年調査:性・年代別)】



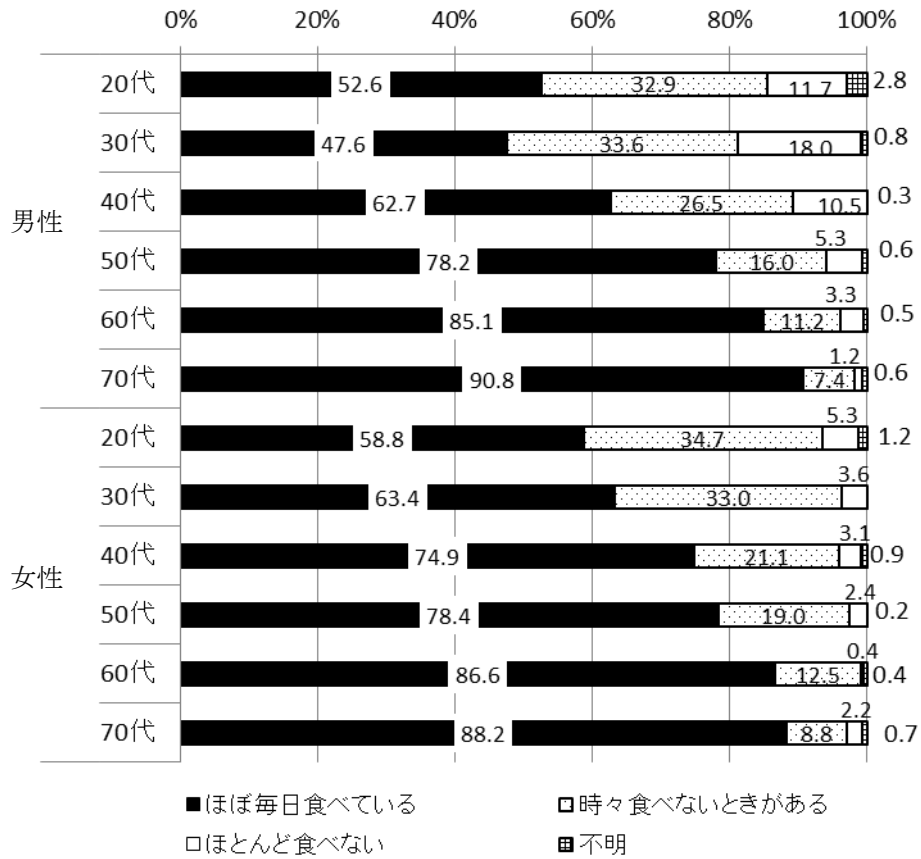
【規則正しい食事の実施状況】



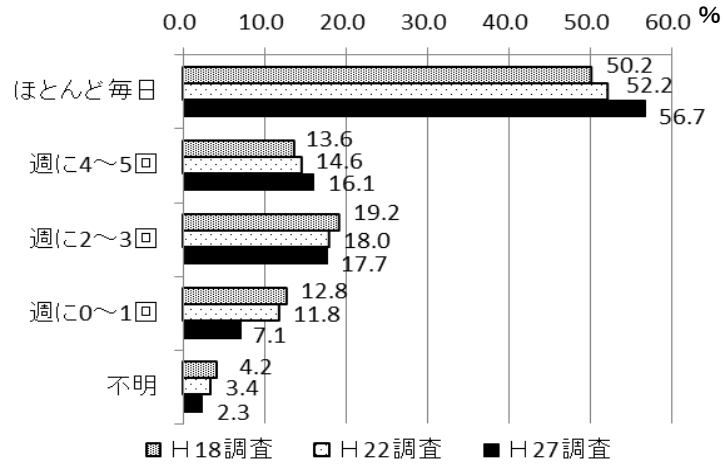
【規則正しい食事の実施状況 (H27年調査: 性別)】



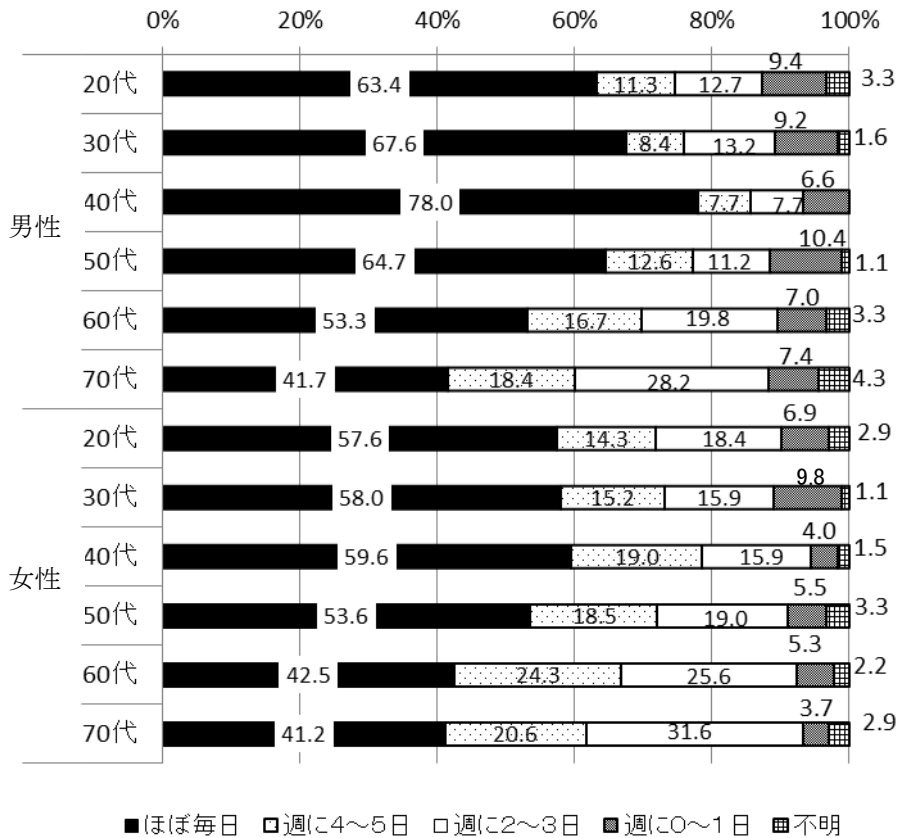
【規則正しい食事の実施状況 (H27年調査: 性・年代別)】



【外出頻度の推移】



【外出頻度(H27年調査:性・年代別)】



【いきいきサロン数、認知症サポーター累計数の推移】

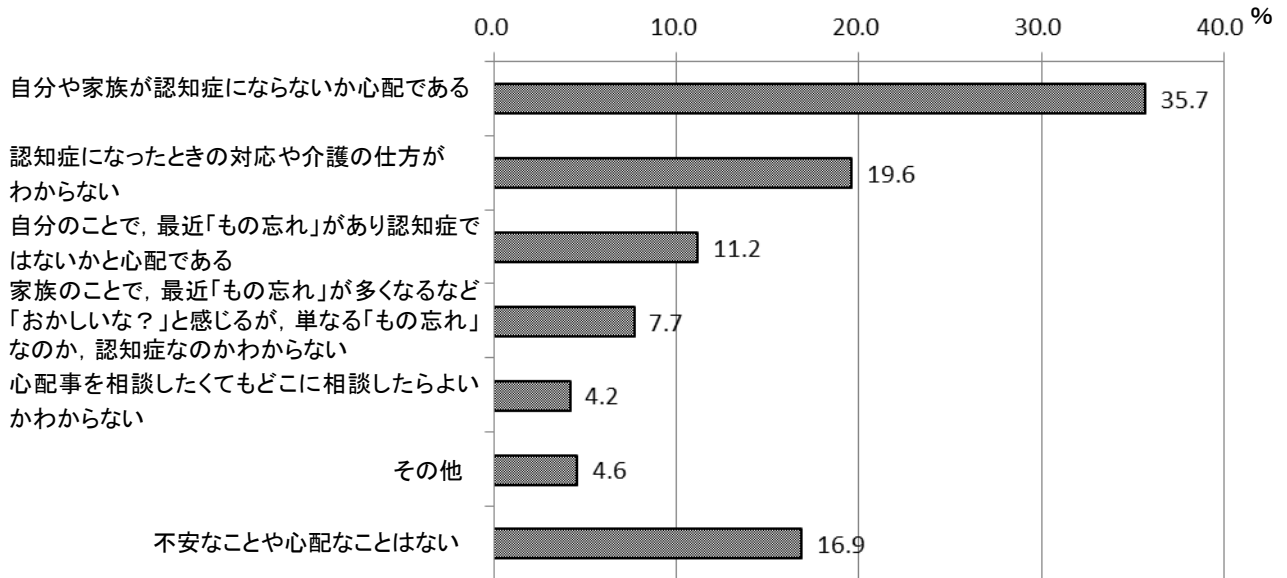
(単位:箇所、人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
いきいきサロン数	121	122	128	128	127	129
認知症サポーター累計数	1,085	1,526	2,361	3,480	4,761	5,874



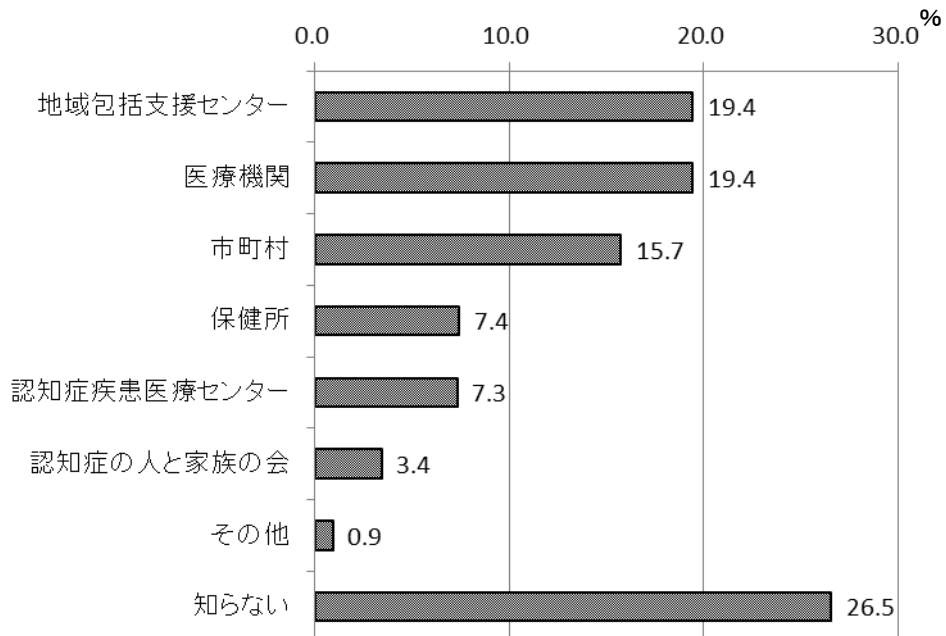
- 認知症について、約8割の人が不安や心配に思っている中、相談窓口を知らない人が26.5%と多いことから対応策が求められます。

【「認知症」についての不安や心配なこと】



資料:「日置市高齢者実体調査・日常生活圏域ニーズ調査(平成26年3月)」

【「認知症」について知っている相談窓口について】



資料:「日置市高齢者実体調査・日常生活圏域ニーズ調査(平成26年3月)」

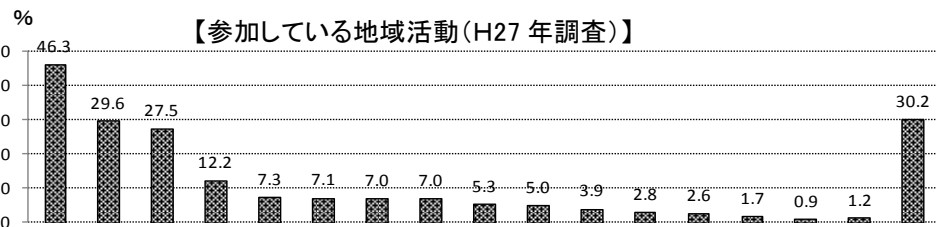
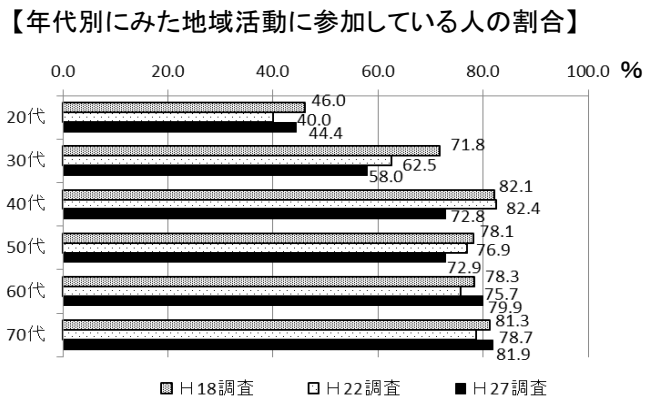
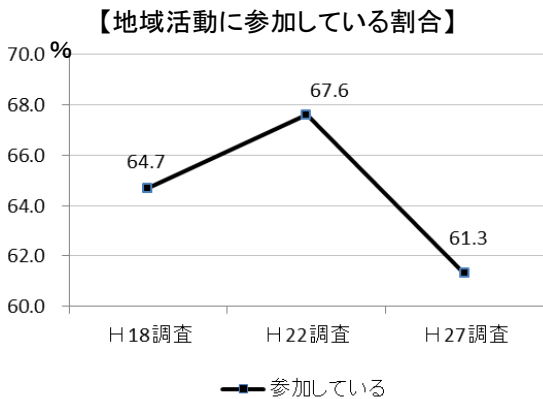
(8) 地域づくり

【健康行動の数値目標:地域づくり】

項目		H18現状値	H22現状値	H27目標値	H27現状値	評価
地域づくり	地域活動に参加している人を増やす。 (20歳代～50歳代の男性の参加)	64.7%	67.6%	70%	61.3%	▼

【評価・課題】

- 「地域活動に参加している人を増やす(20代～50代の男性)」の割合は、目標値を大きく下回る結果となりました。男性の60代以上及び女性を含む全体でも地域活動に全く参加していない人の割合がやや増加している状況です。特に、居住地別には、東市来・伊集院地域で約3人に1人が「参加しているものはない」と回答しています。



	サンプル数	参加している地域活動(H27年調査)																	
		自治会・町内会	地区の行事	地区の祭り、イベント	PTA・子ども会(育成会)	ボランティアなどの活動	スポーツクラブなどの団体	青年会(団)婦人会	趣味のサークル	いきいきサロン	地域おこし、まちづくり運動	高齢者クラブ	歩こう会	教養・学習サークル	消防団	消費者団体(生協など)や市民運動の団体	その他	参加しているものはない	
全体	3,747	46.3	29.6	27.5	12.2	7.3	7.1	7.0	7.0	5.3	5.0	3.9	2.8	2.6	1.7	0.9	1.2	30.2	
性別	男性	1,708	45.3	30.2	25.9	8.3	7.8	7.4	4.3	4.5	2.4	6.4	3.6	2.3	1.6	3.5	0.4	1.1	32.8
	女性	1,890	46.8	28.9	29.2	16.1	6.6	6.8	9.4	9.3	7.5	3.6	3.8	3.4	0.2	1.3	1.3	28.1	
年代別	20代	464	11.2	8.6	13.6	2.4	3.2	6.5	1.1	4.1	0.2	2.6	0.0	0.2	1.3	1.1	0.0	0.9	55.6
	30代	536	28.4	19.4	26.5	23.7	2.6	4.9	3.0	3.5	0.2	2.1	0.2	0.7	1.5	0.9	1.7	42.0	
	40代	628	47.9	29.0	31.4	35.5	4.3	7.3	7.5	3.7	0.0	2.1	0.2	1.9	2.4	2.9	0.2	1.6	27.2
	50代	820	56.5	30.6	24.6	8.0	6.8	6.0	12.0	5.4	2.6	6.0	0.5	2.0	1.7	2.7	1.2	0.7	27.1
	60代	926	58.7	41.0	33.6	1.7	11.8	8.0	8.9	12.0	9.4	7.9	4.6	5.0	4.0	0.9	1.3	1.1	20.1
70代	332	60.2	42.8	33.1	3.0	14.5	11.7	3.6	13.3	25.6	7.8	27.7	8.1	5.7	0.9	1.2	1.5	18.1	
居住地別	伊集院地域	1,709	45.6	26.3	25.2	13.8	6.5	7.5	3.7	7.7	3.6	2.8	3.2	0.8	2.8	1.3	0.9	1.2	31.4
	東市来地域	1,027	40.2	25.9	24.0	11.0	7.8	7.2	8.3	6.2	5.6	4.7	4.6	2.4	1.5	0.7	1.3	33.9	
	日吉地域	424	49.1	39.6	36.3	12.0	9.0	7.5	9.7	9.2	7.1	9.2	5.7	3.8	4.0	3.3	1.7	0.7	25.7
	吹上地域	587	56.7	38.3	34.2	10.2	7.3	5.5	12.6	4.6	8.5	7.7	3.6	5.1	1.5	2.2	0.7	1.4	23.3

注:単位は件数、%

## 第4章 計画の基本的な考え方

### 1 基本理念

# 生涯現役で豊かな人生をすごす

市民一人ひとりが健康意識を高め自主的に健康づくりに取り組むとともに、地域の支えあいを基盤とした健康づくり活動の環境を整備し、子どもから高齢者まであらゆる世代の人が、生涯現役で豊かな人生を過ごすことができるまちづくりをめざします。

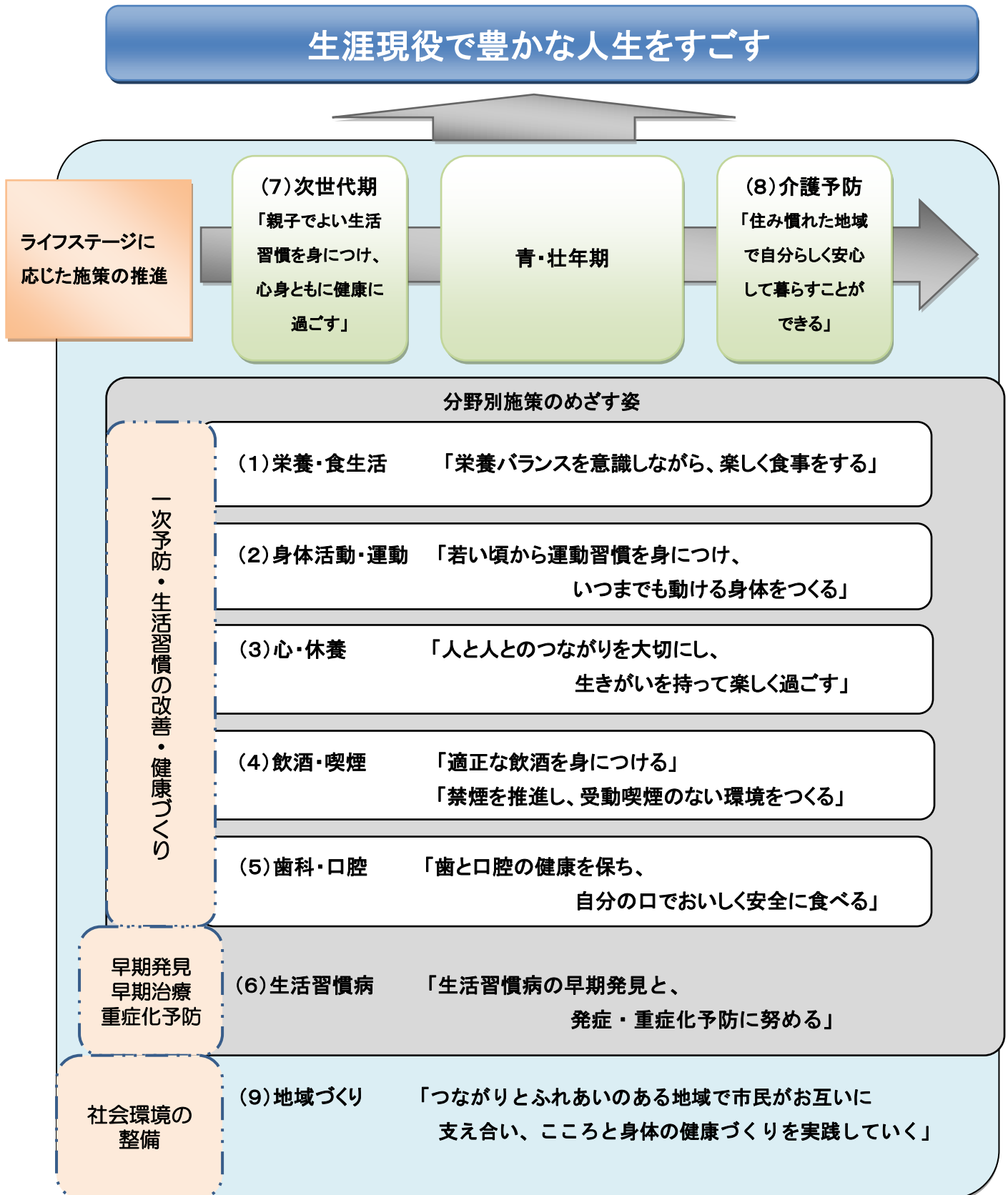
### 2 基本方針

基本理念を目指し、市民の健康づくりの取り組みを、一次予防・生活習慣の改善・健康づくりとして「栄養・食生活」、「身体活動・運動」、「心・休養」、「飲酒・喫煙」、「歯科・口腔」の分野ごとに推進します。また、「生活習慣病」の分野において、早期発見、早期治療、重症化予防に関する取り組みを推進します。

青・壮年期を中心にライフステージに応じた施策として「次世代」と「介護予防」の分野、社会環境の整備について「地域づくり」の分野とし、それぞれ「めざす姿」「スローガン」「重点目標」を掲げ、市民・地域・関係団体・行政が一体となって、これからの取り組みを推進していきます。



### 3 施策の体系



## 第5章 分野別の取組み及び目標の設定

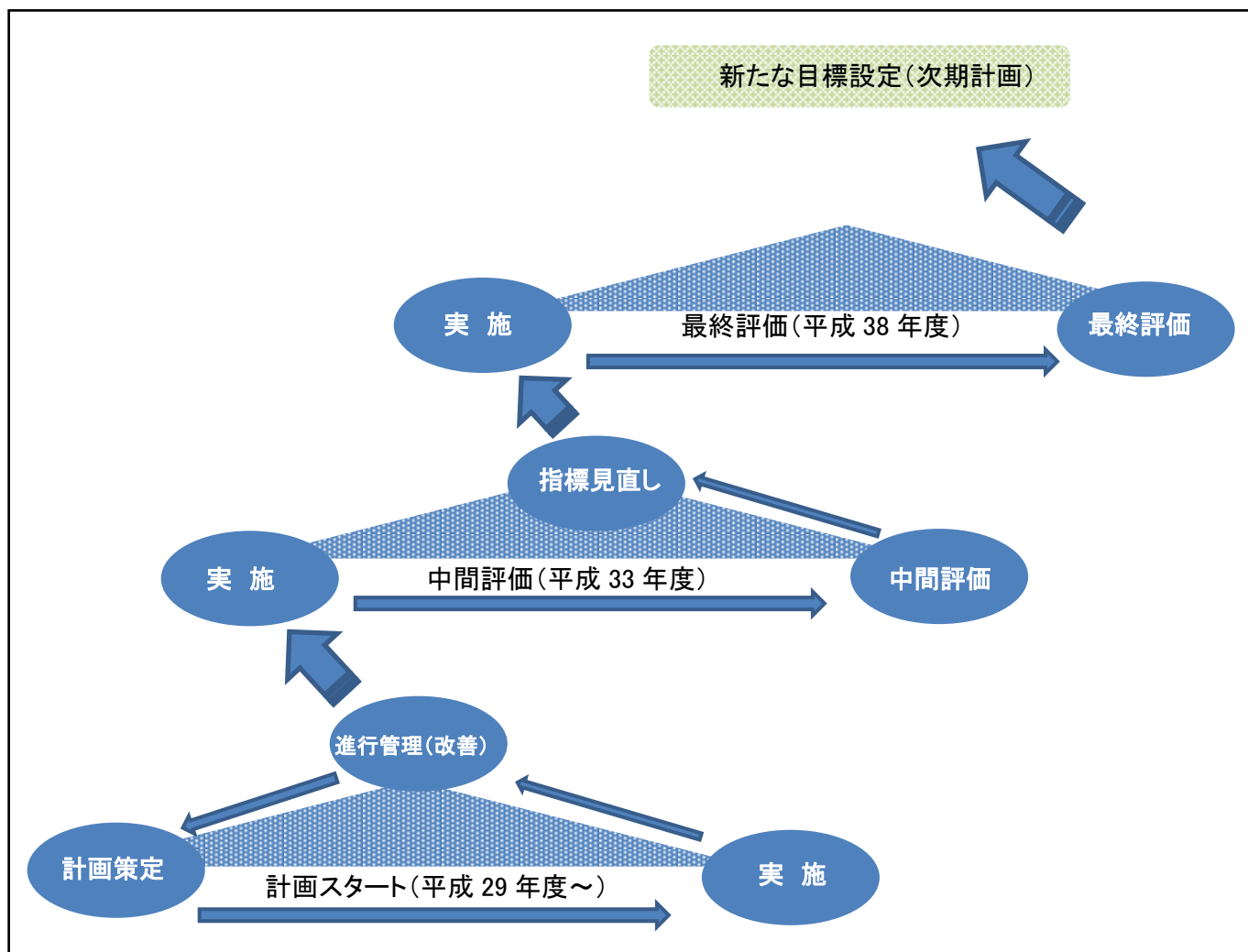
### 1 目標の設定と評価

「元気な市民づくり運動」を効果的に推進するために、市民、関係機関・団体及び行政が「生涯現役で豊かな人生を過ごす」という本市のめざす姿を共有しながら、その目標達成を目指すことが重要となります。そこで、分野別に重点とする目標を掲げ、市民の健康づくりの具体的な健康水準・健康行動の数値目標を設定し、取り組めます。

目標の最終評価は10年後の平成38年度を達成時期として設定しますが、目標設定後5年を目途に中間評価を行い、その後の健康増進の取組みに反映させていきます。また、計画を効果的に推進するため、目標設定(Plan)⇒実施(Do)⇒評価(Check)⇒改善・実施(Action)で進行管理を行っていきます。

なお、第2次日置市総合計画(～平成37年度)等、他の既存計画において、目標が設定されている場合は、これらとの整合性に留意しつつ、取り組むこととします。

【計画の進行管理イメージ】



## 2 分野別の取組み

### (1) 栄養・食生活

#### 【めざす姿】

栄養バランスを意識しながら、楽しく食事をする

#### 【スローガン】

楽しく食べよう 量とバランス考えて

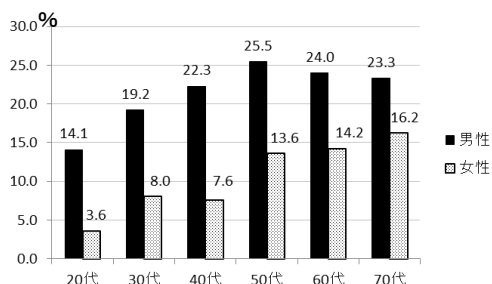
#### 【これまでの取組み】

- バランスの良い食事など、適切な食生活をおくることは、生活の質（QOL）との関連も深く、健康の維持・増進には重要なことです。これまで、高血圧予防教室や糖尿病重症化予防教室などの病態別の教室をはじめ、各種健康教室の開催、地域のマンパワーである食生活改善推進員の養成・育成などに取り組んできました。また、地区公民館を中心とした栄養教室などを開催してきました。

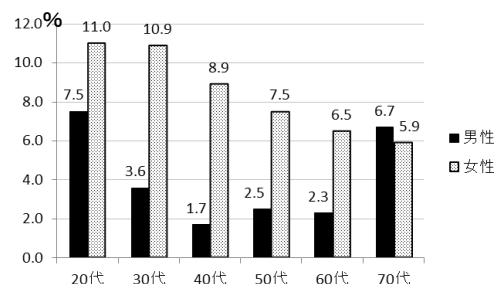
#### 【課題】

- 肥満の割合は男性が女性より約2倍と高く、男性の50代～60代は約4人に1人が肥満に該当しています。逆にやせの割合では女性の20代～30代の約1割がやせに該当しています。生活習慣病予防のため適正体重の維持に努める必要があります。
- 自分の食生活に問題があると感じている人が4割を超え、そのうち食生活を「改善したいと思わない」と回答した人も2割強を占めていることから、食習慣が身体に及ぼす影響への理解を深めていく必要があります。
- 「食事バランスガイド」などを参考にしている人、健康や栄養に関する学習の場に参加している人は共に1割強と少なく、周知・啓発をすすめていく必要があります。

【性別・年代別の肥満の割合(BMI25.0以上)】



【性別・年代別の「やせ」の割合(BMI18.5未満)】



## 【重点目標】

- ① 食事が身体に及ぼす影響について正しい知識をもつことができる。
- ② 食生活の改善に向けた適切な食習慣を実践することができる。
- ③ 多くの市民が健康や栄養に関する学習の場に参加することができる。

## 【これから取組むこと】

### 市民

- 自分の身体や健康に関心を持って、適切な食習慣を実践できるようにします。
- 地域や市で開催している各種教室に参加し、正しい知識の習得に努めます。

### 地域

- 地区公民館や自治会等で栄養や食育をテーマにした教室や行事を開催します。
- いきいきサロン等の様々な機会を通じて、健康づくりに関する情報提供に努めます。

### 関係団体

- 食生活改善推進員は、正しい知識の習得と地域住民への普及・啓発に努めます。
- 生活研究グループは、地産地消や郷土料理の伝承を推進します。
- 学校及びPTAは、食育活動や給食等とおして、子どもたちに栄養学習を行います。
- 事業所は、地産地消、食育活動を推進します。また、特定健診・特定保健指導の推進や健康づくりに関する情報提供に努めます。
- 医療機関は、食事療法や生活習慣病予防のための食事についての指導を行います。

### 市

- 特定健診後の保健指導等で個人にあった食習慣の指導をすすめます。
- 参加しやすい健康教室の開催や、広報誌等を通じた正しい健康情報の提供に努めます。
- 地域、職域、学校、関係機関等と連携し、健康づくりに関する取組みを推進、支援していきます。
- 食生活改善推進員の養成・育成及び活動支援を行います。

## 【具体的事業】

主な事業等	所管(担当課)
特定保健指導、生活習慣病重症化予防教室、栄養に関する健康講話・健康教室・健康相談・訪問指導、母子保健指導、食生活改善推進員活動、栄養に関する健康情報提供	健康保険課
食の自立支援事業（配食サービス）	福祉課
一般介護予防事業	介護保険課
広報誌等情報提供事業	総務課
地域づくり推進事業、自治会育成交付金交付事業	地域づくり課

日置市特産品ブランド推進事業	商工観光課
かごしまの食交流推進事業、グリーンツーリズム推進事業、地産地消推進	農林水産課
公民館講座、出前講座	社会教育課
管理職研修会、栄養教師等による食に関する指導の充実、食育活動、子ども支援センター相談業務	学校教育課

### 【数値目標】

指標	現状値	目標値
肥満者（BMI 25 以上）の割合（20 歳～60 歳代男性）	21.9%	15%
やせの者の割合（20 歳代女性）	11.0%	8%
主食・主菜・副菜を毎食または1 日の中でバランスよく食べている者の割合（20 歳～50 歳代）	49.4%	60%
主食・主菜・副菜を毎食または1 日の中でバランスよく食べている者の割合（60 歳以上）	65.1%	75%
減塩に日頃から気をつけている者の割合（20 歳～50 歳代）	25.2%	35%
減塩に日頃から気をつけている者の割合（60 歳～70 歳代）	54.2%	65%
夕食後に飲食する者の割合（30 歳～50 歳代男性）	30.3%	25%
甘い飲み物（ジュース等）を毎日飲む者の割合（20 歳～40 歳代男性）	30.5%	25%
栄養成分表示を参考にしている者の割合	35.0%	50%
健康や栄養に関する学習の場へ参加する者の割合	13.8%	20%





## (2) 身体活動・運動

### 【めざす姿】

若い頃から運動習慣を身につけ、いつまでも動ける身体をつくる

### 【スローガン】

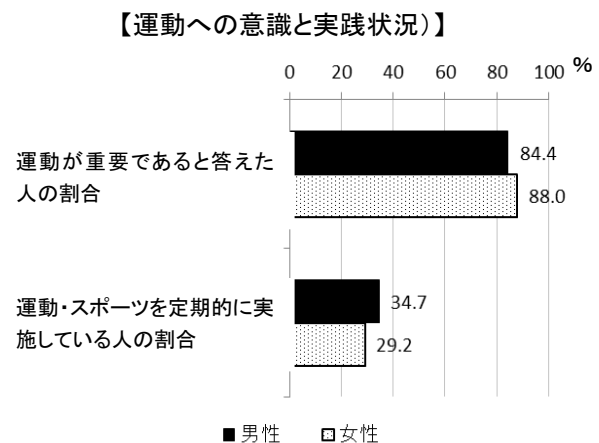
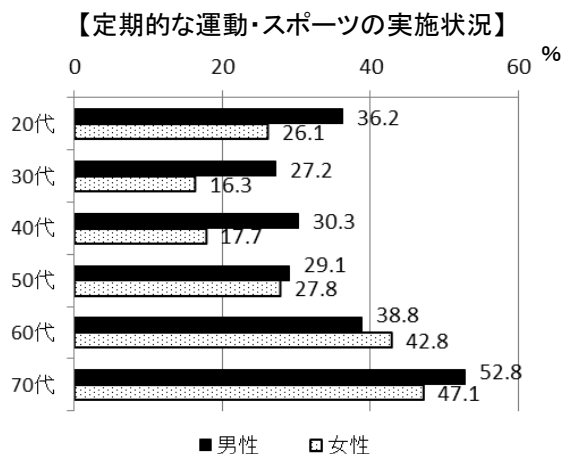
若い頃から続けよう 自分に合った運動習慣

### 【これまでの取組み】

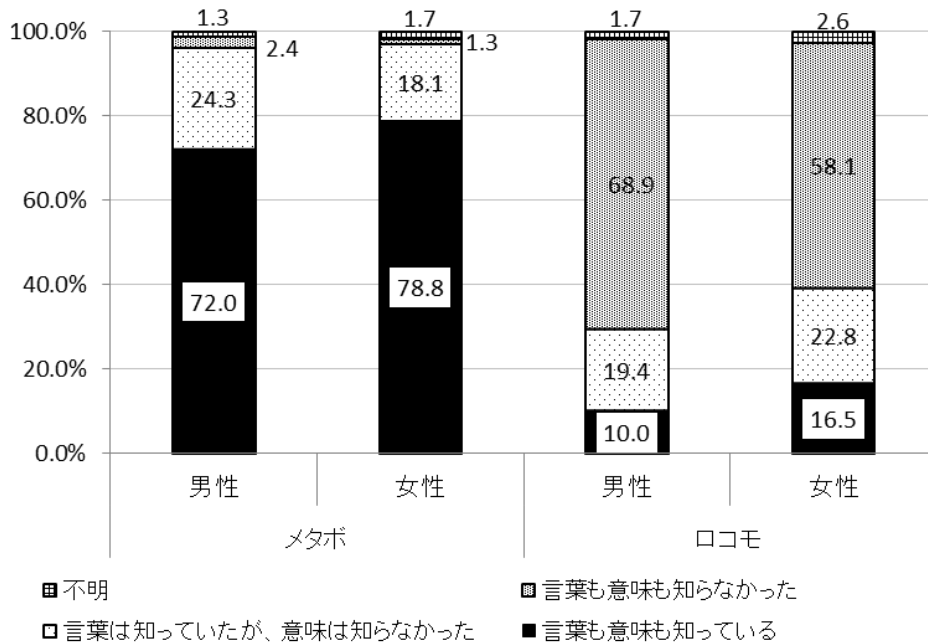
- 地区公民館や自治会を中心に、ウォーキングの普及や体育指導員による正しいウォーキングフォームの指導、さらに、市では運動普及推進員の養成・育成、各種運動教室・イベントの開催等を通じて、市民の運動習慣が定着するよう取り組んできました。

### 【課題】

- 定期的な運動・スポーツの実施状況は、男女とも30代～50代で低い状況です。特に、女性の30代～40代では、20%を下回っています。
- 健康に対する運動の重要性については広く認識されていますが、実際の行動には結びついていない状況です。
- 20代～60代の男性で肥満の割合が21.9%と、女性の10.4%と比較して高い状況です。
- メタボリックシンドロームの認知状況は75.2%と高い状況ですが、ロコモティブシンドロームの認知状況は13.2%と低い状況です。
- 1日の平均歩数が「7,000歩未満」が全体の79.9%を占めており、特に女性は82.9%と高い割合を占めています。

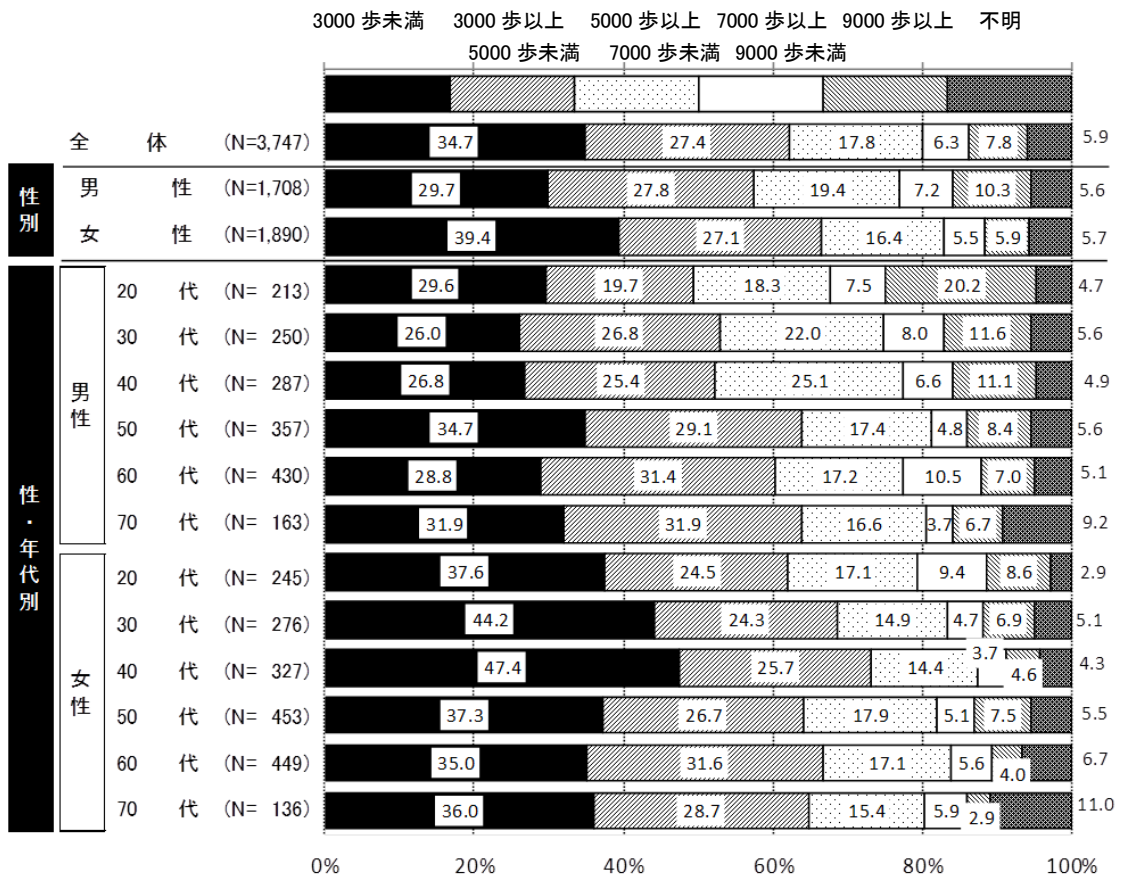


【メタボリックシンドローム等の認知度(H27年調査)】



注:メタボ⇒メタボリックシンドローム(内蔵脂肪型症候群)  
 ロコモ⇒ロコモティブシンドローム(運動器症候群)

【1日の平均歩数】



## 【重点目標】

- ① 若いころから運動習慣を身につけることができる
- ② 運動を継続して取り組むことができる

## 【これから取り組むこと】

### 市民

- 家族や仲間とともに運動に取り組み、地域の健康づくり活動にも積極的に参加します。
- ライフスタイルに合わせた運動を見つけ、日常生活の中で、実施、継続していきます。

### 地域

- 異世代で楽しめる運動や若い世代も参加しやすい運動の実践に取り組みます。
- 地域の運動指導者を活用しながら、運動の普及啓発を行います。

### 関係団体

- 各種団体は、運動の実践と取り組みやすい環境づくりに努めます。
- 運動普及推進員は、運動に関する正しい知識の習得と地域住民への普及・啓発に努めます。

### 市

- 特定健診後の保健指導において個人にあった運動指導をすすめます。
- 参加しやすい健康教室（運動教室）の開催に努めます。
- 運動普及推進員の養成や育成、活動支援に努めます。
- 運動を継続して取り組めるよう環境整備に努めるとともに、健康・運動に関連する様々な施設の活用や正しい運動知識に関する情報提供に努めます。
- 安全なウォーキングができる環境整備を図ります。

## 【具体的事業】

主な事業等	所管(担当課)
特定保健指導（再掲）、生活習慣病重症化予防教室（再掲）、運動に関する健康講話・健康教室・健康相談・訪問指導、母子保健指導（再掲）、運動普及推進員活動、運動に関する健康情報提供	健康保険課
ふれあいいきいきサロン、高齢者・障がい者スポーツ大会、高齢者クラブ活動助成事業、福祉施設の活用（温泉施設）	福祉課
一般介護予防事業（筋ちゃん広場、いつまでも元気教室等）（再掲）	介護保険課
広報誌等情報提供事業（再掲）	総務課
地域づくり推進事業、自治会育成交付金交付事業（再掲）	地域づくり課
ウォーキング教室、お花見ウォーク、各種地域イベント（せつぺとべ、美山窯元祭りなど）、妙円寺詣りウォークラリー	商工観光課
国県道・市道・公園・街路整備事業	建設課

渚クリーンナップ事業（吹上浜クリーン作戦）	市民生活課
公民館講座、出前講座（再掲）、スポーツの振興	社会教育課
運動指導法・実技講習会	学校教育課

### 【数値目標】

指標	現状値	目標値
ロコモティブシンドロームについて知っている者の割合	13.2%	80%
肥満者（BMI 25 以上）の割合	16.2%	15%
1日の平均歩数が7,000歩以上の者の割合	14.1%	30%
定期的に運動している者の割合	31.9%	40%



### (3)心・休養

#### 【めざす姿】

人と人のつながりを大切にし、生きがいを持って楽しく過ごす

#### 【スローガン】

大切にしよう 心のゆとりと地域のつながり

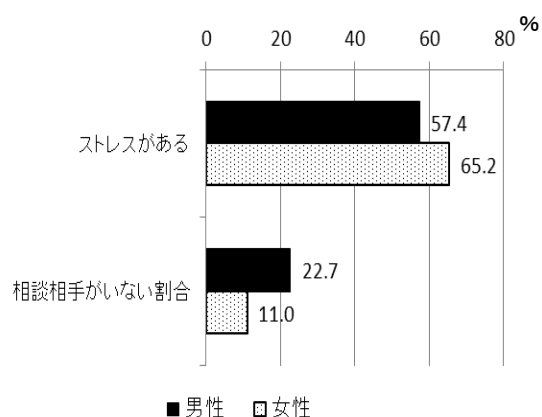
#### 【これまでの取組み】

- ストレスを感じる市民が増加しつつあることや自殺率の高い現状を踏まえ、地域のいきいきサロンでの生きがいづくりやこころの健康に関する講演会、相談会等、関係機関等と連携しながら、心の健康に対する体制づくりに取り組んできました。

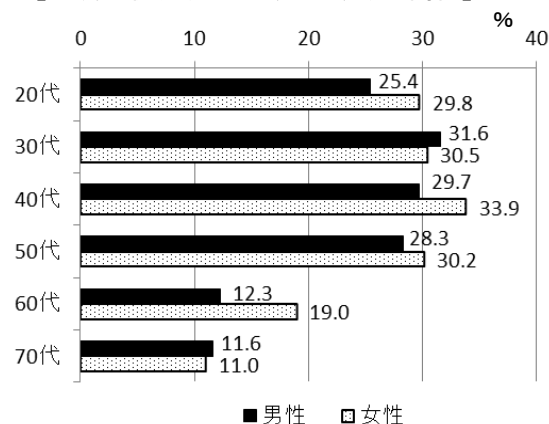
#### 【課題】

- 2週間以上ストレスを感じた経験のある人が20代～50代で多い傾向にあり、女性に高い傾向ですが、男性の約2割は身近な相談相手がない状況です。
- 睡眠は20代～50代の約3割で「やや不足・不足」となっています。
- 8人～9人に1人は自殺について考えたことがある状況です。また、自殺率については男性の方が女性より高くなっています。

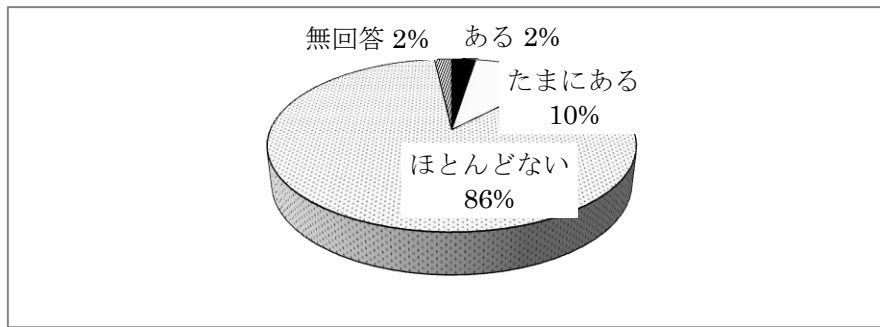
【ストレスと相談相手がない状況】



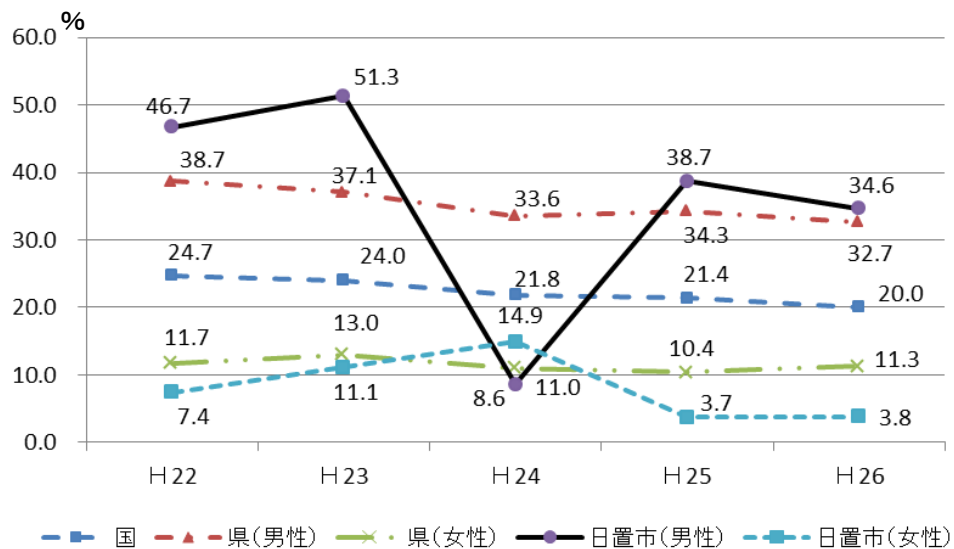
【睡眠の状況(やや不足・不足)の割合】



【自殺について考えたことがある】



【自殺率(人口10万人当たりの自殺者数:国、県(男女)、日置市(男女))】



【重点目標】

- ① 一人ひとりがストレスや心の健康づくりについて理解することができる。
- ② 自分の心の状態に気付き、対応するための知識や方法を身につけることができる。
- ③ 身近に相談できる場があり、地域全体で心の健康づくりに取り組むことができる。

【これから取り組むこと】

市民

- 睡眠を十分取り、気分転換、リラックスできるよう心がけます。
- 心の健康づくりについて知識を深めます。
- ストレス時は家族に相談したり、身近な相談相手を見つけ、ストレス軽減に努めます。

地域

- 地域の人々が気軽に集える場をつくり、気分転換や世代間交流を図ります。
- 身近な人の相談相手になれるよう努めます。

## 関係団体

- 事業所は、ストレスチェックの実施や職場の環境づくりに努め、ワークライフバランスを推進します。
- 医療機関や相談機関など関係機関は連携し心の健康づくり支援に取り組みます。

## 市

- 心の健康づくりに関する講演会や広報紙等で知識の普及・啓発など情報提供に努めます。
- 相談事業所等と連携を図り、支援体制を強化していきます。

### 【具体的事業】

主な事業等	所管(担当課)
特定保健指導（再掲）、心の健康に関する健康講話・相談・訪問指導、心の健康に関する健康情報提供、心の健康づくり講演会、精神科医師相談、母子保健指導（再掲）、母子保健推進員活動	健康保険課
ふれあいいいきサロン（再掲）、在宅福祉アドバイザー活動事業、福祉施設の活用（温泉施設）（再掲）民生委員・児童委員活動、生活困窮者支援事業	福祉課
総合相談事業、認知症対策、介護家族教室	介護保険課
広報誌等情報提供事業（再掲）、相談及び迅速な対応体制の整備、メンタルヘルス研修、在庁時間調査	総務課
地域づくり推進事業（再掲）、自治会育成交付金交付事業（再掲）、男女共同参画推進事業、日置市女性センターの運営	地域づくり課
国保税収納率向上対策（相談業務）	税務課
公園・街路整備事業（再掲）、市営住宅の建替え	建設課
公民館講座、出前講座（再掲）	社会教育課
子ども支援センター相談業務（再掲）	学校教育課

### 【数値目標】

指標	現状値	目標値
ストレスをおおいに感じる者の割合	17.5%	15%
気分転換・ストレス解消している者の割合	64.6%	70%
相談相手がいない者の割合	16.7%	15%
睡眠を十分・まあまあとっている者の割合	73.7%	75%

#### (4) 飲酒・喫煙

##### 【めざす姿】

適正な飲酒を身につける・禁煙を推進し、受動喫煙のない環境をつくる

##### 【スローガン】

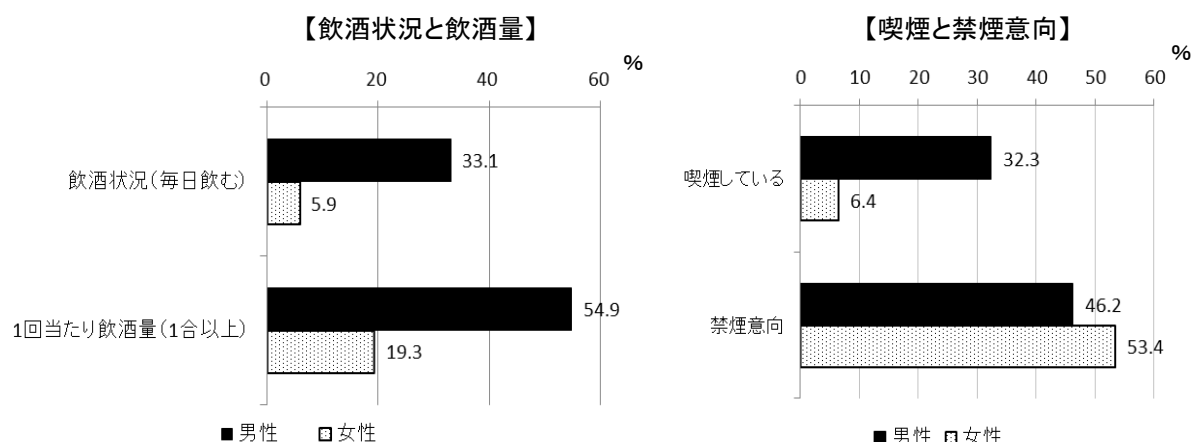
身につけよう 適量飲酒と喫煙マナー！ おすすめよう 禁煙！

##### 【これまでの取組み】

- 適切な飲酒、喫煙による身体への害について、広報誌、保健指導、健康教室等において情報提供に取り組んできました。また、受動喫煙防止の取組みとして、飲食店や地区公民館へ分煙状況のアンケートの実施や各イベント等での分煙の徹底に取り組んできました。

##### 【課題】

- 飲酒について、男性の16.9%、女性の19.3%が生活習慣病のリスクを高める量を超えて飲酒をしている状況であり、健康教室等を通して適正な飲酒の情報提供や啓発活動を行って行く必要があります。
- 喫煙では、男性の約3人に1人が喫煙している状況であることから早急な対策が必要となっています。また、喫煙者の約半数が禁煙の意向があることから、禁煙に向けた支援体制の拡充が求められます。
- 分煙の状況については、事業所等の2割で分煙を実施していないことから、受動喫煙防止に向けた取組みが求められます。





## 【重点目標】

- ① 適正な飲酒量を守る。
- ② 喫煙者の減少と受動喫煙を防止する。
- ③ 未成年者、妊娠中・授乳中の飲酒・喫煙(受動喫煙)を防止する。

## 【これから取組むこと】

### 市民

- 飲酒が及ぼす健康への影響について正しく理解し、適正な飲酒に心がけます。
- 喫煙によるCOPDなどの疾患や受動喫煙による周りの方への影響を正しく理解し、家庭や集会場での分煙の徹底、禁煙に努めます。
- 特に妊婦や子どもが集まる場所では喫煙しないようにします。

### 地域

- 集会場等の管理者は禁煙・分煙を徹底していきます。
- 地域行事では分煙を考慮した適切な場所での喫煙を呼びかけます。
- 喫煙や多量飲酒が及ぼす健康への影響について学ぶ機会を作ります。

### 関係団体

- 事業所は、禁煙を推進するとともに、喫煙場所等を整備し受動喫煙の防止に努めます。
- 教育機関は、幼少期、学童期から飲酒、喫煙に関する正しい教育を行います。
- 関係機関は、たばこの煙のないお店への登録を推奨するなど受動喫煙防止について周知を行います。
- 各種団体は、屋外でのイベントや行事等において、分煙を考慮した適切な場所での喫煙を呼びかけます。

### 市

- 健康教室や広報誌等で飲酒・喫煙に関する正しい知識等について情報提供していきます。
- 地域・学校・職域への適正飲酒や喫煙に関する出前講座等を開催し、情報提供や啓発活動を行っていきます。
- 未成年者・妊娠中・授乳中の飲酒・喫煙による影響について正しい知識の普及啓発を図ります。
- 健康増進法第25条に掲げてある市内の施設について受動喫煙防止の対策を講じられるよう周知していきます。
- 禁煙をサポートする相談窓口の情報提供や禁煙サポート体制の整備を図ります。

## 【具体的事業】

主な事業等	所管(担当課)
特定保健指導(再掲)、生活習慣病重症化予防教室(再掲)、飲酒喫煙に関する健康講話・健康教室・健康相談・訪問指導、飲酒喫煙に関する健康情報提供、禁煙支援、受動喫煙防止対策	健康保険課
生活困窮者支援事業(再掲)	福祉課
広報誌等情報提供事業(再掲)	総務課
地域づくり推進事業(再掲)、自治会育成交付金交付事業(再掲)	地域づくり課
公民館講座、出前講座(再掲)	社会教育課

## 【数値目標】

指標	現状値	目標値
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(成人男性) (1日当たりの純アルコール摂取量が40g以上) ※1	16.9% ※2	12%
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(成人女性) (1日当たりの純アルコール摂取量が20g以上) ※1	19.3% ※2	5%
男性の喫煙者の割合	32.3%	20%
女性の喫煙者の割合	6.3%	4%
職場で分煙を実施している割合	78.1%	100%
自治会施設で建物内禁煙を実施している割合	51.0%	100%
家庭で受動喫煙機会の割合	14.2%	3%

※1:「成人の生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合」とは、それぞれ以下の合計人数を回答者数で割った割合。

男性:「毎日×2合以上」+「週5~6日×2合以上」+「週3~4日×3合以上」+「週1~2日×5合以上」+「月1~3日×5合以上」

女性:「毎日×1合以上」+「週5~6日×1合以上」+「週3~4日×1合以上」+「週1~2日×3合以上」+「月1~3日×5合以上」

※2:現状値は算出不可であり、健康実態調査「1回あたりの飲酒量」の割合を表示。

純アルコール20gの目安量				
ビール中ビン	日本酒	焼酎25度	ウイスキーダブル	ワイン12度
(1本) 500 ml	(1合) 180 ml	(0.6合) 110 ml	(1杯) 60 ml	(2杯) 200 ml

## (5) 歯科・口腔

### 【めざす姿】

歯と口腔の健康を保ち、自分の口でおいしく安全に食べる

### 【スローガン】

毎年受けよう歯科検診！！（特定健診並みのモチベーションで）

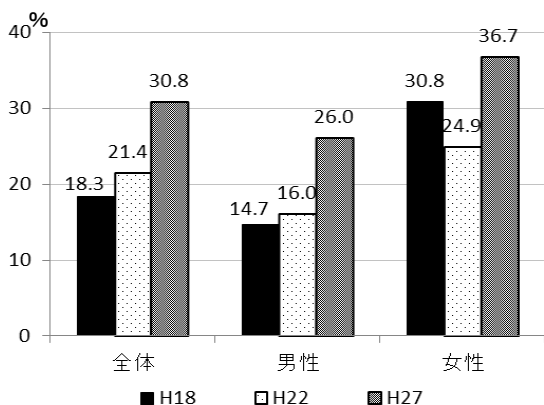
### 【これまでの取組み】

- 歯と口腔の健康は、身体的な健康のみならず、精神的・社会的な健康に対しても大変重要なことです。口から食べる喜びや話す楽しみを保つ上でとても重要であるとともに、歯の喪失が進むと、咀嚼力が低下し、低栄養や身体機能の低下、また、循環器系や呼吸器系、糖尿病等の生活習慣病、早産や低出生体重児出産の要因になるとも言われています。これまで、ライフステージに応じた妊婦・乳幼児歯科検診、歯周疾患検診や歯科保健指導等に取り組んできました。また、これらの重要性について、健康教育や広報誌など機会を通じて普及啓発してきました。

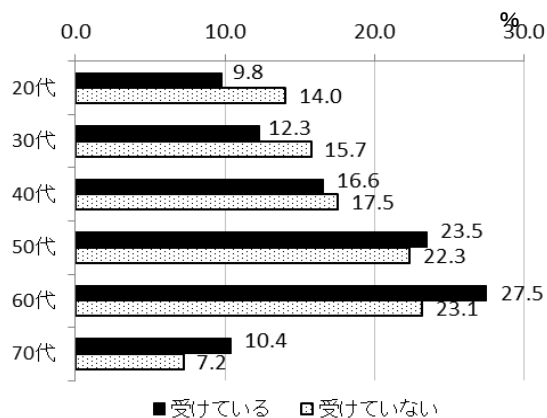
### 【課題】

- 歯科の定期検診を受けている人の割合は増加し、目標値に達成しましたが、男女別では女性 36.7%に対し、男性が 24.9%と低く、世代が若くなるほど低い傾向にあります。今後、定期検診を受ける人の割合を増やすことが求められます。
- 市の歯周疾患検診の受診率は平成 27 年度で 3.11%と、県の受診率に比べて低い状況です。
- 就寝前に歯磨きをしている人は 51.1%と約半数となっており、70 代で 20 本以上自分の歯が残っている割合は、約 3 人に 1 人となっています。歯と口腔のセルフケアを通じて、できるだけ自分の歯を残すことが必要です。
- 歯と口の健康と全身の健康との関係の認知状況について、世代が若くなるほど低い傾向にあります。今後、ライフステージに応じた知識の普及・啓発に努めていく必要があります。
- 3 歳児健診におけるむし歯の保有率状況は下降傾向ですが、乳幼児期における歯の健康については保護者に委ねられることが多い為、保護者や祖父母が子どもの歯や口腔の健康に関する意識を持つ必要があります。

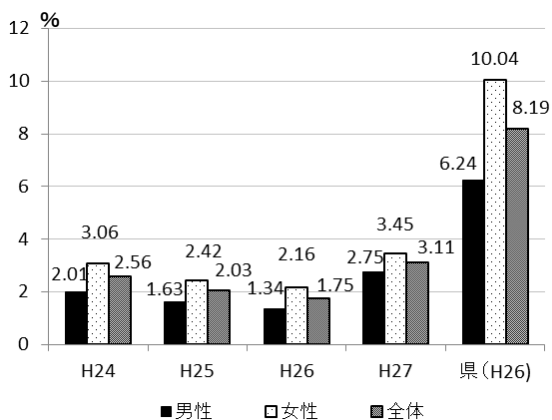
【歯科定期検診受けている人の割合(推移)】



【年代別の歯の定期検診受診状況】

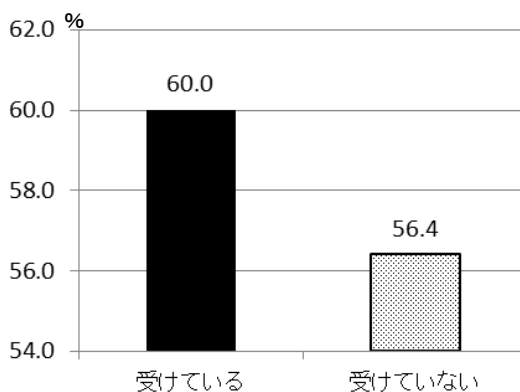


【歯周疾患検診受診率】



【歯の定期検診の受診別:

自分の歯が20本以上残っている人の割合】



【重点目標】

- ① 市民が乳幼児期から歯と口腔の健康が全身の健康づくりにも関係していることを理解し、自ら歯と口腔のセルフケアを実施することができる。
- ② かかりつけ歯科医をもち、定期的に歯科検診を受診し、専門的な指導を受けることができる。

【これから取組むこと】

市民

- 毎食後の歯磨き、特に就寝前の歯磨きの習慣化や、歯科検診を定期的に受診するよう心がけます。
- かかりつけ歯科医をもち、専門的な口腔ケア指導を受けるよう努めます。
- 家族で楽しく、良く噛んで食べるように努めます。
- 家族ぐるみで歯磨きチェックや口腔ケアの習慣づくりを行います。特に保護者は子どもの適切な食習慣の確立と歯と口腔の健康に気を配ります。

## 地域

- 地区公民館での健康教室等において、歯周病予防や定期的な歯科検診の重要性など歯と口腔の健康に関してテーマを設け学習する機会をつくります。
- 地域ぐるみで歯科検診受診の声かけ等を行います。

## 関係団体

- 各種団体は、昼食後の歯磨きを推進し、歯科検診受診を呼びかけます。
- 各種団体は、会合等で歯と口腔についての講話を聞く機会を設けます。
- 歯科医師会や歯科衛生士会は、歯科検診や健康教育など協力、指導を行います。
- 保育園・幼稚園・学校は、歯磨きの習慣作りや歯科に関する教育をすすめます。
- 8020 推進員は、歯科や口腔ケアに関する普及啓発をすすめます。

## 市

- 広報誌等により、かかりつけ歯科医をもつことや歯科検診受診の推奨等強化していきます。
- 乳幼児歯科検診、歯周疾患検診及び妊婦歯科検診について継続して実施していきます。
- 母子手帳交付時や乳幼児健診での歯科指導を継続して実施していきます。
- 各種健康教室で高齢者の口腔機能の維持向上について指導を行っていきます。
- 障がい者（児）や介護を必要とする方々への適切な歯科口腔保健サービス等の提供ができる環境を整えます。

## 【具体的事業】

主な事業名	所管(担当課)
歯周病検診、妊婦歯科検診、幼児歯科検診、母子保健指導（再掲）、特定保健指導（再掲）、生活習慣病重症化予防教室（再掲）、歯科口腔に関する健康講話・健康教室・健康相談・訪問指導、8020 推進員活動、歯科口腔に関する健康情報提供	健康保険課
広報誌等情報提供事業（再掲）	総務課
一般介護予防事業（再掲）	介護保険課
就学前歯科検診 学校歯科検診 歯科保健指導	学校教育課

## 【数値目標】

指標	現状値	目標値
歯科の定期検診を受けている者の割合	30.8%	65%
夕食後または就寝前の歯磨きをしている者の割合	79.4%	90%
70歳で20本以上自分の歯が残っている者の割合	35.9%	50%
40歳代における進行した歯肉炎を有する者の割合 (歯周疾患検診結果)	30.0%	25%
虫歯のない3歳児の割合	82.7%	87%
中学1年生のむし歯本数	1.04本	1.0本未満

## (6)生活習慣病

### 【めざす姿】

生活習慣病の早期発見と、発症・重症化予防に努める

### 【スローガン】

健(検)診で早くからきづこう(気づこう・築こう)自分のからだ

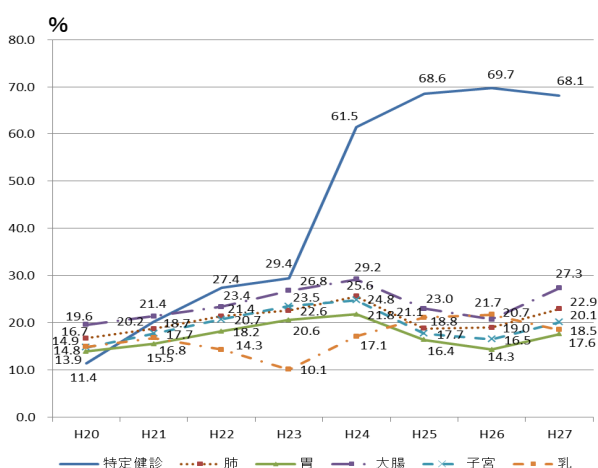
### 【これまでの取組み】

- よい生活習慣を実践していくことは、疾病の発症や重症化予防にとって重要なことです。そこで、健康づくりの一つの手段として特定健診や各種がん検診など各種健(検)診の受診率を向上させることに取り組んで来ました。

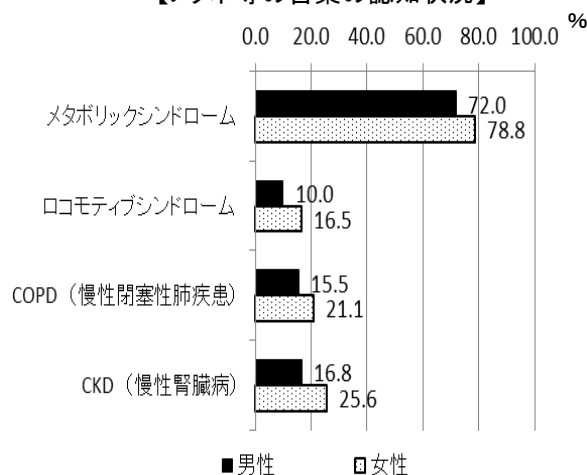
### 【課題】

- 「栄養・食生活」、「身体活動・運動」、「心・休養」、「飲酒・喫煙」、「歯科・口腔」等の健康増進にかかる基本要素を理解し、生活習慣を改善していく必要があります。
- 脳血管疾患や男性の腎不全のSMR値が高いなど、相対的に高い指標に対し、低減を図っていく取組みが求められます。
- 特定健診受診率は68.1%（平成27年度）と目標値を達成しましたが、各がん検診の受診率は20%前後となっています。特定健診受診率の維持と、がん検診受診率の向上を図ることが必要です。
- 今後増加すると予測されるCOPD（慢性閉塞性肺疾患）やCKD（慢性腎臓病）等の知識、認知度を高めていくことが求められます。
- 腎機能異常に気づいていない潜在的なCKD患者が多数存在している可能性が高い。

【特定健診・がん検診受診率の推移】



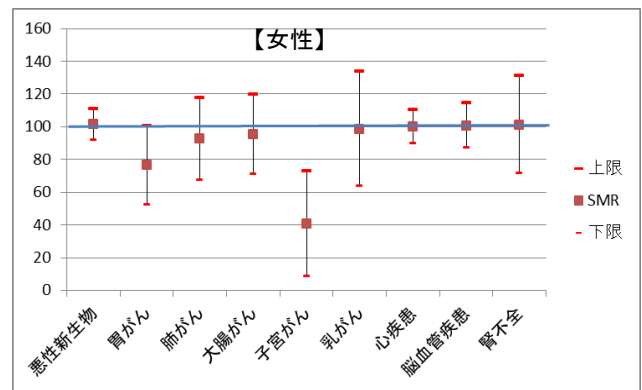
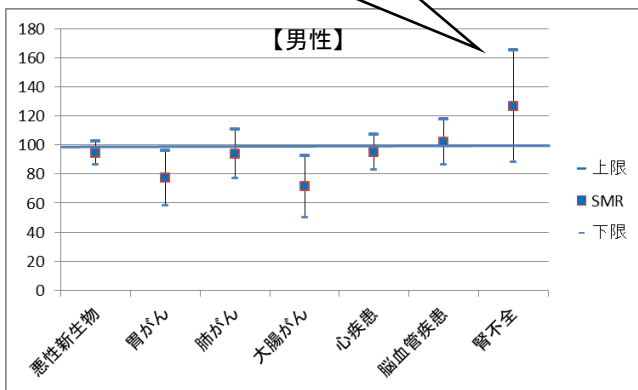
【メタボ等の言葉の認知状況】



注:「言葉も意味も知っている」割合

男性は腎不全の割合が多い

【日置市: SMR(H21-25)】



血圧

血圧分類	高血圧症 治療の有無		治療中		治療なし		再掲			
	受診者		人数	割合	人数	割合	特定保健指導		情報提供	
	人数	割合			人数	割合	人数	割合	人数	割合
	6132 人		2428	39.6%	3704	60.4%	699	18.9%	3005	81.1%
正常	3034	49.5%	892	36.7%	2142	57.8%	206	29.5%	1936	64.4%
正常高値	1429	23.3%	714	29.4%	715	19.3%	204	29.2%	511	17.0%
I度高血圧	1301	21.2%	679	28.0%	622	16.8%	209	29.9%	413	13.7%
II度高血圧	301	4.9%	120	4.9%	181	4.9%	64	9.2%	117	3.9%
III度高血圧	67	1.1%	23	0.9%	44	1.2%	16	2.3%	28	0.9%

(平成27年度データヘルス計画より抜粋)

HbA1c

HbA1c (NGSP)	糖尿病 治療の有無		治療中		治療なし		再掲			
	受診者		人数	割合	人数	割合	特定保健指導		情報提供	
	人数	割合			人数	割合	人数	割合	人数	割合
	5857 人		578	9.9%	5279	90.1%	682	12.9%	4597	87.1%
5.5以下	3477	59.4%	20	3.5%	3457	65.5%	380	55.7%	3077	66.9%
5.6~5.9	1308	22.3%	72	12.5%	1236	23.4%	186	27.3%	1050	22.8%
6.0~6.4	547	9.3%	164	28.4%	383	7.3%	58	8.5%	325	7.1%
6.5~6.9	253	4.3%	134	23.2%	119	2.3%	27	4.0%	92	2.0%
7.0~7.9	173	3.0%	121	20.9%	52	1.0%	19	2.8%	33	0.7%
8.0以上	99	1.7%	67	11.6%	32	0.6%	12	1.8%	20	0.4%

(平成27年度データヘルス計画より抜粋)

腎症患者の全体像

病期	臨床的特徴	治療内容
V 透析療養期	透析療法中。	透析療養、腎移植。
IV 腎不全期	蛋白尿。血清Crが上昇し、腎機能は著明低下する。尿毒症等の自覚症状あり。	食事療法(低蛋白食)、透析療法導入、厳格な降圧治療。
III 顕性腎症期	蛋白尿。腎機能は高度に低下。尿毒症等の自覚症状あり。	厳格な血糖コントロール、食事療法(低蛋白食)、厳格な降圧治療。
II 早期腎症期	微量アルブミン尿、血清Crが正常、時に高値。 ※尿蛋白、血清Cr共に正常だが糖尿病と診断されて10年以上の場合を含む。	血糖コントロール、降圧治療。
I 腎症前期	尿蛋白は正常。血清Crが正常、時に高値。	血糖コントロール。

III期以降腎症患者

合計 641人

(平成27年度データヘルス計画より抜粋 平成25年3月~平成26年2月診療分)

## 【重点目標】

- ① 自分の健康状態を把握するため特定健診、がん検診を受診し、早期発見に努める。
- ② 生活習慣病の発症予防や早期治療、重症化予防に努める。

## 【これから取組むこと】

### 市民

- 毎年特定健診及びがん検診（乳がん検診は2年に1回）を受診します。
- 各種健(検)診の受診をきっかけに、疾病の早期発見や生活習慣の改善に努めます。
- 自分の健康は自分で守る意識を持ち、よい生活習慣を身につけます。

### 地域

- 地区や自治会は、受診勧奨や広報を行います。
- 地域で健(検)診を受けやすい環境づくりに努めます。
- 推進員は研修会で得たCKD、COPDに関する正しい知識の普及啓発を行います。
- 地域の健康課題を知り、料理教室や健康講話、筋ちゃん広場等学習の機会をつくれます。

### 関係団体

- 事業所は、職員健診やストレスチェック等を行い職員の健康管理に努めます。職員健診に含まれないがん検診等については受診勧奨を行います。
- 商工会は、各職場での健康管理や労働安全衛生に対する意識の高揚を図ります。
- 医療機関は、健診受診勧奨や情報提供を行うとともに、検査結果に応じて生活習慣病改善のための指導等を行います。
- 薬剤師会は、薬の知識や正しい飲み方、薬と健康に関する指導や健康教室等を実施します。
- 各種団体は、生活習慣病に関する学習会を開催します。

### 市

- 土曜、日曜、夕方健(検)診等市民が各種健(検)診の受診を受けやすい体制づくりに努めます。また、未受診者対策（要精密検査の未受診者含む）を推進し、疾病の早期発見や生活習慣の改善につながる取り組みを実施します。
- 各種健(検)診データの分析を行い、市民の健康づくりに活用できるよう情報提供や啓発活動に努めます。
- あらゆる機会を通して、健(検)診の必要性和生活改善の重要性に関する啓発活動を推進します。（広報や健康教育等の活用）
- CKD、COPD、ロコモティブシンドローム等、健康情報に関する知識の普及や情報提供に努めます。
- 各課、関係機関等が連携し、生活習慣病予防のための体制構築に努めます。



- 推進員の研修会や健康教育・講演会等でCKD、COPD、ロコモティブシンドローム等に関する正しい知識の普及・啓発を行います。

### 【具体的事業】

主な事業名	所管(担当課)
特定健康診査、特定保健指導（再掲）、生活習慣病等重症化予防教室（再掲）、各種がん検診、健康教育・健康相談・訪問指導（再掲）、がん検診・人間ドック助成事業、生活習慣病に関する健康情報提供	健康保険課
ふれあいいいききサロン（再掲）、高齢者・障がい者スポーツ大会（再掲）、福祉施設の活用（温泉施設）（再掲）	福祉課
一般介護予防事業（再掲）在宅医療・介護連携事業	介護保険課
広報誌等情報提供事業（再掲）	総務課
企業誘致対策事業	企画課
ウォーキング教室（再掲）、妙円寺詣りウォークリー（再掲）、お花見ウォーク（再掲）、各種イベント（再掲）	商工観光課
地産地消推進（再掲）	農林水産課
国県道・市道・公園・街路整備事業	建設課
公民館講座、出前講座（再掲）、スポーツの振興（再掲）	社会教育課
子ども支援センター相談業務（再掲）	学校教育課

### 【数値目標】

指標	現状値	目標値
特定健診の受診率	68.1%	70%
胃がん検診の受診率	17.6%	50%
大腸がん検診の受診率	27.3%	50%
肺がん検診の受診率	22.9%	50%
子宮頸がん検診の受診率	20.1%	50%
乳がん検診の受診率	18.5%	50%
COPDについて知っている者の割合	18.4%	80%
CKDについて知っている者の割合	21.5%	80%
メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合（男性）	43.9%（H26）	33%
メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合（女性）	17.8%（H26）	14%
高血圧Ⅱ度以上の者の割合	6%（H26）	4%
糖尿病で治療中の者うちHbA1C7.0以上の割合	32.5%（H26）	22.5%
糖尿病で治療なしの者のうちHbA1C5.6以上の割合	34.6%（H26）	24.6%

## (7)次世代

### 【めざす姿】

親子でよい生活習慣を身につけ、心身ともに健康に過ごす

### 【スローガン】

親子でつくろう 未来へつながる 健康習慣

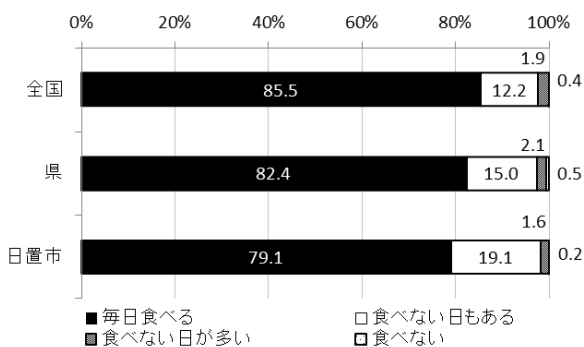
### 【これまでの取組み】

- 「生涯現役で豊かな人生を過ごす」ためには、妊娠期や子どもの頃から健やかな生活習慣を身につけることが必要です。また、親が安心して子育てを楽しみ、子どもが健やかに育つ環境が必要です。これまで、母子保健事業を始めとする妊娠期・子育て期の支援、家庭や学校のみならず地域が子育てサポーターになるような環境づくりに取り組んできました。

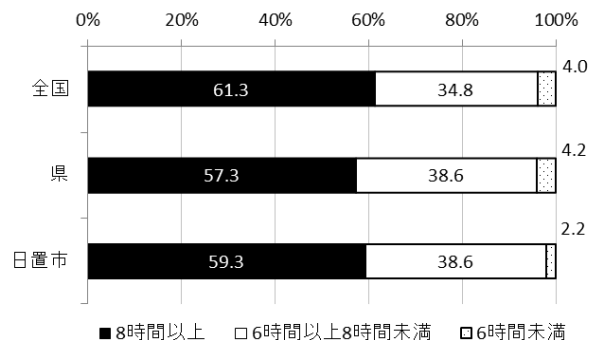
### 【課題】

- 低出生体重児の出生割合が微増しています。医療の進歩により救える命が増えてきているということではありますが、若い世代からの健康づくりや妊娠中の健康管理も大切です。
- 小学校5年生の調査結果において、「朝食を毎日食べる」割合は79.1%と、全国、県の数値より下回っています。また、肥満（中等度、高度）の男児の割合は、4.9%と、国、県の割合と比べ、高い状況です。睡眠時間については、1日8時間以上とっている割合は59.3%であり、県に比べて高く、国と比較すると低い状況です。
- 子どもの頃からの生活習慣は、成人期の生活習慣に影響を与えます。適切な生活習慣を子どもの頃から身につけ、生活習慣病予防の基礎づくりを行うことが必要です。

【朝食を食べる割合：国、県との比較】

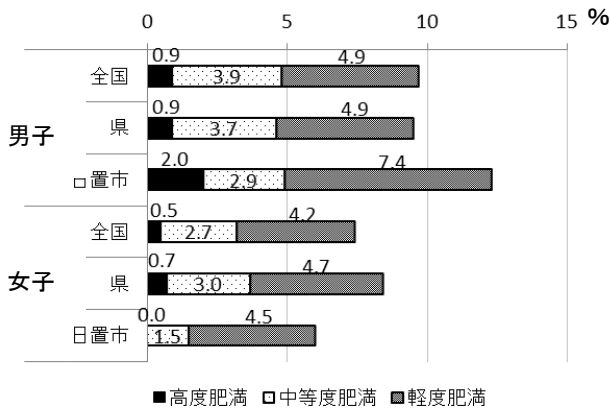


【1日の睡眠時間：国、県との比較】



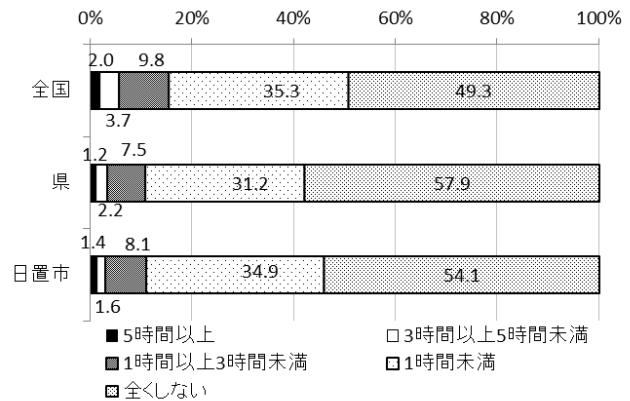
資料：平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小学5年生対象)

【体格調査：国、県との比較】



【平日の携帯電話やスマートフォンの

使用時間：国、県との比較】



【重点目標】

- ① 妊娠期や乳幼児期から、適切な生活習慣を身につける。
- ② 子どもを育てる親が、心身ともに健康に過ごす。

【これから取組むこと】

市民

- 妊娠期から心身の健康づくりを行います。
- 家族で「早寝、早起き、朝ごはん」を実践し、子どもの頃からの適切な食事や運動習慣、睡眠等を身につけます。
- 1日1回は家族で食事をし、バランスのとれた食習慣を身につけます。
- 親が、自らの心身の健康づくりに取り組みます。
- 親子で地域の行事等に積極的に参加し、人との交流を図ります。

地域

- 地域での行事等において、世代間交流を推進、実践します。
- 地区公民館や自治会において、親子で参加できる健康教室等を実施するなど、子どもの頃から健康づくりの普及啓発を図り、習慣化されるよう支援します。
- 未成年への飲酒、喫煙をさせないようにし、分煙を徹底します。
- 母子保健推進員や民生委員は、親が孤立せずに安心して子育てができるよう、声かけや見守りを実施します。

関係団体

- 保育園や幼稚園は、子どもの発達状況に合わせて、正しい生活習慣が身につくよう支援します。また、保護者からの相談対応やアドバイスを実施します。
- 学校は、子どもの頃からの適切な生活習慣を身につけるための指導や、飲酒、喫煙に関する正しい教育を行います。
- 養護教諭部会や栄養教諭部会は、子どもや保護者、関係機関等へ子どもの健康づくりに関す

る情報を普及啓発します。

- P T Aや体育協会等の各関係団体は、子どもの頃からのよりよい生活習慣づくりを意識した取り組み、世代間交流の推進、親世代の健康づくりに視点を置いた取り組みを実施します。

## 市

- 子育て支援計画等、関連計画とも連携しながら、妊娠期からの親子の健康づくりを推進していきます。
- 乳幼児健診、育児相談等の実施や情報提供を行います。
- 適切な生活習慣が身につくよう、関係機関等と連携を図りながら推進します。
- 保健、福祉、教育に関する部署が連携し、切れ目ない支援を実施していきます。

### 【具体的事業】

主な事業名	所管(担当課)
母子健診（妊婦・乳幼児・歯科）事業、子育て支援事業、いのちふれあい体験事業、母子保健推進員活動、親子教室、育児相談、予防接種事業	健康保険課
子ども・子育て支援事業全般 民生児童委員活動（再掲）	福祉課
認知症総合支援事業（キッズサポーター養成）	介護保険課
塵芥処理事業、渚クリーンナップ事業（吹上浜クリーン作戦）（再掲）、環境調査、浄化槽設置整備事業	市民生活課
広報誌等情報提供事業（再掲）	総務課
地域づくり推進事業（再掲）、自治会育成交付金交付事業（再掲）、日置市女性センターの運営（再掲）	地域づくり課
ウォーキング教室、妙円寺詣りウォークリー、お花見ウォーク、各種地域イベント（せつぺとべ、美山窯元祭りなど）	商工観光課
グリーンツーリズム推進事業（再掲）、地産地消推進（再掲）	農林水産課
国県道・市道・公園・街路整備事業	建設課
公民館講座、出前講座（再掲）、スポーツの振興（再掲）	社会教育課
管理職研修会（再掲）、栄養教諭等による食に関する指導の充実（再掲）、体育指導法・実技講習会（再掲）、子ども支援センター相談業務（再掲）	学校教育課
防災訓練・救命講習会、火災予防	消防本部

### 【数値目標】

指標	現状値	目標値
低出生体重児の出生率	12.7%	減少
毎日朝食をとる子どもの割合（小学5年生）	79.1%	90%
肥満（中等度・高度）の男児の割合（小学5年生）	4.9%	減少

## (8)介護予防

### 【めざす姿】

住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすことができる

### 【スローガン】

いきいきと 笑って集って介護予防

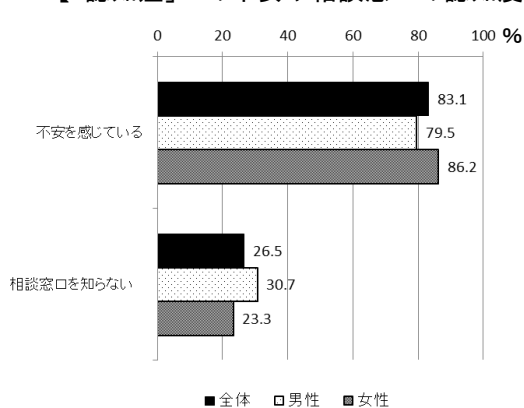
### 【これまでの取組み】

- 健(検)診等の受診勧奨や健康教室、各介護予防事業、認知症予防教室、いきいきサロンや筋ちゃん広場等、身近な場所での介護予防の取組みを実施してきました。また、認知症サポーター養成講座や民生委員等からの声かけを実施するなど、高齢者が安心して過ごせる地域の体制づくりに取り組んできました。

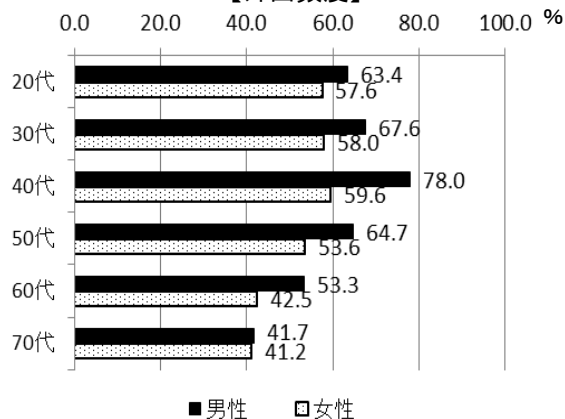
### 【課題】

- 計画年度内に団塊の世代が後期高齢者になるため、要介護者の増加が予想されます。
- 要介護認定者の傷病（診断）の中で認知症の割合が25.3%（P21参照）と高く、また約8割の人が認知症についての不安を感じている中、相談先を知らない、接し方が分からない人が多い状況です。
- 要介護認定者の原因傷病として、認知症、関節疾患、脳血管疾患の割合が多く、早い時期からの予防が必要です。
- 年齢が高くなるにつれ、また、男性より女性に外出を控える傾向があり、閉じこもりによる運動機能や口腔機能等の低下に伴う要介護状態へのリスク軽減に向けた取組が必要である。

【「認知症」への不安や相談窓口の認知度】



【外出頻度】



注:「ほとんど毎日外出している」割合

## 【重点目標】

- ① 健康的に年を重ね、自分で自分のことが出来る身体を維持する。
- ② 住み慣れた地域で、生きがいや人との交流を楽しみながら、安心して生活する。

## 【これから取組むこと】

### 市民

- 生活習慣を見直し健康で元気に生活する。
- 定期的に健(検)診を受け、早期発見・早期治療により介護度の重度化を防ぐ。
- 認知症に関する正しい知識を身につける。
- お互いに声をかけ合い、地域の行事等に積極的に参加し交流を深める。
- 趣味をみつけるなど、生きがいのある日常生活を送る。
- 介護予防教室等に積極的に参加する。

### 地域

- 介護予防について学ぶ機会をつくれます。
- 認知症に関する正しい知識を身につけ、地域で見守ります。
- 高齢者が孤立しないように、お互いに声かけを行います。
- 住民が気軽に参加でき、世代間交流を図れる場を作ります。
- 民生委員や福祉アドバイザー等は、外出頻度が減りつつある高齢者等に早めに気付き支援します。

### 関係団体

- 各種団体は、介護予防についての知識を持ち普及啓発します。
- 各種団体は、交流の場や交流の図れる場所を提供します。

### 市

- 関係各課で連携を図り、介護予防事業の取組みを強化するとともに、介護予防教室等の普及・啓発活動に取り組みます。
- 高齢者クラブやいきいきサロン、筋ちゃん広場などの支援強化を図りながら、市民が気軽に集い、交流できる環境づくりに取り組みます。
- 住み慣れた地域で生き生きと安心・安全に暮らせることができるように地域包括ケアシステムの構築を図ります。
- 認知症サポーターの養成、相談窓口の充実等、認知症の方への支援や認知症の知識の普及、予防対策の強化に努めます。
- 高齢者の豊かな知識や経験を有効的に活用することができる場づくりに取り組みます。
- 虚弱（フレイル）や筋力・身体機能低下（サルコペニア）の知識の普及と予防に取り組みます。

## 【具体的事業】

主な事業等	所管(担当課)
特定健診、長寿健診、特定保健指導、生活習慣病重症化予防教室、介護予防に関する健康講話・健康教室・健康相談・訪問指導、各健康づくり推進員活動、介護予防に関する健康情報提供	健康保険課
食の自立支援事業（配食サービス）（再掲）、ふれあいいいききサロン（再掲）、在宅福祉アドバイザー活動事業（再掲）、高齢者・障がい者スポーツ大会（再掲）、高齢者クラブ活動助成事業（再掲）、福祉施設の活用（温泉施設）（再掲）民生児童委員活動（再掲）	福祉課
一般介護予防事業（再掲）、総合相談事業（再掲）、認知症総合支援事業（再掲）、在宅医療・介護連携事業（再掲）、高齢者元気度アップ地域包括ケア推進事業	介護保険課
広報誌等情報提供事業（再掲）	総務課
交通対策（コミュニティバス、乗合タクシー事業）	企画課
地域づくり推進事業（再掲）、自治会育成交付金交付事業（再掲）	地域づくり課
ウォーキング教室（再掲）、お花見ウォーク（再掲）	商工観光課
国県道・市道・公園・街路整備事業（再掲）	建設課
公民館講座、出前講座（再掲）、スポーツの振興（再掲）	社会教育課

## 【数値目標】

指標	現状値	目標値
生きがいがある者の割合	82.3%	85%
外出頻度が週1回・ほとんど外出しない者の割合（60歳代・70歳代）	6.0%	3%
65歳以上の要介護認定者率	16.0%	減少
認知症サポーター数	5,874人	8,000人



(9) 地域づくり

【めざす姿】

つながりとふれあいのある地域で市民がお互いに支え合い、こころと身体の健康づくりを実践していく

【スローガン】

声かけと支え合い(愛) 地域でつくろう 健康の和

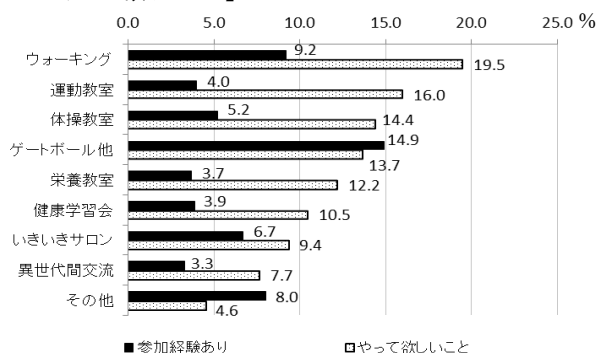
【これまでの取組み】

- 健康づくりを推進する上で、市民一人ひとりの行動はもちろんですが、地域の住民全体を対象とした活動や環境づくりが必要です。本市では、市民、地域、関係機関、行政が一体となった「元気な市民づくり運動」を展開してきましたが、平成 24 年 10 月に「日置市健康づくり推進条例」を制定し、このことを更に進めてきました。地区公民館や自治会では地域のリーダーや健康づくり推進員等を中心に、住民同士の話し合いの場を持ちながら地域の実情に合せた、より効果的な健康づくり活動を推進してきました。

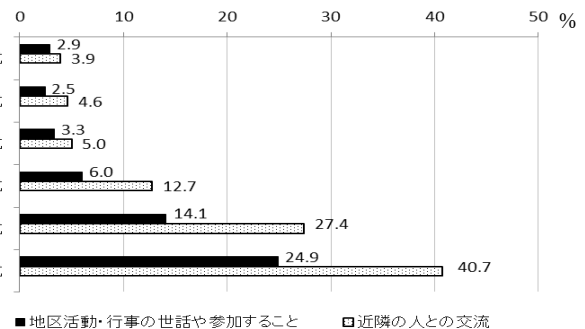
【課題】

- 市民の約3割は地域活動に全く参加していない状況で、年代が若いほど参加しない割合が高くなっています。
- 生きがいの内容では、若い世代中心に「地域活動・行事の世話や参加すること」「近隣の人との交流」の割合が低くなっています。
- 市民の主体的な健康づくりを推進するにあたり、社会全体で個人の健康を支え、守る環境づくり、相互扶助に努める必要があります。
- 生活や経済状況の格差は、健康格差に関係するため、生活支援の視点に立った健康づくり対策が求められます。

【地区・自治会の健康づくり活動への参加経験とやって欲しいこと】



【生きがいの内容(抜粋)】



注: 生きがいの内容で最も多いのは、「家族との団らん・家族の幸せ」で、53.8%(全体)



## 【重点目標】

- ① 地区公民館や自治会での話し合いの場があり、地域の実情に合わせた健康づくりをすすめられる。
- ② 市民の地域活動への参加割合が増え、特に若い世代の参加が増える。

## 【これから取り組むこと】

### 市民

- 地区公民館や自治会の活動に積極的に参加し、地域の人々と交流を深めます。
- 地域活動に参加する時は、近所の方向士でお互いに声をかけ合う。
- 健康づくりについて学習したことを日常生活に取り入れ、近所の人に伝える。
- 地域や職場のコミュニティを大切にする。

### 地域

- 地区公民館や自治会のリーダーを中心に、住民同士の話し合いの場を持ち、目標を共有しながら健康づくり活動を企画、実施していく。
- 若い世代が参加しやすい活動や異世代間交流のできる楽しい活動を開催する。
- 地域住民の健康課題を知り、地域の実情に合わせた健康づくり活動を実施する。

### 関係団体

- 各種団体は、活動を情報提供すると共に、地区公民館や自治会で実施される健康づくり活動に協力、参加する。
- 各種団体は、健康づくりに関する情報を収集すると共に、地域に発信していく。
- 各種団体は、職場等において、自発的に健康づくり活動に取り組み、また必要な情報交流を行う。

### 市

- 地区公民館や自治会を中心に、市民が協力し健康づくりを進められるよう、市の情報や分析結果、健康づくり情報等を提供し、気運の醸成及び支援に努めます。
- 地域の核となる健康づくり推進員の養成と育成、地域のリーダー育成に努めていきます。
- 地域の活動内容が幅広く広報されるよう情報提供等に努めます。
- 地域や団体等への出前講座や健康教育等の充実を図ります。
- 健康づくりについて無関心層への働きかけに取り組みます。
- 健康格差の実態を把握し、その縮小に向けた対策を検討・実施してまいります。

## 【具体的事業】

主な事業等	所管(担当課)
特定健診、長寿健診、がん検診、健康講話・健康教室・健康相談・訪問指導、各健康づくり推進員（保健推進員・食生活改善推進員・運動普及推進員・母子保健推進員）活動、健康情報提供	健康保険課
食の自立支援事業（配食サービス）（再掲）、ふれあいいいききサロン（再掲）、在宅福祉アドバイザー活動事業（再掲）、高齢者・障がい者スポーツ大会（再掲）、高齢者クラブ活動助成事業（再掲）、福祉施設の活用（温泉施設）（再掲）、民生児童委員活動（再掲）	福祉課
地域支援事業（再掲）、地域包括支援センター（再掲）、一般介護予防事業（再掲）、総合相談事業（再掲）、認知症総合支援事業（再掲）、在宅医療・介護連携事業（再掲）、高齢者元気度アップ地域包括ケア推進事業（再掲）	介護保険課
塵芥処理事業（再掲）、渚クリーンナップ事業（吹上浜クリーン作戦）（再掲）、環境調査（再掲）、浄化槽設置整備事業（再掲）	市民生活課
防災・防犯体制整備、広報誌等情報提供事業（再掲）	総務課
交通政策（再掲）	企画課
地域づくり推進事業（再掲）、自治会育成交付金交付事業（再掲）	地域づくり課
ウォーキング教室、妙円寺詣りウォーク、お花見ウォーク、各種地域イベント（せつぺとべ、美山窯元祭りなど）、	商工観光課
グリーンツーリズム推進事業（再掲）、地産地消推進（再掲）	農林水産課
国県道・市道・公園・街路整備事業（再掲）、市営住宅の建替え	建設課
水質管理、環境整備事業、終末処理場維持管理事業	上下水道課
公民館講座、出前講座（再掲）、スポーツの振興（再掲）	社会教育課
子ども支援センター相談事業（再掲）	学校教育課
防災訓練・救命講習会（再掲）、火災予防（再掲）	消防本部

## 【数値目標】

指標	現状値	目標値
地域活動に参加している者の割合	69.8%	75%

## 第6章 計画の数値目標

### 1 QOL(生活の質)

		項目	H27現状値	H38目標値
QOL (生活の質)	健康観	とても幸せ・まあまあ幸せと思う	90.8%	95%
		とても元気・まあまあ元気と思う	86.4%	90%
		生きがいがある	82.3%	90%
		健康である。まあまあ健康である。	84.7%	90%

### 2 健康水準

		項目	H27現状値	H38目標値	
健康水準	全死亡に占める65歳未満の死亡割合		8.5%(H26)	減少	
	65歳以上の要介護認定者率(要支援認定除く)		16.0%	減少	
	標準化 死亡比 (SMR) H21-25	自殺(男)	119.1	100	
		自殺(女)	55.4	減少	
		心疾患(男)	94.6	減少	
		心疾患(女)	99.8	95	
		腎不全(男)	126.6	100	
		腎不全(女)	101.2	95	
		脳血管疾患(男)	102.1	95	
		脳血管疾患(女)	100.7	95	
	項目		県現状値(H27)	H27現状値	H38目標値
	1人当たり医療費(国保)		411,438円	460,145円	県平均以下

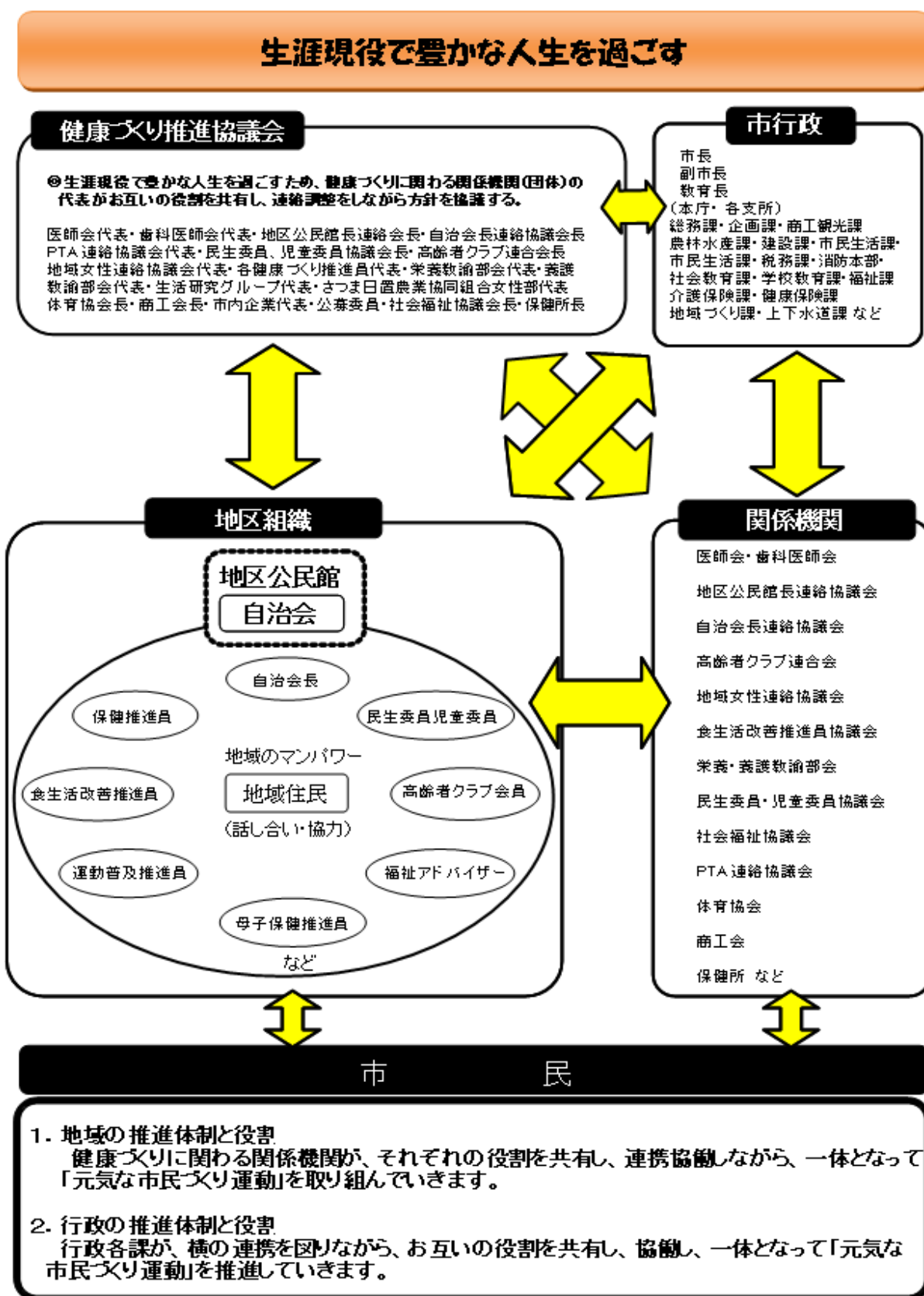
### 3 健康行動

		項目	H27現状値	H38目標値
健康行動	栄養・食生活	肥満者(BMI25以上)の割合(20歳~60歳代男性)	21.9%	15%
		やせの者の割合(20歳代女性)	11.0%	8%
		主食・主菜・副菜を毎食または1日の中でバランスよく食べている者の割合(20歳~50歳代)	49.4%	60%
		主食・主菜・副菜を毎食または1日の中でバランスよく食べている者の割合(60歳以上)	65.1%	75%
		減塩に日頃から気をつけている者の割合(20歳~50歳代)	25.2%	35%
		減塩に日頃から気をつけている者の割合(60歳・70歳代)	54.2%	65%
		夕食後に飲食する者の割合(30歳~50歳代男性)	30.3%	25%
		甘い飲み物(ジュース等)を毎日飲む者の割合(20歳~40歳代男性)	30.5%	25%
		栄養成分表示を参考にしている者の割合	35.0%	50%
		健康や栄養に関する学習の場へ参加する者の割合	13.8%	20%
	身体活動 ・運動	ロコモティブシンドロームについて知っている者の割合	13.2%	80%
		肥満者(BMI25以上)の割合	16.2%	15%
		1日の平均歩数が7,000歩以上の者の割合	14.1%	30%
		定期的に運動している者の割合	31.9%	40%

		項目	H27現状値	H38目標値
健康行動	心・休養	ストレスをおおいに感じる者の割合	17.5%	15%
		気分転換・ストレス解消している者の割合	64.6%	70%
		相談相手がいない者の割合	16.7%	15%
		睡眠を十分・まあまあとっている者の割合	73.7%	75%
	飲酒・喫煙	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(成人男性) (1日当たりの純アルコール摂取量が40g以上)	16.9%	12%
		生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(成人女性) (1日当たりの純アルコール摂取量が20g以上)	19.3%	5%
		男性の喫煙者の割合	32.3%	20%
		女性の喫煙者の割合	6.3%	4%
		職場で分煙を実施している割合	78.1%	100%
		自治会施設で館内禁煙を実施している割合	51.0%	100%
		家庭で受動喫煙機会の割合	14.2%	3%
	歯科・口腔	歯科の定期検診を受けている者の割合	30.8%	65%
		夕食後または就寝前の歯磨きをしている者の割合	79.4%	90%
		70歳代で20本以上自分の歯が残っている者の割合	35.9%	50%
		40歳代における進行した歯肉炎を有する者の割合(歯周疾患検診結果)	30.0%	25%
		虫歯のない3歳児の割合	82.7%	87%
		中学1年生のむし歯本数	1.04本	1.0本未満
	生活習慣病	特定健診の受診率	68.1%	70%
		胃がん検診の受診率	17.6%	50%
		大腸がん検診の受診率	27.3%	50%
		肺がん検診の受診率	22.9%	50%
		子宮頸がん検診の受診率	20.1%	50%
		乳がん検診の受診率	18.5%	50%
		COPDについて知っている者の割合	18.4%	80%
		CKDについて知っている者の割合	21.5%	80%
		メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合(男性)	43.9%(H26)	33%
		メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合(女性)	17.8%(H26)	14%
		高血圧Ⅱ度以上の者の割合	6%(H26)	4%
		糖尿病で治療中の者うちHbA1C7.0以上の割合	32.5%(H26)	22.5%
		糖尿病で治療なしの者のうちHbA1C5.6以上の割合	34.6%(H26)	24.6%
		次世代	低出生体重児の出生率	12.7%
	毎日朝食をとる子どもの割合(小学5年生)		79.1%	90%
	肥満(中等度・高度)の男児の割合(小学5年生)		4.9%	減少
	介護予防	生きがいがある者の割合	82.3%	85%
		外出頻度が週1回・ほとんど外出しない者の割合(60歳代・70歳代)	6.0%	3%
		65歳以上の要介護認定者率	16.0%	減少
		認知症サポーター数	5,874人	8,000人
	地域づくり	地域活動に参加している者の割合	69.8%	75%

## 第7章 計画の推進体制

### 1 「元気な市民づくり運動」推進体系図



## 2 地域の推進体制と役割

### (1)健康づくり(元気な市民づくり運動)推進協議会

- ◎ 生涯現役で豊かな人生を過ごすため、健康づくりに関わる関係（団体）機関の代表がお互いの役割を共有し、連絡調整を行いながら方針を協議する。
- ◎ 行政の健康づくり施策に対して協議し、施策の見直し等について検討する。
- ◎ 必要な課題を掲げ、自分・家庭でできること、行政・関係機関でできることの具体的な役割を協議し、決定していく。

各委員は、日頃より健康づくりに関心を持ち、健康に関する課題の提言ができるように心がける。

- ◎ 協議会を年2回以上開催し、各関係機関や地区の活動の情報交換を行う。また、協議された内容を各関係機関等に周知する。

### (2)地区組織

#### 地区公民館

- ◎ 地区内の各組織・団体等の連携を強化するために、組織の機能化を図り、地区全体での健康づくりの体制を充実する。
- ◎ 各種行事等において健康づくりに関する内容を取り入れる。
- ◎ 三層構造の観点から、自治会への指導助言体制の確立を図る。

#### 自治会長連絡協議会

- ◎ 自治会の活動状況を把握し、健康づくりに関する情報交換をしながら、「元気な市民づくり運動」の推進を働きかける。
- ◎ 健康に関する知識を身につけ、講習会・勉強会等を開催する。

#### 自治会

- ◎ 自治会組織が率先して健康づくりを推進し、健康の情報交換や情報提供を行う。
- ◎ 保健推進員等と協力して具体的な活動を展開する。
- ◎ 高齢者クラブ等への健康づくりの働きかけを行う。
- ◎ 心身の健康に関心を向けさせ、自治会の広報誌等に予防方法などを取り入れる。
- ◎ 年間事業に「運動」「ふれあい活動」「〇〇の集い」などを計画し実施する。
- ◎ 地域で運動や趣味を同じくするグラウンドゴルフグループ、ミニバレーグループなどのグループをつくる。

#### 保健推進員

- ◎ 研修会等で健康づくりへの知識を深め、自治会や地域の健康づくり活動に協力する。
- ◎ 各種検診等の受診勧奨を行う。
- ◎ 地域の健康問題に気を配り、健康づくり教室等を自治会長等と協力して開催する。

### **食生活改善推進員**

- ◎ 正しい知識と技術を持って、食生活改善を中心とした健康づくり活動を進める。
- ◎ 栄養・運動・休養の調和を基本とする健康づくり活動を支援する。
- ◎ 生活習慣病を予防するための良い食習慣を、実践を通して普及・定着を図る。
- ◎ 肥満・貧血をなくし、健康水準の向上に努める。

### **運動普及推進員**

- ◎ 行政、関係団体と連携を図り、運動普及活動に努める。
- ◎ 日常生活の中で簡単にできる体操の普及を図る。
- ◎ 定年後の方々に運動の楽しさを知ってもらうように働きかける。
- ◎ 市民歌体操や筋ちゃん広場の普及啓発を図る。

### **母子保健推進員**

- ◎ 妊娠中・乳幼児期から、心身の健康づくりができるよう学習を深め、地域で支援する。
- ◎ 母子保健の問題点、課題等を地域の中で周知していく。
- ◎ 地域の母親の相談相手になる等、日置市で子どもを育てたいと思うような支援を行う。

### **民生委員・児童委員**

- ◎ 地域見守り活動の中で安否確認、健康観察及び相談活動・支援活動を通して、市民の健康づくりや食育推進活動への参加の勧奨を行う。
- ◎ 各種検診等の受診勧奨を行う。
- ◎ 各団体と連携を密にしながら、いきいきサロンへの参加の輪を広げ、地域活動への定着を図る。
- ◎ 訪問給食、食の自立支援、転倒防止、引きこもり、体づくり、子育て支援等、福祉事業団体と連携、調整し具体的活動を展開する。

### **福祉アドバイザー**

- ◎ 高齢者宅への訪問活動やグループ活動の中で、在宅福祉サービスや健康づくりに関する情報を提供する。
- ◎ 高齢者の閉じこもりや介護予防のための活動に協力する。
- ◎ 地域の健康づくり活動に高齢者が参加しやすいように声かけなど行う。

### **高齢者クラブ連合会**

- ◎ 会員の拡大、組織の充実を図り、健康・友愛・奉仕の三大運動の推進を通して楽しい健康づくり活動により、医療費の削減、介護予防と明るい地域社会づくりに貢献する。

### 地域女性連絡協議会

- ◎ 健康づくり活動の研修に参加し、健康の大切さについて、地域へ広めていく。
- ◎ ふれあい運動会、グランドゴルフ大会等を主催し、健康づくり活動に努める。
- ◎ 高齢者の閉じこもり防止のため、いきいきサロンの開催や協力を行う。
- ◎ 子育て支援活動、高齢者への声かけの運動等を行う。

### (3)その他の関係機関

#### 医師会

- ◎ 病気の検査・治療など医学的なことの相談を積極的に支援する。
- ◎ 市民からの健康に関する相談等に気軽に相談できるようにする。
- ◎ 最新の医療情報等について、情報提供を行う。

#### 歯科医師会

- ◎ 歯科診療、歯科検診等を通じて、歯・口腔の健康に関する知識の普及啓発を行う。
- ◎ 歯科検診、歯周疾患検診など市や関係機関と協力し、市民の虫歯予防を図る。
- ◎ 市民からの歯の健康に関することに気軽に相談できるようにする。

#### 学校（栄養・養護部会）

- ◎ 学童期から早寝・早起きなど基本的な生活習慣が定着するように、家庭への指導を行う。
- ◎ 身体・心の健康づくり、心の健康づくり活動を推進する。
- ◎ 給食の中で、食の大切さについて指導を行う。

#### PTA連絡協議会

- ◎ 地域の行事やイベント等に積極的に参加し、健康づくり活動を推進する。
- ◎ 各学校で掲げている「早寝・早起き・朝ごはん」のスローガンを基に、家庭での規則正しい生活習慣を推進する。
- ◎ スポーツ活動への積極的参加で体力向上と心身の向上に努める。

#### 保健所

- ◎ 医師・保健師・管理栄養士等による衛生教育及び健康相談を行う。
- ◎ 事業、計画の評価及び助言、支援を行う。
- ◎ 地域の健康課題に関する調査・分析及び情報の提供を行う。
- ◎ 地域の保健医療福祉等関連機関との連絡調整を図る。
- ◎ 自然災害発生後の健康被害発生防止及び有事における健康危機管理を行う。



## 商工会

- ◎ 快適な職場と働く人々の安全と健康な心身を確保し、生活習慣病の予防や健康保持・増進を図るため、医療機関や労働関係機関等と連携を図りながら、市内各事業所を対象に各種健康診断や健康教育の普及・推進に努める。
- ◎ 職場環境の改善や福祉厚生施設等の整備のための指導・助言を行い、健康管理や労働安全衛生に対する意識の高揚を図る。
- ◎ 農産物や加工品等の地産地消を推進し、地場企業の育成を図るとともに、市内各学校や公共施設への安心・安全な食の提供に努める。
- ◎ 各種スポーツやレクリエーション活動など市民参加型のイベントを主催し、市民の健康づくりを支援する。
- ◎ 生涯を通じた健康・体力づくりの推進、次代を担う青少年の健全育成、勤労者の健康確保、市民の余暇活動の充実、潤いと活力のある地域づくり等々に貢献するため、関係機関との一層の連携強化を図る。

## 社会福祉協議会

- ◎ 市民参加による福祉活動、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを積極的にすすめ「元気な市民づくり運動」の一助とする。
- ◎ 高齢者・独居老人等の健康づくり（地域支援システム（見守り活動）・高齢者在宅給食サービス事業による安否確認と自立支援）を支援する。
- ◎ 障がい者の健康づくり（スポーツ大会・福祉大会・集い等）を支援する。
- ◎ 介護予防活動を通して健康づくり（いきいきサロン・ゲートボール等）に努める。
- ◎ 介護事業を通して健康づくり（デイサービス等）に努める。
- ◎ 社協事業全般、及び市民活動を通して健康づくり（広報活動・社会福祉大会等・文化活動の開催・ボランティア活動・心配事相談）を支援する。

## 体育協会

- ◎ 市民の「健康」への関心が高まりつつある中、スポーツ、レクリエーションを通じた健康・体力づくり及び仲間づくりの取組みを支援する。
- ◎ 各地域でスポーツ教室等を実施し、健康づくり活動を推進する。
- ◎ 「生涯スポーツ」の振興を図るため、指導者の育成・確保・競技力の向上に努める。

## 生活研究グループ

- ◎ 安心安全な産物を提供、加工して地域に勧めていく。また、地域の特産品売り場等を通してその活動を進める。
- ◎ 「健康は食から」ということを家庭、地域で進めていく。

### 3 行政の推進体制と役割

#### (1)各課の「元気な市民運動」についての役割

##### 健康保険課

- ◎ 少子化への対策、医療費の削減に取り組み、生涯現役で豊かな人生を過ごすために、地区、自治会、市民、そして関係各課と連携を図り、「元気な市民づくり運動」を推進する。
- ◎ 特定健診をはじめ、各種健(検)診の受診率向上のために、受けやすい体制づくりと普及啓発を進める。
- ◎ 生涯を通じた保健事業の推進と地域での「元気な市民づくり運動」を支援していく。

##### 福祉課

- ◎ 子ども・子育て支援事業の役割を担い、質の高い幼児期の学校教育・保育及び地域の子ども子育て支援事業を総合的かつ計画的に進める。

##### 介護保険課

- ◎ 高齢者がたとえ要介護状態になっても、可能な限り住み慣れた地域において継続した生活が送れるよう、医療・介護・福祉・予防・住まい・生活支援サービスを包括的・継続的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を図る。
- ◎ 介護予防である「筋ちゃん広場」を全自治会に普及し、高齢者が身近に集える居場所・生き場所づくりを目指す。
- ◎ 認知症サポーターの養成やキッズサポーターの養成を通じ、子どもから高齢者まで地域が一体となった認知症施策を目指す。

##### 市民生活課

- ◎ 住民の健康被害に対処するため、各種公害の発生状況の把握と未然防止のための監視活動を行う。
- ◎ ごみ拾いなどボランティア活動への支援、参加呼びかけを行いながら、健康づくりはもとより環境保全を市民と一体となって推進していく。
- ◎ 住民の生活環境を改善するため、浄化槽設置事業を行い生活排水の浄化に努め公共用水の水質向上を図る。

##### 総務課

- ◎ 「広報ひおき」やホームページ等を活用した情報提供を行う。
- ◎ 市民への住民サービスを行うためには、職員一人ひとりが健康であることから職員個々の健康を確保するため、メンタルヘルス対策や安全衛生教育を推進し、職員が誇りと生きがいを持ち、気持ちよく働ける職場を実現する。

## 企画課

- ◎ 人口減少が進む中、市民が安心・安全に生活でき、また、歴史的財産や自然資源、観光資源等を生かした交流・定住人口の増加を図る。

## 地域づくり課

- ◎ 自治会長連絡協議会等と連携して、同協議会の定例研修会等において、元気な市民づくり運動について、自治会長への理解を深めるとともに、自治会専門部等を通じた啓発を図るための機会を構築する。
- ◎ 元気な市民づくり運動などを位置付けて地区公民館が取り組む地区振興計画の策定及び、市や多様な主体との協働事業等による課題解決や専門部活動、仕組みづくりを支援する。
- ◎ 多様性に富んだ活力ある暮らしを支える地域づくりの推進により、市民の一人ひとりが、健康で豊かな生活が営める地域性環境の整備とワークライフバランスを推進する。

## 商工観光課

- ◎ 関係機関と連携し、各地域イベントを利用した健康づくりを推進する。特に妙円寺詣りウォークリー及びお花見ウォークについては、健康づくりのため市民参加型を目指す。
- ◎ 日置市内の温泉資源の活用を推進し健康づくりを図る。
- ◎ シルバー人材センターの機能を強化し、高齢者の雇用・就労の機会の創出を目指す。
- ◎ 消費生活相談をとおして市民福祉部と連携し、こころの健康づくりを図る。

## 税務課

- ◎ 国民健康保険税の収納率向上を目指し、国民健康保険(財政)事業の健全な運営に努める。

## 特別滞納整理課

- ◎ 低所得者や滞納者の生活状況に応じた納付交渉を行うとともに、他課、関係機関との連携を図り、福祉的支援、心の健康にも配慮した対応に努める。

## 農林水産課

- ◎ 日置市内に設置されている物産館や直売所等に出荷する高齢者組合員の生きがい・元気づくりを推進する。
- ◎ 学校給食に地元産食材を活用し、生産者と児童生徒との給食交流を通じて、食育推進に努める。
- ◎ 都市と農村との交流を農村地域が主体となって積極的に進め、農村地域における環境にやさしい農業の推進や地域活性化を図る。

## 建設課

- ◎ 道路や歩道の安全性の確保。特に夜間に安全にウォーキングできる歩道の整備を図る。
- ◎ 歩道等のバリアフリー化を図る。
- ◎ 人にやさしい住環境整備に努める。
- ◎ 都市公園整備では、バリアフリー化を行うなど、すべての人が利用しやすい公園への整備を進め、園路の整備等によりウォーキングなどにも対応した公園の整備に努める。
- ◎ 街路整備においては、バリアフリーの歩道の設置を進める。

## 上下水道課

- ◎ 安心で安全な水道水の供給に努める。
- ◎ 下水道は、居住環境の改善や公衆衛生の向上を図り、快適な生活環境を確保するための施設の一つであるとともに、公共用水域の水質を保全するための都市における根幹的な施設であり、環境への負荷が少ない循環型社会を形成し、安らぎと潤いのある豊かなまちづくりを推進する。

## 社会教育課

- ◎ 各地域中央公民館講座及び地区公民館講座における健康づくり講座を積極的に推進する。
- ◎ 市内の社会体育施設の充実を図り、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでもすべての人がスポーツを楽しめるようスポーツ教室や各事業を実施し生涯スポーツの普及・推進を図る。
- ◎ 総合スポーツクラブ「チェスト」の活動について、広報等による周知を図り健康づくりの機運を高める。

## 学校教育課

- ◎ 風格ある教育の一つ「文と武の両立を重んじる教育」の一翼を担う「武」、つまり、心身の鍛練を図る児童生徒を具現化するために、基本的生活習慣の確立、基礎体力の向上、食に関する指導の充実、心の健康に関する指導の充実に努める。

## 消防本部・消防署

- ◎ 市民がお互いに助け合う（自助・共助）安全で安心な街づくりを進める。（市民の防災・救急体制の整備）
- ◎ 救命率向上につながる適切な処置とAEDを使用した心肺蘇生法等、応急手当のさらなる普及啓発に努める。
- ◎ 住宅用火災警報器の設置率向上及び維持管理指導により、悲惨な住宅火災の減少を目指す。

(2)各課の健康づくりに関する事業

課	担当係	関連する事業名	事業目的内容
健康保険課	健康づくり係	健康づくり推進対策事業	市民自らが健康づくりに取組むための各種推進員(食生活改善推進員・運動普及推進員)の育成と地域づくりのための環境整備を図る。日置市健康づくり推進協議会の開催。地域の元気な市民づくり運動推進・支援を行う。
		がん検診等事業	各種がん検診を実施し、がんの早期発見・早期治療を目指す。
		健康教育事業	生活習慣病の予防、健康増進等に関する普及啓発活動により、「自らの健康は、自ら守る」という意識を高め、健康の保持増進と生活習慣改善や心の健康づくりについて支援する。
		健康相談事業	個別相談に応じ、健康に関する問題等についての専門的なアドバイス等を行い、家庭における日常生活面での健康管理、生活習慣病の予防及び健康増進に資することを支援する。
		訪問指導事業	保健指導が必要と認められる者及び家族に対して、保健師等が訪問し、必要な指導や助言を行い、心身機能の低下防止と健康の保持増進を図る。
		自殺対策事業	心の相談会、こころの健康づくり講演会の開催、サロン等でのうつ病に関する知識の普及・啓発活動を行い、自殺者の減少を目指す。
	健やか母子係	母子保健事業	母子健康手帳交付や育児相談、乳幼児健診、歯科検診、訪問等を通して、妊娠期や子どもの頃からのよりよい食習慣や生活リズムづくりのための教育や支援を行う。
	国民健康保険係	特定健康診査事業	40歳～75歳を対象として、内臓脂肪型肥満に着目した健康診査を行い、健康の保持に努める必要がある者に対しては計画的に動機付け支援、積極的支援といった「特定保健指導」を行う。
		糖尿病等重症化予防事業	糖尿病性腎症重症化予防プログラムや糖尿病重症化予防教室等を実施し、慢性腎臓病等の重症化予防を図る。
		国保データヘルス計画	データ分析を基に効率的・効果的に健康の保持増進、疾病予防、生活の質の向上等を図る。
		がん検診助成事業	国保被保険者を対象に受診費用の助成を行い、受診しやすい体制づくりに努め、早期発見、治療による医療費抑制を図る。
		人間ドック助成事業	国保被保険者を対象に、人間ドック受診費用の助成を行い、受診しやすい体制づくりに努め、早期発見、治療により医療費抑制を図る。
	予防係	感染症対策事業	感染症予防に対する正しい知識の普及を図り、感染症発生時には、適切な対策を行う。
		予防接種事業	伝染病の恐れのある疾病の発生、インフルエンザ等のまん延を防止するため、予防接種を行い、公衆衛生の向上を図る。また、予防接種による健康被害の迅速なる救済を図る。
		医療体制の確保	在宅当番医制事業や共同利用型病院運営事業を活用し、休日や夜間等における地域住民の救急医療の充実を図る。
福祉課	子ども福祉係	日置市子ども・子育て支援事業計画	日置市子ども・子育て支援事業計画参照
	長寿福祉係	食の自立支援事業(配食サービス)	高齢者の在宅支援を行う。
		ふれあいいきいきサロン	高齢者の生きがい対策・閉じこもり予防を行う。
		在宅福祉アドバイザー活動事業	独居老人への声かけ・安否確認を行う。
		高齢者・障がい者スポーツ大会	高齢者・障がい者がスポーツを通して心身共にリフレッシュを図る。
		高齢者クラブ活動助成事業	高齢者の生きがい対策・閉じこもり予防を行う。
		福祉施設の活用(温泉施設)	温泉を活用した健康づくりを推進する。
介護保険課	地域包括ケア推進係	一般介護予防事業	高齢者が要介護状態にならず自立した日常生活を営めるように、おもいを使った筋力体操を主とした体操を住民主体で行う「筋ちゃん広場」を全自治会に普及する。
		認知症総合支援事業	認知症の理解を深めるために、子どもを対象としたキッズサポーター講座、地域の方や金融機関等民間企業の方を対象に認知症サポーター養成講座を行う。
	地域包括ケア推進係 介護予防支援係	総合相談事業	高齢者に関する総合相談窓口の機能を担う。
	介護予防支援係	在宅医療・介護連携事業	医療・介護・福祉・保健が一体となり、市民が住み慣れた地域で自分らしい生活を継続できるよう連携体制を構築する。その一環として、子どもから高齢者までかかりつけ医を持つ事が出来るよう、理解を深められるよう取り組みを行う。
高齢者元気度アップ地域包括ケア推進事業		高齢者を含む地域の任意団体が行う互助活動に対しポイントを付与し、高齢者の生きがいづくりや介護予防の推進を図るとともに、高齢者を地域全体で支える地域包括ケアの推進を図る。	

課	担当係	関連する事業名	事業目的内容	
市民生活課	環境1係	塵芥処理事業費	環境問題を地球規模で考え、市民へのごみの分別徹底を図り、再資源の有効利用を促進しごみの焼却処分を削減することにより、CO2の発生による地球温暖化の抑制を行い、環境にやさしいまちづくりを目指す。	
		渚クリーナップ事業 (吹上浜クリーン作戦)	毎年2回各地域で吹上浜クリーン作戦を実施し、ウミガメが上陸しやすい海岸線の環境美化と合わせて住民ボランティアの参加によりこころとからだの健康づくりを担う。	
	環境2係	環境調査	事業場における騒音・悪臭調査や、河川等の水質検査を行い、公害の発生の未然防止に努めることで、住民の健康被害にあわないように努める。	
		浄化槽設置整備事業	住民の生活環境を改善するため、浄化槽設置事業を行い生活排水の浄化に努め、公共用水の水質向上を図る。	
総務課	秘書広報係	情報提供事業	「広報ひおき」やホームページ等を活用した情報提供	
企画課	企画開発係	企業誘致対策事業	企業に対して、従業員の健康づくりを推進するよう情報提供し、特定健診の受診率向上につなげる。	
		交通政策	日常生活に必要な利便性が高く、持続可能な公共交通網の構築を図り、地域の活性化と高齢者等の外出機会を増やす。	
地域づくり課	地域づくり係	地域づくり推進事業	地区の公共的課題について、地区公民館が多様な主体や市と協働により解決する。	
		自治会育成交付金交付事業	自治会活動の維持・存続の原動力となる会員の健康づくりをはじめ、地域自治の活性化を図る活動を支援する。	
	男女共同参画係	男女共同参画推進事業	生涯を通じた心身の健康づくりと、多様な生活形態の支援を男女共同参画の視点で推進する。仕事・家庭生活・個人の自己啓発を、希望する配分で活動できるワークライフバランスの構築により、健康な生活づくりの環境整備への相乗効果を図る。	
		日置市女性センターの運営	心身の健康をはじめ、生き方や仕事、子育て等のさまざまな情報の受発信や相談、語り合いの場として、性別に関係なく利用できる拠点として設置する。	
商工観光課	ゆーぷる吹上	ウォーキング教室	腰や膝に負担のかからない水中ウォーキングによる健康づくりと仲間づくりを行う。	
	商工観光係	妙円寺詣りウォークリー	20kmコース、10kmコースを設け、参加者それぞれの体力に合わせ、自然と歴史を満喫しながら歩くことにより健康増進を図る。	
		お花見ウォーク	春爛漫の薩摩街道に咲きほころぶ桜を満喫しながら城山公園までの距離を歩くことにより健康増進を図る。	
		各種地域イベント	せつぺとべなどの伝統行事や美山窯元祭りなど周辺地域を散策しながらの健康づくり	
		日置市特産品ブランド推進事業	日置市産の食材を活用した特産品や加工品を開発推進することにより安全安心な食品等を提供する。	
税務課	市民税係 管理収納係	国保税収納率向上対策	臨戸訪問による個別相談 国民健康保険税(滞納繰越)の収納率目標、対前年比0.1%増	
農林水産課	農政係	かごしまの食交流推進事業	農村地域に伝わる四季の郷土料理や菓子作りを通じて、児童生徒との交流を図る。	
		グリーン・ツーリズム推進事業	日置市内農村地域で体験できる農作業や収穫体験を通じて、食の大切さや農村環境の素晴らしさを提供し、癒しの食農教育につなげる。	
		地産地消推進	日置市内に設置された直売所等には、多くの地元産品が出荷されている。今後、高齢者等の農産物生産出荷による生きがい促進を図る。	
建設課	管理係	国県道の整備	歩道の設置及びバリアフリー化の要望	
	土木建設係	市道の整備	安全で健康に配慮した環境整備、歩きやすい道路の整備	
	都市計画係	建築係	市営住宅の建替え	健康に配慮した快適な住環境の整備
		公園整備事業	手軽なウォーキングやジョギングへの利用に対応するため運動公園外周等を利用した園路の整備を図る。	
		街路整備事業	街路整備とあわせた歩道等のバリアフリー化により利便性の向上を図る。	
上下水道課	上下水道工務1係	水質管理	水質検査計画による適切・確実な水質管理	
	上下水道工務2係	環境整備事業	公衆衛生の向上と、トイレの水洗化、台所、風呂場などから排出される生活排水や工場などから出る排水を下水管へ流し、処理場で処理することにより悪臭の無い環境と都市部の浸水対策を図り、清潔でさわやかな生活環境の改善を図る。	
	下水道管理係	終末処理場維持管理事業	河川へ流す放流水の管理(水質検査等の充実)を行うことにより、河川の水質悪化を無くする。	
社会教育課	社会教育係	公民館講座の開設	健康づくりに関する講座の開設、自主講座としての育成	
	スポーツ振興係	スポーツの振興	1 スポーツ教室の実施 2 体育協会に登録のある各競技団体の育成 3 社会体育施設の充実による利用促進	

課	担当係	関連する事業名	事業目的内容
学校教育課	学校教育指導係	管理職研修会	校長、教頭に対して、児童生徒及び職員の継続した運動の実践、充実した食に関する指導、基本的な生活習慣の確立等について説明し、全校体制で取り組めるようにする。
		栄養教諭等による食に関する指導の充実	栄養教諭が、担当地域の学校に出向き、その専門性を生かして直接指導することで、児童生徒の食に関する知識・理解を高めるとともに、食を大切にしていこうとする意欲を高めさせる。
		体育指導法・実技講習会	小・中学校の教員が、体育学習の実践事例等を発表し合いながら、日々の体育指導を充実させる。また、教師自身が自ら体を動かすことで、効果的な指導法改善について研究し、児童生徒への体育指導に生かす。
		日置市子ども支援センター	健康保険課・福祉課と連携し、幼児から中学生までの育児・教育・福祉などについての課題を抱える保護者・教師・保育者に対して、子育てを支援する。
消防本部	消防本部警防係	防災訓練・救命講習会	家族隣人はもとより、地域住民がお互いに助け合えるように、防災訓練・救命講習会の普及、啓発に努める。
	消防本部予防係	火災予防	火災予防グラウンドゴルフ大会において高齢者とふれあい、いきがいと楽しみを感じてもらい、住宅用火災警報器の役割及び消火器の取り扱い説明等を行い、防火意識を高めてもらう。市民への住宅用火災警報器の設置及び維持管理の指導。

#### 〈職員の健康管理〉

総務課	人事給与係	相談及び迅速な対応体制の整備	メンタルヘルス、セクシャルハラスメント等の対策は、日頃から相談体制に加え、迅速な対応が重要である。人事評価の面談等を通じて日頃から相談しやすい体制を作る。
		メンタルヘルス研修 (課長、課長補佐、主査以上)	部課のストレスに気付くためのポイントを学び、上司として部下の抱える個々のストレスに対処するだけでなく、メンタルヘルスに強い職場の作り方の手法について習得する。
		在庁時間調査	所属長が職場の実態及び個々の健康を把握するとともに、事務分掌の見直し等を行い働きやすい職場環境を作る。

